

JICA中部

2017年度 開発教育指導者研修 報告書



独立行政法人国際協力機構
中部国際センター（JICA中部）

研修の様子～第1回 開発教育指導者研修(実践編) <6月>



▲全体アイスブレイキング「親指アンケート」



▲自己紹介「ものローグ～今大切にしているもの」



▲多文化共生の社会づくり



▲もしも気温が2度上がったら？<派生図>

研修の様子～第2回 開発教育指導者研修(実践編) <7月>



▲じゃがいもさんとおともだち



▲価値観は多様！4つのコーナー



▲貧困（飢餓）の原因<フォトランゲージ>



▲貧困解決のためにできること<リストアップ>

研修の様子～第3回 開発教育指導者研修(実践編) <8月>



▲全体アイスブレイキング「参加者アンケートを考えよう！」



▲学びの柱の目的と工夫<二次元軸表・カード式整理法>



▲教師海外研修報告 (パラグアイ)



▲実践！ファシリテーション！&ふりかえり

研修の様子～第4回 開発教育指導者研修(実践編)/実践報告フォーラム2018 <2月>



▲第4回研修における受講者実践の共有



▲フォーラムにおける実践報告ポスターセッション



▲フォーラムにおけるテーマ別ワークショップ



▲フォーラムにおける教師海外研修報告 (エチオピア)

I 開発教育指導者研修の概要

■ 開発教育指導者研修の目的

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、開発途上国の現状や日本との関係に関する「知見の還元」および自分に何ができるかを「考える機会の提供」、地域における「橋渡し役」に重点を置いた開発教育支援を実施している。JICAの国内機関である中部国際センター（以下、「JICA 中部」）は、中部地域（愛知・岐阜・三重・静岡）における開発教育支援として、①JICAが直接受け手に対して指導等行う事業（国際協力出前講座、JICA施設訪問プログラム等）と、②開発教育に取り組む担い手を育成するもの（教師海外研修、開発教育指導者研修）を実施している。特に、指導者育成の事業においては、①初めて開発教育に取り組む人材を対象とした開発教育指導者研修（初級編）と、②より中核的な指導者となることが期待される人材を対象とした開発教育指導者研修（実践編）、及び③教師海外研修を実施し、それぞれの事業を有機的に結びつけることにより相乗効果の拡大を図っている。

このうち、開発教育指導者研修（実践編）は、中部地域における開発教育の中核的な指導者を育成すること、かつ指導者間の連携強化およびネットワーク形成を行うことを目的として、①開発教育の理論や具体的な教材事例、参加型学習の理論および実践方法（ファシリテーション）等の指導法の体系的な学習、あるいは②実際の開発途上国への訪問による開発途上国の実情および日本の国際協力の状況に対する理解の促進および教育材料の収集等のための研修を実施している。

また、研修受講者は、学校・地域等における教育現場において自主的に開発教育を展開する他、JICAの開発教育指導者研修（初級編）において指導を行うなど、地域の開発教育の中核的存在となることが期待されている。



開発教育指導者研修・教師海外研修プログラムの「学びの好循環」

■ 「実践編」の概要

- (1) 日時 第1回 2017年6月10日(土) 13:00~17:08 - 11(日) 10:00~15:17
 第2回 2017年7月15日(土) 13:00~17:07 - 16(日) 10:00~15:17
 第3回 2017年8月26日(土) 13:00~17:17 - 27(日) 10:00~17:20
 第4回 2018年2月10日(土) 10:00~18:00
 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2018 (以下「実践報告フォーラム2018」)
 2018年2月11日(日) 10:00~16:30
- (2) 場所 JICA 中部 なごや地球ひろばセミナールーム
- (3) 対象 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、教育委員会、自治体関係者、NPO/NGO、JICA ボランティア OB/OG など
- (4) 運営委託先 (特活) NIED・国際理解教育センター
- (5) 後援 愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、静岡県教育委員会、名古屋市教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会
- (6) 参加者数 39名(うち16名は教師海外研修参加者)、他JICAスタッフ等も参加
 実践報告フォーラム2018:126名(一般参加者)
- (7) 参加費 無料
- (8) 講師 (特活) NIED・国際理解教育センター代表 伊沢令子
- (9) 内容 テーマ、ねらい、プログラムは、次のとおりである。

テーマ「ESD (持続可能な開発のための教育) とグローバル人材」

- 開発教育・国際理解教育の目的・内容・進め方と、ESDを始めとする他の教育との関連性を理解する。
- 「知り・考え・気づく」場の提供と、「自己肯定感」「コミュニケーション力」「参加・協力」の力を育てることを通して、人の行動変容を支える「参加型」についての理解を深め、習熟する。
- 人がよりよく学び、よりよく変わることに寄り添う「ファシリテーターの役割」とそのための手立てを確認し、習熟する
- 3回までに学んだことを基に、各自の現場で開発教育・国際理解教育のプログラムを実践し、その成果と課題を第4回に持ち寄り共有し、よりよい質の教育(BQOE[※])につなぐ。
- 1年間に及ぶ本研修の成果を、仲間と共に一般の人々に向けてフォーラムで発表することを通して、次なる担い手を増やし、「学びの好循環」を作る。

※BQOE...Better Quality of Education

◆ 第1回：『開発教育・国際理解教育がめざすもの』

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② 課題を掘り下げる前に、自分とは何か、自分は社会とどう関わっているのかを明らかにする。
- ③ グローバル社会の現状を理解し、自ら考え行動するたえに役立つ「学び」と「学び方」を学ぶ。

◆ 第2回：『開発教育・国際理解教育にできること』

- ① 持続可能なよりよい未来を共に築く教育である開発教育・国際理解教育の学びの柱を理解する。
- ② 社会のよりよい変化のために「知り、考え、気づき、動く」をつなぐ教育の必要性を確認する。
- ③ 課題解決とビジョン実現に必要なスキルと、スキルビルディングに役立つことを考える。

◆ 第3回：『開発教育・国際理解教育のすすめかた』

- ① 流れのあるプログラムの作り方について学び、参加型手法を習熟する。
- ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ③ ファシリテーターの役割とよりよい参加型の進め方についてポイントとなることを確認する。

◆ 第4回：『開発教育・国際理解教育をつなげよう』

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型する準備を行い、次へとつなぐ。

◆ 実践報告フォーラム2018『ヒントが見つかる！仲間に出会える！』

- ① 【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ② 【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得る。
- ③ 【主催者】国際理解教育・開発教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ 「初級編 (愛知県)」の概要

- (1) 事業名 2017年度愛知県開発教育指導者研修 (初級編)
- (2) 日時 2018年2月17日 (土) 13:30~17:30
- (3) 場所 JICA 中部なごや地球ひろば
- (4) 主催 独立行政法人国際協力機構 中部国際センター
- (5) 参加者 17名
- (6) 参加費 無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：「世界とつながるって、仲間とつながることなんだ」

- ① 基調講演「国際理解教育の視点」
講師：(公財)名古屋国際センター 林 敏博 氏
- ② 参加型手法・ワークショップ
講師：中部BOOE研究会
- ③ 講評 (公財)名古屋国際センター 林 敏博 氏
- ④ ふりかえり、諸連絡、アンケート記入

■ 「初級編 (岐阜県)」の概要

- (1) 事業名 2017年度岐阜県開発教育指導者研修 (初級編)
岐阜県総合教育センター「国際理解教育講座 (海外派遣)」
- (2) 日時 2017年8月25日 (金) 9:30~16:00

- (3) 場 所 岐阜県総合教育センター
 (4) 共 催 岐阜県総合教育センター (岐阜県教育委員会)
 (5) 参加者 23名
 (6) 参加費 無料
 (7) 内 容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：国際理解教育講座

- ① 講義Ⅰ「JICA ボランティア現職教員特別参加制度の活用方法」
 ～青年海外協力隊体験談～
 講師：岐阜県立郡上高等学校 教諭 中間 優希
- ② 講義Ⅱ「パネルトーク」
 パネリスト：岐阜県立郡上高等学校 教諭 中間 優希
 関市立下有知中学校 教諭 吉田 麻里子
 JICA 中部連携推進課 専門嘱託 倉坪 久美
- ③ JICA よりお知らせ
- ④ 国際理解教育ワークショップ
 ～教師海外研修、開発教育指導者研修（実践編）の活用と実践を通して～
 講師：関市立下有知中学校 教諭 吉田 麻里子
- ⑤ 研修まとめ

■ 「初級編（三重県）」の概要

- (1) 事業名 2017年度開発教育指導者研修 in 三重（初級編）～今日から使える！国際理解のススメ～
 「実践に学ぶ 国際理解教育研修」～多文化共生の視点から～
- (2) 日 時 2017年8月1日（火）13：00～16：30
- (3) 場 所 三重県松阪庁舎6階大会議室
- (4) 主 催 JICA 中部、三重県、三重県教育委員会
 （「三重県総合教育センター研修」（三重県教育委員会）、「平成29年度国際理解教育
 研修」（三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課）との協働事業）
- (5) 参加者 25名
- (6) 参加費 無料
- (7) 内 容 テーマ、プログラムは以下のとおり

テーマ：今日から使える！国際理解のススメ

- ① アイスブレイキング
- ② ワークショップ1「みんなでつながる！」
 講師：桑名市立久米小学校 教諭 清水 歩美
- ③ ワークショップ2「自分の目で確かめ、考えよう！私たちはみんな同じで、みんな違う」
 講師：名古屋市立守山東中学校 教諭 佐藤 仁美
- ④ 質疑応答
- ⑤ 主催者からの事業案内

■ 「初級編 (静岡県浜松)」の概要

- (1) 事業名 国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座 2017 (全4回連続講座)
- (2) 日時 第1回 2017年10月8日(日) 13:00~17:00
第2回 2017年10月21日(土) 13:00~17:00
第3回 2017年11月12日(日) 13:00~17:00
第4回 2017年12月2日(土) 10:00~17:00
- (3) 場所 クリエイト浜松 (公財) 浜松国際交流協会)
- (4) 主催 JICA 中部、(公財) 浜松国際交流協会、はままつ国際理解教育ネット
- (5) 参加者 全4回合計88人
- (6) 参加費 各回500円(初回まとめて4回申込みの場合1,500円) *学生、HICE会員無料
- (7) 内容 テーマ、プログラムは以下のとおり

第1回「世界を知り、考えるためのアクティブ・ラーニング」

学校・社会・家庭で役立つ『国際理解教育』と『アクティブ・ラーニング』について考える。

第2回「地域に住む外国人とうまく暮らしていくコツ!？」

中央大学文学部教授、日本社会科教育学学会会長の森茂岳雄氏を特別講師として招き、移民の定義や歴史について学ぶ。

第3回「浜松から「世界」を発見 ～まち歩き付き～」

多文化共生の基本を知り、浜松の街を歩いて、身近な課題について考える。

第4回「あなたも今日から国際理解教育ファシリテーター」

ワークショップを行う上で身に付けておきたい参加型手法やワークショップづくりのコツについて学び、オリジナルのワークショップを作成する。

II 開発教育指導者研修(実践編) 第1回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2017年6月10日(土) 13:00～17:08、11(日) 10:00～15:17
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 受講者数：[1日目] 受講者 37名、JICA 4名、NIED 7名、オブザーバー5名 合計 53名
[2日目] 受講者 37名、JICA 3名、NIED 6名、オブザーバー4名 合計 50名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第1回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育がめざすもの

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② 課題を掘り下げる前に、自分とは何か、自分は社会とどう関わっているのかを明らかにする。
- ③ グローバル社会の現状を理解し、自ら考え行動するために役立つ「学び」と「学び方」を学ぶ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 6/10 13:00-14:33

1. 主催者挨拶／本研修の目的および概要説明／スタッフの紹介 13:00-[11]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言し、続いて JICA 中部市民参加協力課課長高坂が主催者を代表して挨拶し、JICA の活動、開発教育の位置づけ、研修を通じて受講者に期待することなどについて伝えた。
- ◇ JICA 中部のスタッフ、各県市の国際協力推進員、NIED のスタッフが、それぞれ挨拶を行った。

2. 1年間の指導者研修のポイントと第1回のねらいの確認 13:11-[17]

- ◇ JICA 倉坪職員が、2つの研修（開発教育指導者研修・教師海外研修）の位置づけと目的・内容、および、JICA 中部の開発教育・国際理解教育の支援の内容とその活用方法について説明した。
- ◇ 本研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、本研修の参加型での進め方について、レジュメを基にファシリテーターが説明し、確認した。



3. 全体アイスブレイキング①～親指アンケート 13:28-[09]

- ◇ まずは受講者同士が知り合うために、2種類のアイスブレイクを行った。
- ◇ 全員の顔が見えるように、輪になるように並んだ。ファシリテーターが、円は対等な関係性を表すレイアウトであることを伝えた。
- ◇ ファシリテーターが出す質問に対して、YESなら親指を上にして手を上に上げ、NOなら親指を下にして腕を下げ、どちらでもなければ体の前に腕を出す形で答えを示した。

＜ファシリテーターが出した質問＞

①今日は元気だ ②夏は好きだ ③カレーは激辛が好き

- ◇ 言葉を発するよりもジェスチャーで示す方が、場に対する参加のハードルが低いことを振り返り、指で意思表示するアクティビティは、この場に慣れるための工夫であったことをファシリテーターが伝えた。



4. 全体アイスブレイキング②～4つのコーナー 13:37-[09]

- ◇ 会場に4つのコーナーを作り、ファシリテーターが出す質問に対して当てはまる場所に移動した。4つのどれにも当てはまらない場合は、会場中央のスペースに移動した。

＜ファシリテーターが出した質問と4つのコーナー＞

- ① 所属…教員、行政、JICA関係、学生
- ② どこから参加しているか…愛知、岐阜、三重、静岡、その他
- ③ どのような立場か…指導者研修のリピーター、海外研修受講者パラグアイ・エチオピア、それ以外または初参加
- ④ 現職の経験年数は…5年未満、5年～15年、15～25年、25年～35年
- ⑤ 自分は何系か…体育会系、音楽・美術・文学系、グルメ系、おたく系



- ◇ ファシリテーターから、5つの質問全て同じグループだった人はいたかを問いかけ、人は多様であることを確認した。
- ◇ ファシリテーターコメント…切り口が変われば印象が変わるように、人は多面的にできている。いろいろな角度から知り合い、より良い関係を築いていけると良い。

5. グループアイスブレイキング①～ものローグ 13:46-[23]

- ◇ 言葉を使わずに、名前が50音順に輪になるように並び、「あ」から順に4人ずつのグループになり、指定のテーブルに着席した。
- ◇ A4用紙に、個人で今自分が大切にしている物（物質的な物）を10個書き出し、中でも特に大切なものTOP3を選んだ。
- ◇ 向かい合う人同士でペアになり、選んだ3つをテーマに自己紹介を行った。
- ◇ グループメンバーに向けて、ペアの相手が話した内容を他己紹介した。



6. グループアイスブレイキング②～つながりの中の自分 14:09-[24]

- ◇ A4用紙に、個人で今の自分とつながりのある人や物、場所（所属）を線でつなげて書き出し、「つながりマップ」を作った。
- ◇ 作業を通して分かったことと、作業の感想を、グループ内で伝え合った。
- ◇ グループ内での感想を全体に発表し、共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…人も社会も、見ていだけでは分からないし変わらない。関わることで、分かることや変えられることがある。社会に興味関心を向けるためには、まずは身近な他者に関心を持ち理解することが大切。他者に興味を持つためには、自分に関心を持ち理解することが大切。この研修で、自己理解、他者理解、国際理解を行き来しながら理解を深めていく。



● セッション2 「自分と世界のつながり」 6/10 14:33-17:08

1. グローバルビンゴ 14:33-[22]

- ◇ ファシリテーターが1～9の番号を振り、指定の番号の机に移動しグループ替えを行った。
- ◇ 自分と世界とのつながりが項目となっているビンゴシートを配付。個人で確認し、自分が答えられると思う質問に印をつけた。

＜ビンゴカード項目例＞

- ・南米の曲の名前を知っている
- ・カレー以外のインド料理を食べたことがある
- ・ヨーロッパにある世界遺産を知っている
- ・外国の人とインターネットで通信した
- ・友だちが外国に今行っている
- ・日本に住んでいる外国人と友達だ など

- ◇ 会場を立ち歩いてペアを作り、質問をし合った。同じ人に2回聞かないというルールの下、答えを得た質問に○をつけ、回答を書き込み、ビンゴができればグループに戻り着席した。
- ◇ ビンゴシートに書かれた質問テーマに、グループで自己紹介を行った。
- ◇ ペアワークとビンゴシートの回答を振り返り、印象に残っている人についてグループで伝え合い、受講者全体の情報を共有した。



2. モノを通した世界とのつながり

2-1. パーム油クイズ 14:55-[13]

- ◇ ファシリテーターが、キーワード（ポテトチップス、アイスクリーム、シャンプー、フレッシュ、クッキー、パン、化粧品）を板書し、共通点がパーム油であることを確認した。
- ◇ 資料『モノを通した世界とのつながりクイズ』を配付。グループで話し合い、答えを考えた。

<クイズ> Q1：世界で最も多く使われている植物油脂は何でしょう？日本では？
 Q2：日本に輸入されるパーム油はどこ国のものが多いでしょう？
 Q3：日本に輸入されたパーム油は何に一番多く使われているでしょう？
 Q4：パーム油はなぜ多くの製品に利用されているのでしょうか？

- ◇ 資料『解説 パーム油』を配付。個人で読み、パーム油についての基礎知識を共有した。

2-2. パーム油をめぐる課題と対応 15:08-[22]

- ◇ 資料『パーム油関連資料①～⑤』を配付。1人1種類を担当し、3つの視点（①何についての資料か、②資料から見えること、③最も印象に残ったこと）で読み、ポイントとなることをグループ内で伝え合い、内容を共有した。

<資料> ① パーム油プランテーションとミナーの暮らし ④ プランテーションと環境問題
 ② サラワク開発会議・パーム油と私たち ⑤ プランテーションと社会問題
 ③ パーム油問題を考える

- ◇ ここまでの流れを振り返り、参加型で課題を知り、考えるための応用展開と役立つ作業を、ファシリテーターからレクチャーした。

<応用展開と役立つ作業>

- ・パーム油クイズの後…パームヤシの木と実、実の収穫、パーム油製造過程について、実物や写真、映像を見る。
- ・資料『パーム油関連資料①～⑤』を読み、内容を共有した後…課題をリストアップする、問題の原因や背景を因果関係図で探る

- ◇ ファシリテーターコメント…最終的に、問題を解決するために有効なことは何かを見出すところに到達したい。課題を共に解決していく力をつけることが開発教育・国際理解教育の目的。

2-3. 消費者としてできること／ダイヤモンドランキング 15:30-[15]

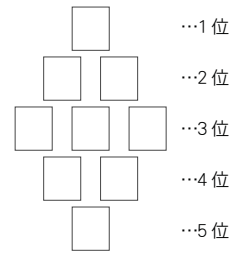
- ◇ 消費者の私たちにできる17の選択肢が書かれた『できることカード』を配付。個人で、課題解決に有効だと思うことの順位づけをした。選択肢以外に思いつくことがあれば、新たにカードを作り、ランキングに加えた。

<できることカード 17の選択肢>

- | | |
|---|---|
| 1. 家族や友人にパーム油の話を伝える
2. パーム油についてインターネットや資料を通して調べる
3. 仲間を集めて勉強会を開き、解決策を考える
4. 買い物をするときにその商品の表示を確認する
5. ものを無駄に使わない。リサイクル・リユースできるものを使う
6. レトルト食品やインスタント食品の消費を控える
7. パーム油を使用している商品は一切購入しない
8. 牛脂や廃油石鹸を使う
9. TVのコマーシャルからのイメージを鵜呑みにしない | 10. ミナーや熱帯林のことを常に心にとめて生活する
11. シャンプーの回数を減らす
12. 現地に行って実際の様子を見てくる
13. 日本の食品会社や洗剤会社に問題提起をしてみる
14. パーム油について活動している環境保護団体（NGO）などの活動に参加・支援する
15. 選挙のときに環境保全や人権を大切に人々や政党に投票する
16. 新聞に自分の意見を投稿する
17. 企業に対して、生産者の労働環境や環境問題を考慮して買い付けるように提案する |
|---|---|

- ◇ ファシリテーターコメント…問題を解決するためには、知るだけでなく、自分にできる事を考えることが大切。既存のリストから選んだり他者の考えを聞いたりすることで、解決策のアイデアが広がる。誰かを搾取していないかどうかを考えて物を選ぶのも、消費者としてできること。課題を生んだり荷担したりする側ではなく、解決する側に回る意識を育もう。

＜ダイヤモンドランキング＞
 自分の価値観を振り返り、他者の傾向を知るときに役立つ手法。優先順位順に、1位1つ、2位2つ、3位3つ、4位2つ、5位1つというようにダイヤモンド型にランキングをする。



－ 休憩 － 15:45－[14]

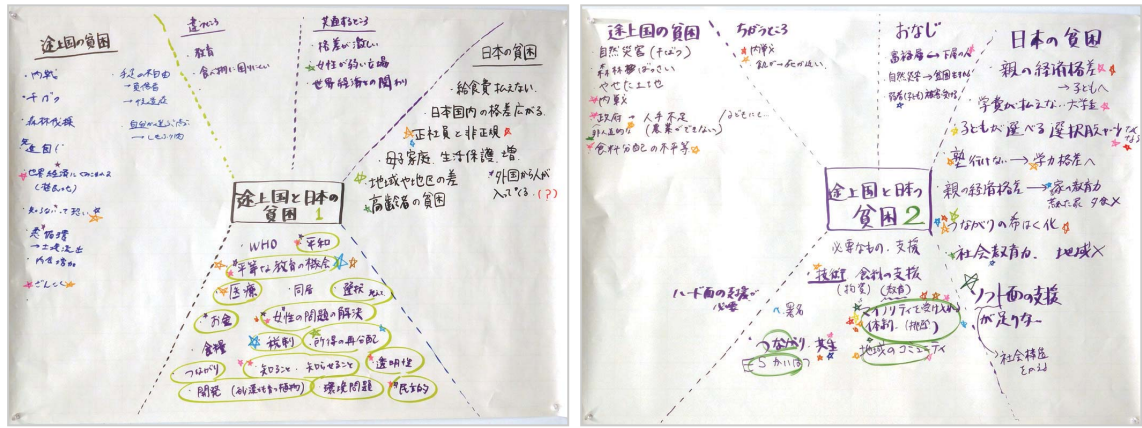
3. 途上国の貧困・日本の貧困 15:59－[54]

- ◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が左右のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ 動画『飢える国・飽食の国』を、日本との共有点、相違点を意識しながら視聴した。
- ◇ 模造紙を4つに区切り、次の4つの視点を順に考え、グループで意見を書き出した。
 - ① 途上国の貧困の現状と原因について、動画を見て分かったこと・気づいたこと
 - ② 日本の貧困の状況や原因について、知っていること・思い浮かぶこと
 - ③ 途上国の貧困と日本の貧困について、違うところ・共通するところ
 - ④ 貧困状態から脱するために必要なもの・支援
- ◇ ④必要なもの・支援のうち、どの国でも共通して必要なものに○をつけた。
- ◇ 模造紙を回し読みし、共感した意見に☆印をつけた。



【「貧困の現状と背景4つの視点」成果例】

- ① 途上国の状況や原因について、分かること・気づいたこと
 - ・生死に関係する ・紛争・内戦→国民の犠牲、負傷による手足の不自由・後遺症 ・子どもが犠牲
 - ・子どもが育たない ・人手不足 ・技術不足 ・非人道的な政府 ・世界経済に組み込まれる（植民地）
 - ・国力のある国の犠牲 ・国の権力者の責任－政治的背景 ・先進国による影響・搾取 ・食糧分配の不公平
 - ・構造的格差・仕組み ・情報不足 ・衣食住の不足 ・病院不足 ・教育水準 ・生活の変化により生まれる貧困
 - ・気候の影響 ・干ばつ ・環境破壊 ・自然災害 ・人口増加→食料不足 ・栄養不足 ・負の連鎖
 - ・貧困層がさらに貧しくなっている
- ② 日本の貧困の状況や原因について、知っていること・思い浮かぶこと
 - ・雇用問題（非正規雇用・ワーキングプア・リストラ）→社会復帰困難 ・職業格差 ・所得格差
 - ・晩婚・未婚化 ・少子高齢化社会 ・シニアが子世代を養う ・高齢者の貧困 ・女性の社会進出の低さ
 - ・社会保障制度が不十分 ・必要とする人に必要な情報が届かない ・子ども6人に1人が貧困
 - ・家庭環境（DV・ネグレクト） ・親の経済格差→子どもへ影響 ・塾に行けない→学力格差 ・学歴格差
 - ・学費が払えない・奨学金が返せない大学生 ・世代をまたぐ負の連鎖 ・子どもが選べる選択肢が少なくなる
 - ・家族・地域つながりの希薄化 ・地域の差 ・社会教育力 ・心の貧困 ・貧困層がさらに貧しくなっている
- ③ 途上国の貧困と日本の貧困について、違うところ・共通するところ
 - ＜違うところ＞ ・戦争・内紛 ・飢餓→死が近い ・干ばつ ・食料不足 ・命 ・人口増減 ・途上国の絶対的貧困 ・日本の方が個人の問題とみなされている
 - ＜共通するところ＞ ・弱者（子ども）が被害・犠牲、子どもへ影響 ・仕事の有無 ・経済格差 ・教育格差
 - ・病院不足（日本は地域による） ・女性の社会進出の低さ ・世界経済との関わり ・森林伐採
 - ・負の連鎖 ・世代間の連鎖 ・構造的、環境的貧しさ
- ④ 貧困状態から脱するために必要なもの・支援（どの国も共通して必要なもの）
 - ・平和 ・最低限の生活保障 ・物資・食料支援 ・平等な教育の機会 ・福祉の充実 ・医療へのアクセス
 - ・女性問題の解決 ・お金（あげる・貸す・低金利） ・構造改革 ・所得の再分配 ・民主的 ・透明性
 - ・仕組みづくり ・技術開発 ・一緒に取り組んでくれる人 ・取り組みの継続性・支援者へのサポート
 - ・草の根レベルのつながり ・地域のコミュニティ ・マイノリティを受け入れる体制 ・共生
 - ・情報をシェアする ・考えて選択 ・環境問題解決



◇ ファシリテーターコメント…☆印は、他者から共感してもらった印。肯定的な反応があると、場が活性化しやすい。人は、より楽しく自由な雰囲気の中で、より学べると言われている。

4. 1日目のふりかえり 16:53-[10]

- ◇ 2日目のプログラム概要をファシリテーターから伝えた。
- ◇ 1日目を振り返り、気づきや発見、感想を、グループの中で一言ずつ発表した。

5. 事務連絡 17:03-[05]

- ◇ 第2回研修時の宿泊について、事務局より連絡を行った。
- ◇ 愛知県国際協力推進員より、JICA イベント「とよはし地球体験学校」の紹介を行った。
- ◇ JICA 中部 倉坪職員より、2日目終了後の海外研修説明会について、懇親会についての案内・連絡を行った。

★ 17:08 終了

● JICA TIME 6/11 10:00-15:17

1. JICA TIME 10:00-[18]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行った後、JICA の開発教育支援について、冊子『JICA 中部 開発教育・国際理解教育支援メニュー』を基に説明を行った。



● セッション3 「共に生きる社会～多文化社会に生きる」 6/11 10:18-11:51

1. 1日目のふりかえり、自己紹介～名刺で自己紹介 10:18-[24]

- ◇ 1日目の流れと内容をファシリテーターが説明し、2日目のねらいとプログラム内容を確認した。
- ◇ A4用紙を4つに区切り、1マスの名刺に見立て、4つのテーマ（①自分にお似合いの漢字1文字、②自分の得意なこと・長所、③研修参加の動機、④自分の人生で大切にしていること）について自分の回答を書き出し、自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…この研修では、様々な種類の自己紹介を行う。人間は多面的にできているため、ある一面だけで人を判断するのではなく、いろいろな角度や視点から知ることによって他者理解につながる。国についても、同じ事が言える。また、自己紹介は、今まで考えたことのない視点で自分を見つめるため、自己理解も深める。



2. みよし町中華街構想～多文化共生の社会づくり/ロールプレイ 10:42-[69]

- ◇ 次の手順で、異なる意見を持つ者同士で問題解決方法を探るアクティビティを行った。
 - ① 資料『多文化社会に生きる ロールプレイ設定』をグループに配付。ファシリテーターが読み上げ、場面設定を確認。

＜場面設定＞「みよし町」という架空の町のロールプレイ。みよし町の一角を中華街にする構想が持ち上がり、地元住民の間で議論が起きている。市役所商業振興課の要請で、問題解決のための関係者会議を行うことになった。あなたはその集まりに出席する1人。

- ② ロールプレイ役割カードA～Fを配付。1人1枚取り、自分の役割を確認する。
- ③ カードの役割になりきって自己紹介した後、その役割のまま、中華街構想についてどう思うか、どのような解決策があるかを話し合う10分間の会議を行う。

＜役割カード概要＞

- A：安井さん（42歳・みよし町がある市役所の商業振興課課長）…中華街構想がグルメ雑誌やTVで取り上げられたことをきっかけに、市役所への問い合わせが増え困っている。
- B：趙さん（38歳・中華街構想を進めている在日中国人・みよし駅北口にて中国食材店経営）…ここを小さな中華街にできれば、同郷の人達はきっと喜ぶ。外からお客さん呼び込んで町も発展するのではないかと。
- C：山口さん（65歳・みよし北口商店会会長・北口商店街入口にて本屋経営）…中華街構想は本当に迷惑。商店街活性化には自分達なりの構想がある。中国系の人が空き店舗で店を構えること自体は、商店街がシャッター通りにならなくてよかったとは思っている。
- D：王さん（60歳・上海飯店の店主）…親の代からこの町に住み、偏見や差別などを経験した。今では国籍を意識することなく近所同士仲良く暮らしている。中華街構想で、昔のように日本人と外国人の感情的な対立がおきるのはと本当に心配している。
- E：遠藤さん（32歳・地元小学校PTA役員）…中華街構想は、町の活性化につながり、子どもを持つ身としては防災上も安全。
- F：鈴木さん（35歳・「タウンみよし」誌編集者）…空き店舗を中国人が買収しお店を出したことで活気を取り戻しているように感じる。まちづくりに対して、国籍の差よりも世代間の意識の差の方が問題だと思う。

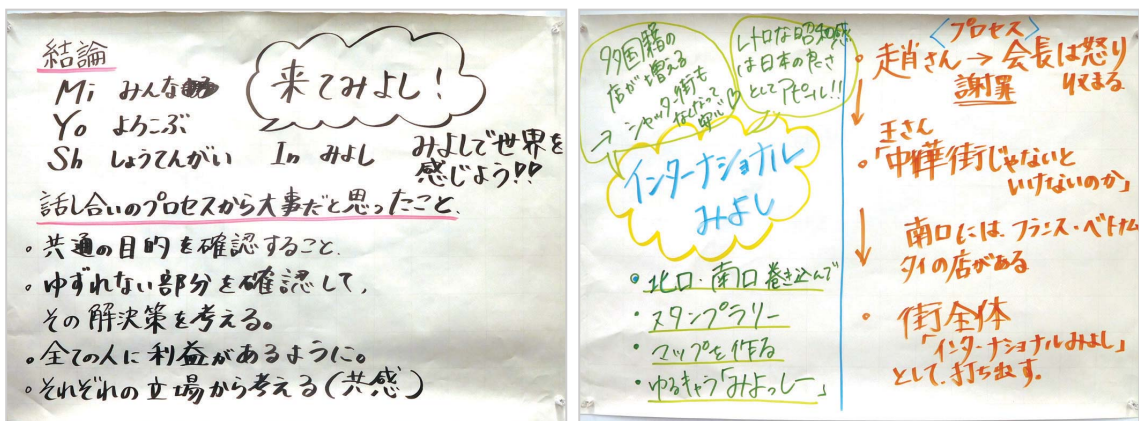
- ④ 「ふりかえりワークシート」に沿って、次の視点で話し合いのプロセスを個人で振り返る。

＜ふりかえりの視点＞

- Q1：あなたの役割は何でしたか？
- Q2：あなたは最初「中華街構想」に賛成の立場でしたか、反対の立場でしたか？
- Q3：ミーティングが終わったとき、あなたの意見は変化していましたか？
- Q4：話し合いの中で最も多く発言したのは誰でしたか？
- Q5：話し合いで、もっとも影響力のあった発言は何でしたか？それは誰が発言した意見でしたか？
- Q6：あなたは、話し合いで積極的に発言しましたか？
- Q7：話し合いでは結論は出ましたか？その結論をあなたは妥当なものと思いますか？あるいは、皆が合意できなかったのはなぜですか？
- Q8：このディスカッションを通して、あなたはどのような感想を持ちましたか？

- ⑤ ワークシートを基に、次の視点「話し合いのプロセス」「合意形成できたか（どこでできたか、どこでできなかったか）」で感想を話し合い、模造紙に「どのような結論に至ったか」「話し合いのプロセスにおいて気づいたこと・大切に思ったこと」を、グループで書き出す。
- ⑥ 書き出した内容を、全体へ発表する。

【「みよし町中華街構想問題解決に向けた話し合いの結論」成果例】



【「話し合いのプロセスにおいて気づいたこと・大切だと思うこと」成果例】

- ・ 共通の目的を確認する
- ・ 本当に望んでいる形を明確にする
- ・ 起きている問題の共通認識を持つ
- ・ 共通点・共感・よりそうところを探す
- ・ 妥協できる場所を探す
- ・ ゆずれない部分を確認し、その解決策を考える
- ・ 長期的な視点を持つ
- ・ それぞれの立場から考える
- ・ 全ての人に利益があるように考える
- ・ 当事者+外の人（客観的に見ることでできる人）を含めた話し合い
- ・ 激しく対立する意見があると課題がよく見えたかもしれない
- ・ Win-Win の関係を大切に
- ・ 仲間意識を育てる
- ・ 顔を合せて話し合う
- ・ 会に参加してコミュニケーション
- ・ 相手の意見は聞いてみないと分からない
- ・ 聞きながら自分の考えを伝えていく
- ・ 話し方、伝え方
- ・ 当事者になる

◇ ファシリテーターコメント…アクティビティでの体験から分かることがある。模造紙にまとめると意識化でき、意識化できれば日常に応用することができる。

- 休憩 - 11:51-[55]

● セッション4 「共に創る社会～参加して創る私たちのまち～」 6/11 12:46-13:47

1. グループ替え、一言自己紹介 12:46-[08]

- ◇ グループ内でテーブル数分の番号を振り、指定の番号のテーブルに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「お弁当に入っていると“おお～”と思うおかず」というテーマで自己紹介を行った。



2. 私たちのまちづくり～住民参加のまちづくり 12:54-[53]

- ◇ 次の手順で、住民参加のまちづくりの形を考えた。
- ① 「まちづくり住民案の策定」12種類の役割カードのうち、6種類を半数のグループに、残りの6種類を別の半数のグループに配付。1人1枚カードを取り、自分の役割を確認する。

<役割カード>

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1: 母親の介護をしている主婦・女性・50歳 | 7: 在住外国人・女性・20歳 |
| 2: 商店街の美容院店長・男性・32歳 | 8: 路上生活者・男性・58歳 |
| 3: 看護の専門学校生・女性・21歳 | 9: 生活保護を受けている中学生・女性・15歳 |
| 4: 小学校教諭・男性・48歳 | 10: サラリーマン、環境NPO活動家・男性・36歳 |
| 5: 年金生活者・女性・80歳 | 11: 専業主婦・女性・40歳 |
| 6: 小学校3年生・男性・9歳 | 12: 建築を専攻する大学生・男性・20歳 |

- ② カードの役割になりきって、グループで自己紹介を行う。
- ③ カードに書かれた「悩んでいること」と「町の問題として気になっていること」を、役割になりきったまま話し合う。
- ④ 模造紙の中央に、「改善したいまちの課題」と書き、話し合いの中で出た町の課題を黒系のマジックで書き出す。また、派生して起きるような問題があれば線でつなげて記入する。
- ⑤ 書き出した課題をどうしたら解決できるのかを考え、思いつくアイデアを赤系のマジックで書き加える。
- ⑥ 作業を振り返り、住民参加のまちづくりにおいて必要なことをグループで話し合う。



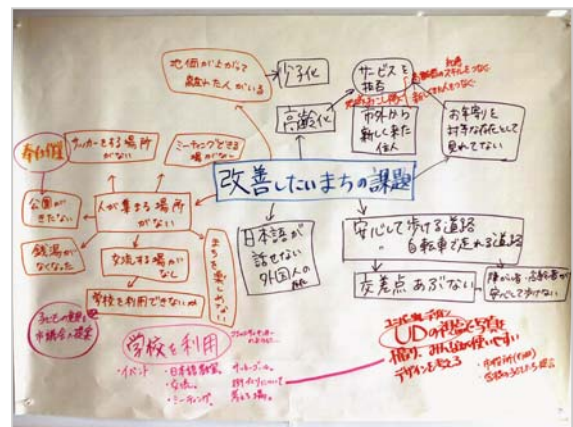
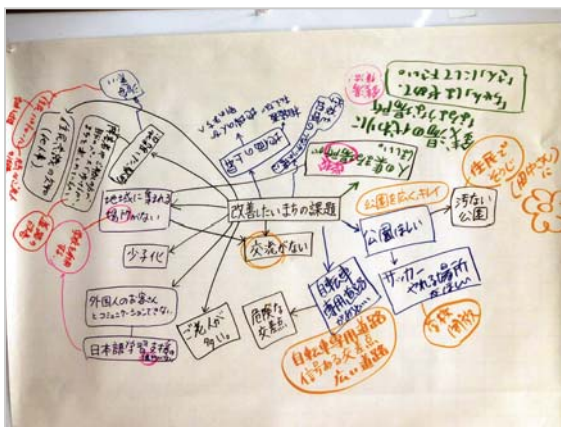
【「改善したいまちの課題と解決に向けたアイデア」成果例】

<まちの課題>

- ・ゴミ ・外国籍の人々とのコミュニケーションが困難 ・社会保障 ・家族 ・公共施設不足 ・学校活用
- ・空き家問題 ・人が集まる場・機会不足 ・地価上昇 ・人の気持ちが町から離れる ・環境・治安・暮らし
- ・町に関心がない←市民参加の仕方が分からない ・いじめ ・ホームレス ・介護福祉 ・格差
- ・交流できる場が少ない ・少子高齢化

<解決に向けたアイデア>

- ・現状を知らないことが課題→回覧板・集会 ・空き家対策に Air B&B ・ハード<ソフト（あるものを活用する）
- ・人をつなぐ場を作る ・楽しめる場→学校活用（日本語学校・カルチャースクール） ・地域おこし隊
- ・ユニバーサルデザインの町 ・古い人と新しい人をつなぐ ・課題の共有→改善のために一人ひとりの特技やスキルを活かして市民に関わってもらう ・ハローワーク ・学習補助 ・ソフト（地域の集まり・お祭り）、ハード（コミュニティセンター・道路）両方からの改善必要 ・行政の力を借りる ・地域住民の力の活用（特に高齢者、日本語支援やパトロール ・銭湯復活



- ◇ ファシリテーターコメント…ロールプレイは、まちづくりに対して当事者意識を持ってもらうために行った。自分達にできることを考え、行動につながるアクティビティとして紹介した。
- ◇ ファシリテーターコメント…まちづくりとは、自分たちのまちのことは自分たちが考えて決め、実行することができる、という手立てと自信を持つことであるとする。私たちの参加の形が、社会の形、そして未来の形を作っている。行政に任せておくのではなく、自分が町に関わることが大切。

- 休憩 - 13:47-[09]

● セッション5 「共通の未来を考える」 6/11 13:56-14:55

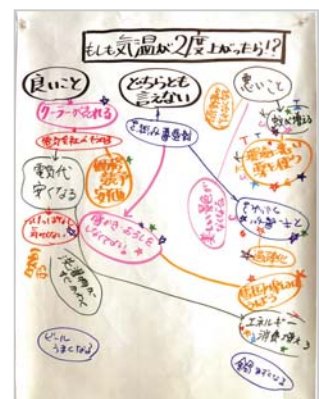
1. グループ替え、一言自己紹介 13:56-[10]

- ◇ 会場を立ち歩き、受講者同士で属性等を紹介し合い、多様なメンバーになるようにグループを作った。
- ◇ グループ内で「私がしている環境に良いこと・悪いこと」をテーマに自己紹介を行った。

2. もしも地球の気温が2度上がったら

2-1. 良い影響・悪い影響を考える 14:06-[20]

- ◇ IPCC（気候変動に関わる政府間パネル）によると、西暦2100年には地球の平均気温が0.3~4.8℃上昇することが予想されているとファシリテーターから伝え、模造紙に「気温が上がって良いこと」「悪いこと」「どちらも言えないこと」を、意見を派生させながら書き出し、関連性があるものは線でつないだ。
- ◇ 「悪いこと」のうち、自分に関わってくると思うものに自分の名前やイニシャルを書き入れた。

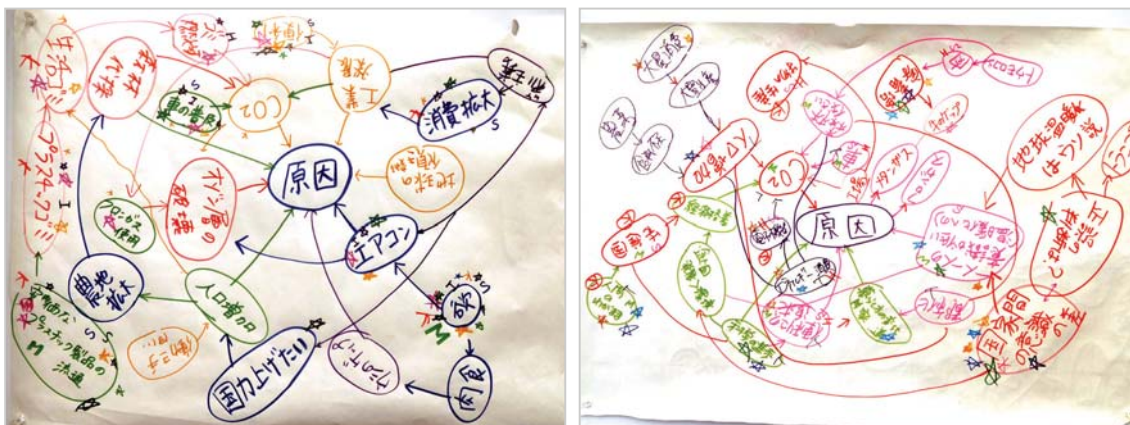


- ◇ 他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で意見を読み、共感・納得したものに☆印をつけた。
- ◇ 他グループの意見のうち、印象に残ったものを自分のグループの模造紙に書き加えた。
- ◇ ファシリテーターコメント…「参加型」とは、一緒にしゃべるのではなく、一緒に考えやすくなるための参加型の手法をたくさん使うこと。参加して考えることでアイデアが広がる。他グループの意見を見ることで別の視点を得られるのは、参加型の良さの一つ。今回意見が出なかったとしても、次は意見が出る。自分で気づいたことは持ち帰ることができる。

2-2. 地球温暖化の原因を考える 14:26-[22]

- ◇ 資料『地球温暖化について』を配付。個人で読んだ後、グループで温暖化の原因を因果関係図で書き出した。
- ◇ 書き出した原因のうち、自分も加担しているかもしれないと思うものに印をつけた。
- ◇ 模造紙を前後のグループで交換し、共感・納得したものに☆印をつけた。

【「地球温暖化の原因 因果関係図」成果例】



<因果関係図>
見通しを持つことが主体的な行動の助けとなるよう、物事の因果関係を考えるときの手法。ある事柄に関して、何が原因かを派生させて考え、模造紙に書き出していく。

- ◇ ファシリテーターコメント…課題を解決するためには、原因を知ることが大切。原因を知れば、それを超えるには何か必要かを考えることができる。
- ◇ 作業を振り返り、課題を解決するステップをファシリテーターがまとめ、他のテーマでも同じように考えられることを伝えた。

<課題解決を考えるステップ>
①現状を知る →②結果や影響を予測 →③テーマに関する情報提供 →④原因を探る
→⑤解決のためにできること・役立つことを考える

2-3. 課題解決のためにできること 14:48-[07]

- ◇ A4用紙に次の表を作り、課題を解決するためにできることを整理して書き出し、グループ内で発表した。

	自分でできること	仲間とできること	国ができること
すぐにできること			
すぐではないができそうなこと			
難しそうだが頑張ればできること			

- ◇ ファシリテーターコメント…日本の子どもたちは、環境問題についてたくさんの事を知っているとされている。だが、それに対して何かしている子どもは少ない。問題を知っているだけでは解決しない。自分が何をすることが課題解決につながるのか、知り考え動く人を育てていこう。

● セッション6 「全体ふりかえり」 6/11 14:55-15:17

1. 開発教育・国際理解教育の目的と育てたい力 14:55-[05]

◇ ファシリテーターから、開発教育・国際理解教育の目的と育てたい力をレクチャーした。

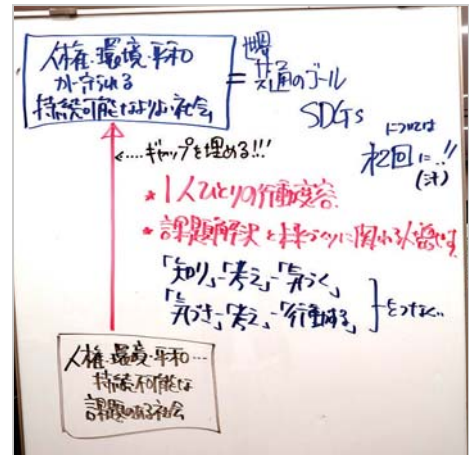
<開発教育・国際理解教育の目的>

人権・環境・開発・共生・平和など、人類共通の課題について理解し、課題を解決しながらよりよい未来を共に創るために、知識だけではなく「力」を育む教育。

<開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力>

- ① わたしに関わる力…自己理解、自己肯定感、自己尊重
- ② あなたに関わる力…コミュニケーション力、他者理解、多様性受容
- ③ みんなに関わる力…参加する、協力する、合意形成・対立解決、アドボカシー（社会的提言）、周りの人を巻き込む

◇ ファシリテーターコメント…力は人にあげることができない。アクティビティを通して、「考える」「伝える」「聴く」「話し合う」「まとめる」「発表する」「協力する」といった作業を行うことで、それぞれの力を身につける機会を提供し、気づきから行動へとつなぐ。理想と現実のギャップを埋めるには人づくりが鍵となる。ビジョンを描いて、そこに向かっていける人たちを育てよう。



2. ふりかえり 15:00-[08]

◇ A4用紙に、この2日間で学んだこと3つと、2日間で使ったスキルを個人で書き出し、グループ内で発表した。

3. 事務連絡 15:08-[09]

◇ 事務局より、研修の記録と報告書への掲載について、ワークショップ中の配付資料について、Eメール連絡体制、メーリングリストの開設、次回からの懇親会について、伝えた。

◇ JICA 中部 倉坪職員より、この研修の受講生が立ち上げた団体間の交流を目的にしたイベント「中部ネットワーク会議」の紹介と参加の呼びかけを行った。

★ 15:17 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

- ・『グローバルピンゴ～こんな人を探そう！』『モノを通した世界とのつながりクイズ』、『パーム油資料②パーム油をとりまく問題』…(特活) 開発教育協会「若者と学ぶESD・市民教育 - グローバル社会に生きる私たち」2014年
- ・『解説パーム油』、『パーム油資料①パーム油プランテーションとミナーのくらし』、『パーム油資料②サラワク開発会議・パーム油と私たち』、消費者のわたしたちにできること選択肢、多文化社会に生きる ロールプレイ設定資料・設定カード、みよし町中華街構想ふりかえりワークシート、ロールプレイ「まちづくり住民案の策定」役割カード、『地球温暖化について』…(特活) 開発教育協会「パーム油の話ー地球にやさしいって何だろう?」2014年
- 『パーム油資料③パーム油問題を考える』…WWF ジャパン「持続可能なパーム油の調達とRSPO」2013年
- 『パーム油資料④プランテーションと環境問題』、『⑤プランテーションと社会問題』…プランテーション・ウォッチウェブサイト <http://plantation-watch.org/>
- ・動画『飢える国・飽食の国』…NHK 地球データマップ

III 開発教育指導者研修(実践編) 第2回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2017年7月15日(土) 13:00～17:07、16(日) 10:00～15:17
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者35名、JICA4名、NIED5名、オブザーブ2名 合計46名
[2日目] 受講者38名、JICA2名、NIED5名、オブザーブ2名 合計47名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第2回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育にできること

- ① 持続可能なよりよい未来を共に築く教育である開発教育・国際理解教育の学びの柱を理解する。
- ② 社会のよりよい変化のために「知り、考え、気づき、動く」をつなぐ教育の必要性を確認する。
- ③ 課題解決とビジョン実現に必要なスキルと、スキルビルディングに役立つことを考える。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 7/15 13:00-14:12

1. 主催者挨拶 13:00-[06]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言し、第2回にオブザーブ参加する JICA メンバーの紹介を行った。

2. 第2回のねらいの確認と開発教育・国際理解教育の学びの柱の確認 13:06-[14]

- ◇ 第1回のねらいと内容をふりかえり、レジュメを基に第2回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。
- ◇ 資料『開発教育・国際理解教育の学びの柱とねらい例』を配付。開発教育・国際理解教育の学びの柱を確認した。

<開発教育・国際理解教育の学びの柱>

- 柱1) 他者、他国と肯定的に出会う～多様性と同一性
- 柱2) 日本と世界とのつながりに気づく・理解する
- 柱3) 共通の課題について共に考え、共に越える



3. 第1回ふりかえり 13:20-[14]

- ◇ 第1回研修の記録を各自読み、第1回の3つのねらいに照らし合わせながら内容を振り返り、ねらいごとの感想をA4用紙に書き出した。

【「第1回ねらいごとのふりかえり」成果例】

<ねらい① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う>

- ・アイスブレイクを通して仲間を知ることができた
- ・他者への興味関心が高まった
- ・まずは自分たちが他者と理解し合うことを楽しもう
- ・いろいろな校種、職種の人と知り合い、実情や課題を知ることができた
- ・様々な立場・目的の人達と打ち解けて学び合えた

<ねらい② 課題を掘り下げる前に、自分とは何か、自分は社会とどう関わっているのかを明らかにする>

- ・自己理解と他者理解、相互の関わりから、社会、世界へと見方が広がった
- ・「自分とは何か」を考える一人の話を聞く大切さ
- ・自分について考える機会がありそうでなかったことに気づいた
- ・商品を買うだけでも世界と関わっている
- ・普段考える余裕が無いため、毎日を大切に生活しなければと思った

<ねらい③ グローバル社会の現状を理解し、自ら考え行動するために役立つ「学び」と「学び方」を学ぶ>

- ・他者の考えや意見を否定しない
- ・アウトプット力、コミュニケーション力、共有力を育む方法を知ることができた
- ・問題を知っているだけでは解決しない。動く力が大事
- ・自ら行動するためには、「知り」→「考える」ことが大切
- ・自分にできることを考える

4. アイスブレイキング～たぶんあなたはこんな人 13:34-[28]

- ◇ グループ内で、自分の右隣の人について4つのテーマ（①好きな色、②子ども時代にはまっていたであろうこと③好きななかき氷の味またはアイスの種類、④夢、これから実現したいこと）を想像してA4用紙に書き出し、他己紹介を行った。
- ◇ 書き出した用紙を本人に渡した。自分に対して書かれた内容が違っていた場合は訂正し、「実は私はこんな人」と自己紹介した。
- ◇ アイスブレイクの前後のグループの雰囲気を振り返り、相互理解のためにコミュニケーションを取ることの大切さと、他者と肯定的に出会う経験を確認した。
- ◇ ファシリテーターコメント…相手に関心を持つために、「想像してみよう」「予測してみよう」という呼びかけが有効である。人は誰でも自分のことを理解してほしいと思っている存在だと言われている。誤解や思い込みをされていた場合、修正する機会があれば肯定的な出会いにつながる。人は、安心できる自由で楽しい場所、開かれた場所で、最も多く学ぶことができると言われている。



5. 自己紹介～第1回のふりかえりと共有 14:02-[12]

- ◇ 3で書き出した第1回の感想をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…事前書き出しと、発言に対する心の準備になり、その場に参加する安心感につながる。

● セッション2 「人と世界の多様性～他国や自国、あなたやわたし、理解するってどんなこと?～」

7/15 14:12-17:12

1. グローバルクイズ 14:12-[24]

- ◇ グループに10カ国20問のクイズを配付、グループで協力して回答を考えた。

<出題国>
 イタリア/インドネシア/ガーナ/カナダ/スリランカ/タイ/
 中国/パナマ/フィリピン/モロッコ

- ◇ ファシリテーターから正解を発表し、答え合わせを行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…私たちが普段得ている情報は、全体のうちの一部分。多角的な情報を知って、自分達とは違う方法もおもしろいと思え、もっと知ってみたいという関心を高めていきたい。
- ◇ ファシリテーターコメント…ある事柄を理解するためには、関心を持つことが第一。学習者が社会的課題を考えるきっかけとして、関心を持てる投げかけができるとう良い。教えるのではなく、関心を引き出すことができるような問いかけを考えよう。自己紹介と同様、予測や想像をするアクティビティによって、関心が高まることを期待できる。



2. グループ替え 14:36-[04]

- ◇ グループ内でジャンケンをし、勝った人と負けた人が移動してグループ替えをした。

3. 地球家族なりきり自己紹介～言われて嬉しいこと／言われたくないこと 14:40-[32]

- ◇ 資料『地球家族』より、グループ人数分の国の写真を配付。1人1枚取り、写真の中の一人になりきり、写真の家族の自己紹介を行った。

＜地球家族＞
世界30カ国の人々の暮らしを撮影した、カメラマンのピーター・メンツェルの写真を使った参加型学習のできる教材。暮らしの道具がわかるように、家財道具を家の外に運び出して撮影されている。小学校での指導案の事例がついている。



＜フォトランゲージ＞
写真を用いて、そこに写っているものからその背景にあるものを想像し、共感的理解を深める手法。1枚または複数の写真を使い、そこに写っているものをじっくりと見たり、写真に対する印象を振り返ったりし、わかること・疑問に感じることを明確にする。それぞれの発見を共有し、そこから言えることを導き出す。あるいは、同じ写真に対して人々が持つ多様な印象を振り返ることで、一人ひとりが無意識に持っている偏見や固定観念に気づききっかけとする。

- ◇ ファシリテーターコメント…自分の知らないことを見て、「何だろう？」と疑問を持つことが関心と理解の入り口になる。異文化理解において、写真は有効なツールである。
- ◇ 「もしも自分がこの国の家族だとしたら」という視点を持ち、言われたら嬉しいことと、言われたくないことや勝手に想像して欲しくないことを一般化して考えた。グループで意見を出し合い、模造紙に書き出し、全体へ発表して共有した。

【 「もしも自分がこの国の家族だとしたら言われて嬉しいこと・言われたくないこと」 成果例 】

<p>＜言われて嬉しいこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲がいい ・幸せそう ・子どもがかわいい ・お父さんかっこいい ・素敵な家族 ・素敵な家 ・家族みんなで一緒に暮らせていい ・おしゃれな家具 ・大切に物を使っている 	<p>＜言われたくないこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう ・貧乏そう ・お母さんが太っている ・家がボロい ・物が少ない ・物が多い ・田舎 ・車ないの？ ・動物の首を飾っていいのかな？ ・人形が怖い ・危険そうな町 ・不便じゃない？
---	---

- ◇ ファシリテーターコメント…国が違って家族が違っていても、気持ちは同じ。それが心の同一性と言える。写真から、世界は多様なことが分かると同時に、気持ちは同じことが分かる。
- ◇ ファシリテーターから、『地球家族』を活用したアクティビティの紹介を行った。

＜アクティビティ紹介＞

- ① 豊かさを考えるアクティビティ…写真を豊かだと思ふ順番に個人でランキングし、グループ内で共有する。その後、グループとして合意できる豊かさランキングを作る。
- ② 環境を考えるアクティビティ…「地球に優しい」または「持続可能な社会」という視点で同様にランキングを作る。

4. ジャガイモさんとおともだち～ジャガイモさんに歴史あり、いわんや人間をや 15:12-[29]

- ◇ A4用紙に個人でジャガイモの絵を描いた。
- ◇ グループに人数分のジャガイモを配付。1人1つ手に取り、そのジャガイモと友達になったと想定して3分間観察し、ジャガイモのストーリーを考え、グループ内で発表し合った。
- ◇ 隣同士のグループのジャガイモを混ぜ、その中から自分が友達になったジャガイモを探し出した。ファシリテーターから、「自分の友達のジャガイモがいない人は？」と問いかけ、見つけ出せなかった人は挙手をした。



- ◇ ファシリテーターから、「あなたのお友達は戦死しました。だからここにはいません。」と伝え、そのジャガイモが人だとして気持ちを想像した。その後、実はファシリテーターが2つのジャガイモを抜いていたことを伝えた。
- ◇ ファシリテーターコメント…今のような、友達が突然いなくなってしまう事が世界で起きている。世界の問題を解

決するには、その人達に心を馳せることが大切である。ジャガイモに感情移入することができるのなら、人間にもできるはず。1人1人が大切な存在であり、その人だけの物語を持って生きている。

◇ グループ内で感想を話し合った。

- 休憩 - 15:41-[10]

5. グループ替えと自己紹介～お似合いのイニシャル 15:51-[10]

- ◇ ファシリテーターが1～8の番号を振り、指定の机に移動しグループ替えを行った。
- ◇ 自分の名前のイニシャルで始まる自分を表す言葉を添え、グループ内で自己紹介を行った。

6. 価値観は多様！4つのコーナー～わたしの当たり前≠世界の当たり前 16:01-[45]

- ◇ 赤の付箋と青の付箋を、それぞれ1人2枚ずつ配付。赤の付箋に「はい」「どちらかといえははい」青の付箋に「いいえ」「どちらかといえはいいえ」と書き、カードを作った。
- ◇ ファシリテーターが出す質問に対して自分の考えに当てはまる付箋を出し、20秒間で各々人の理由を出し合った。



＜ファシリテーターが出した質問＞

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| ① 猫より犬が好き | ⑤ 怒りは表に表さない方がよい |
| ② 今、自分の人生に満足している | ⑥ 千切りキャベツにはソースに限る |
| ③ いじめによる自殺はなくすることができる | ⑦ 課題のある社会だが、世界は良い方向に向かっている |
| ④ 死刑制度には反対だ | |

- ◇ アクティビティから、少数派に入っていたときの気持ち、多数派だったときの気持ち、自分とは違う意見だったが、理由を聞いたなら納得できたときの気持ちなどを振り返り、感想を共有した。
- ◇ 資料『わたしの当たり前=あなたの当たり前?』を個人で読み、世界の多様性を確認した。
- ◇ ファシリテーターコメント…人の価値観は変わる。価値観を育てるために、国際理解教育を行う。片方からの情報だけでは価値観は固まる。賛成か反対かの二項対立を越えるには、両方の立場の考えを知ることが大切。視点を変えて「どんな社会を望むか」を考え、共通点を探ってみてはどうか。

7. 物の見方は枠組み次第～一方向からの情報の危険性 16:46-[10]

- ◇ 資料『子宮頸がんワクチン接種』を配付。個人で読んだ。
- ◇ ファシリテーターから、ワクチン接種を薦めるか薦めないかの質問をし、自分の意見を挙手で表明した。
- ◇ ファシリテーターから、2種類の資料「A：ワクチン接種に賛成」「B：接種に反対」を配付したこと伝え、アクティビティの意図を説明した。
- ◇ ファシリテーターコメント…私たちの判断は、持っている情報で決まり、一方向の情報しか持っていないことはとても危険なことである。情報によって判断が操作されることのないよう、多角的に判断することが大切。

8. 1日目のふりかえり～「理解」に近づくために大切なこと/役立つことは 16:56-[12]

- ◇ ファシリテーターから、辞書にある「理解」の意味を伝えた。

＜理解とは＞
物事の道理や筋道が正しく分かること、または他者の気持ちや立場を察すること

- ◇ 物事を理解するときに大事だと思うことを5つ、個人でA4用紙に書き出し、グループ内で1日目の感想と共に共有した。

9. 事務連絡 17:08-[04]

- ◇ 事務局より、メーリングリスト、宿泊について連絡した。
- ◇ JICA 推進員より、イベント告知を行った。
- ◇ JICA 中部 倉坪職員より、毎日小学生新聞記事紹介、お試し訪問プログラム開催案内、教師海外研修受講者への事務連絡を行った。

★ 17:12 終了

● セッション3 「つながりに気づく・つながりを築く」 7/16 10:00-10:32

1. 自己紹介 10:00-[10]

◇ グループ内で、「自分を季節に例えると」というテーマで自己紹介を行った。

2. こんなところでつながっている日本と世界 10:10-[22]

◇ グループに10ヵ国のつながりカードを配付。日本がどの国とどのようなつながりがあるかを、グループ内で意見を出し合い考えた。



<出題国>
 イラン/ガーナ/カンボジア/コンゴ共和国/サモア/ソロモン諸島/フィリピン/ベネズエラ/マレーシア/モンゴル

◇ 影響カードを配付。そのつながりによって起きている影響を同様に考えた。答え合わせの後、良い影響と問題を生んでいる影響に分けた。

◇ ファシリテーターから、日本と世界とのつながりに気づくアクティビティ例を紹介した。

<アクティビティ紹介>
 ① 教室の中の世界…教室の中で世界とつながっているものを書き出してみる
 ② 今週お世話になったもの…今週1週間で世話になったものを書き出し、そのうち世界とつながっていると思うものに印をつけ、たくさんのつながりがあることに気づく

● セッション4 「人類共通の課題を共に越える！ 貧困問題を考える」 7/16 10:32-12:19

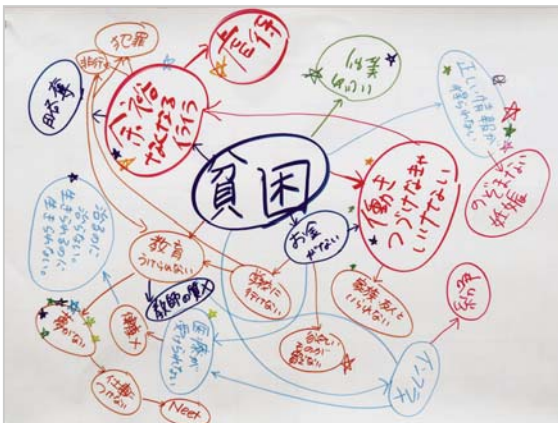
1. 貧困の定義と特徴…派生図→100字解説→貧困の悪循環

1-1. 貧困に陥るとどうなるのか…派生図 10:32-[12]

- ◇ 貧困になるとどのようなことが起きるか、派生的に意見を考え模造紙に書き出した。
- ◇ 「女性」「障がい者」など、視点を変えて考え、意見を追加した。
- ◇ 他グループの意見を自由に見て回る「ギャラリー方式」で共有し、共感した意見に☆印をつけた。
- ◇ 他のグループの意見の中で、自分のグループでは出なかったものを模造紙に書き加えた。

【「貧困に陥ることによって起こること」派生図の成果例】

・正しい情報が得られない ・医療が受けられない ・意欲の低下 ・選択の幅が狭くなる ・夢がない
 ・犯罪 ・薬物 ・児童労働 ・望まない妊娠 ・人身売買 ・人権侵害 ・自殺が増える ・命



1-2. 貧困とは…100字解説 10:44-[18]

- ◇ 貧困とはどのような状況を言うのか、各自受け持っている子ども・生徒に伝えたと想定し、100字程度の文章にした。
- ◇ ファシリテーターコメント…自分の言葉で伝えられるようになるのは、指導者として大切なこと。他の人の文章を聞くと、自分の考えに変化が生まれる。お互いから刺激を受けるのは参加型の特長。
- ◇ ファシリテーターコメント…今の私たちの地球環境は危機的な状況であり、一人一人が何か行動を変えていかなければ、地球環境は持続不可能であると言われている。まずは生存権が守られなければ、他の社会的問題の解決は難しい。SDGsの最初の目的に、「No Poverty」が掲げられている。

1-3. 貧困の構造を考える…貧困の悪循環 11:02-[05]

- ◇ 貧困の悪循環カードを配付。貧困が生み出す問題を連鎖させ、カードを輪になるように並べ、貧困の悪循環を考えた。

<貧困の悪循環カード内容>
 学校に行けない/収入が少ない/働くための技術や能力が身に付かない/仕事ができない/食料が買えない/自分の子どもも学校に行けない/収入の安定した仕事に就けない/病気になりやすい/学校に行く時間がない/読み書きができない/十分な栄養が摂れない/子どもが親の手伝いをしなければいけない



- ◇ ファシリテーターコメント…貧困は悪循環を生み、一旦陥ると自力では抜け出すことが難しい。貧困から抜け出すには、外から、または自分達で悪循環を切るための手立てを考える必要がある。

2. 貧困（飢餓）の原因/フォトランゲージ 11:07-[18]

- ◇ ジャンケンをし、勝った人が席を移動してグループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「100万円あったら何に使うか」というテーマで、自己紹介を行った。
- ◇ 飢餓の状況にある人々の写真『PROFILES OF HUNGER』より、グループに5種類の資料を配付。1人1枚取り、なぜ飢餓状態になったのかを予測し、グループ内で伝え合った。
- ◇ 写真の解説を読み、情報を共有した。

<PROFILES OF HUNGER 『40hours famin キャンペーン』>
 啓発のための写真素材。この写真を見て何とかしなければと思ったら、40時間ごはんを食べるのをやめよう。その分使わなかったお金を寄付しよう。単に寄付を募るだけではなく、飢えや空腹を体験し、この写真の人たちに思いを馳せてと呼びかけたキャンペーン。



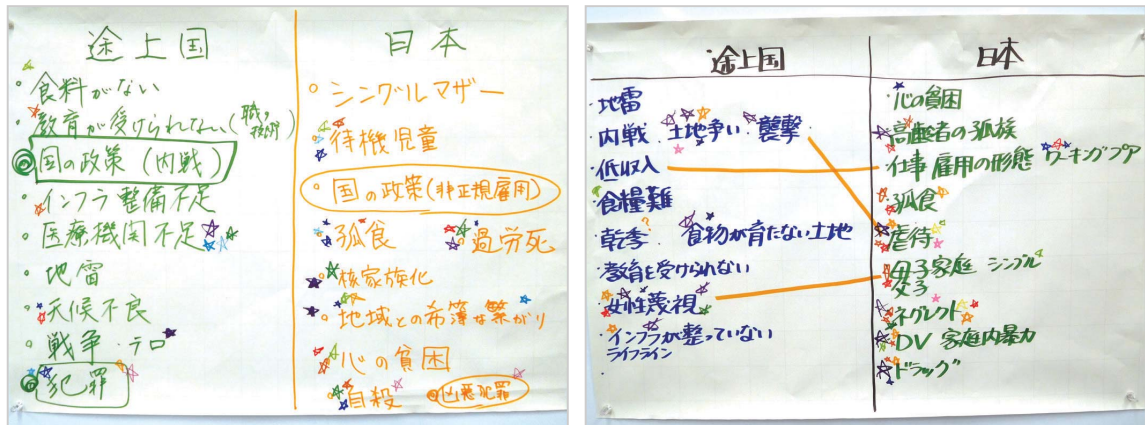
3. 途上国の貧困と日本の貧困 11:25-[15]

- ◇ 途上国の貧困と日本の貧困の原因を、模造紙に対比させて書き出し、途上国と日本で共通しているものを○で囲んだ。
- ◇ 模造紙を回し読みし、自分のチームには出なかった意見に☆印をつけた。

【「途上国の貧困と日本の貧困」成果例】

<途上国の貧困>
 ・国の政策（内戦）・紛争 ・土地争い ・インフラ、ライフラインが整っていない ・格差が激しい ・差別
 ・性差別（女性蔑視） ・富の搾取 ・先進国からの負の影響 ・人口増加 ・食糧不足 ・難民 ・教育の機会がない ・障がい者教育不足 ・福祉が不十分 ・医療機関不足 ・支援が行き届かない ・古い慣習
 ・自然災害

<日本の貧困>
 ・国の政策（非正規雇用） ・格差社会（・経済格差→学力格差・教育格差・職業格差・情報格差・地域格差）
 ・多様性を認められない→差別 ・性差別（女性蔑視） ・高齢者の貧困 ・親の貧困→子どもの貧困 ・少子高齢化 ・障害者の就職・就業 ・待機児童 ・核家族化 ・孤食 ・過労死 ・地域との繋がりが希薄→精神の弱さ ・心の貧困 ・自死 ・自然災害



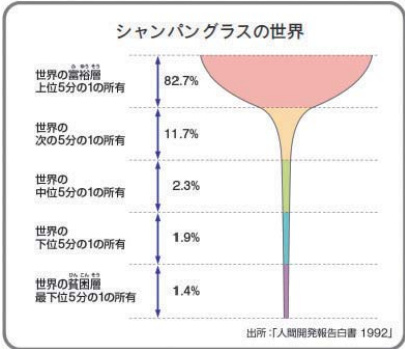
◇ ファシリテーターコメント…課題を解決するためには、原因を知ることが大切。原因が分かれば、それを取り除くための手立てを考えられる。

4. シャンパンガラスの世界と貧困 ～構造的格差を作る貿易と公正貿易 11:40-[22]

- ◇ 資料『富の偏在化～シャンパンガラスの世界』を配付。個人で読み、貧困の現状を把握した。
- ◇ 途上国との関係性の中で、貿易を通して一方的に日本がより経済的に裕福になるにはどのような手法があるか、グループで意見を出し合った。

【日本がより経済的に裕福になるための手法案】

- ・日本は世界から信用されていることを逆手にとって資源をもらう
- ・資源の開発の見込みがあるところに早めに入り権利を独占する
- ・日本にとって不利益な条件を言ってくる国は無視し、自国の利益に有益になる貿易を結ぶ
- ・加工品を高く売りつける・技術を売らずに製品だけ売る
- ・より安く人を雇い、より安く資源を買う
- ・有能な人材を連れてきて帰さない



- ◇ 出した意見から、世界規模の売り買いの中で不平等な貿易が成り立っていること、また、貧困が構造的に作り出されていることを振り返った。
- ◇ 資料『貧困解決のための多様な手立てのひとつ「フェアトレード」』を配付。個人で読んだ。
- ◇ ファシリテーターコメント…構造を変えれば貧困を解決できる。消費者は選ぶ権利がある。生産者の人権が守られ、環境が守られる方法で作られた物を私たちが選ぶことで、構造を変えることにつながる。

5. モロッコのムハンマドさん一家を救え！ 12:02-[17]

- ◇ 資料『ムハンマドさん一家の様子』を配付。一家の状況を把握し、問題を解決するためのアイデアを出し合った。

【「ムハンマドさん一家の問題を解決するためのアイデア」成果例】

- ・ Air B&B でホームステイを受け入れ現金収入を得る ・ 農家で組合を作る ・ 小麦以外を育てる
- ・ 作ったものを売る ・ パンなど付加価値をつけた製品を作る
- ・ 学校に行っている子が行っていない子を教える (学びの場) ・ コミュニティで子守りをするシステムを作る

- ◇ 一家のストーリーとマイクロクレジットの説明をグループで読み、貧困から抜け出す好事例の情報を共有した。
- ◇ 資料『貧困解決のための多様な手立てのひとつ「ビッグイシュー」』を配付。ファシリテーターから実物を紹介した。

- 休憩 - 12:19-[57]

● JICA TIME 7/16 13:16-13:34

1. JICA TIME 13:16-[18]

- ◇ 倉坪職員から、JICA の取り組みについて、中部圏を中心に紹介した。



● セッション5 「人類共通の課題を共に越える！ 貧困解決に必要なもの」 7/16 13:34-14:23

1. 前半のふりかえり 13:34-[06]

◇ ファシリテーターから、前半の内容の振り返りを行った。

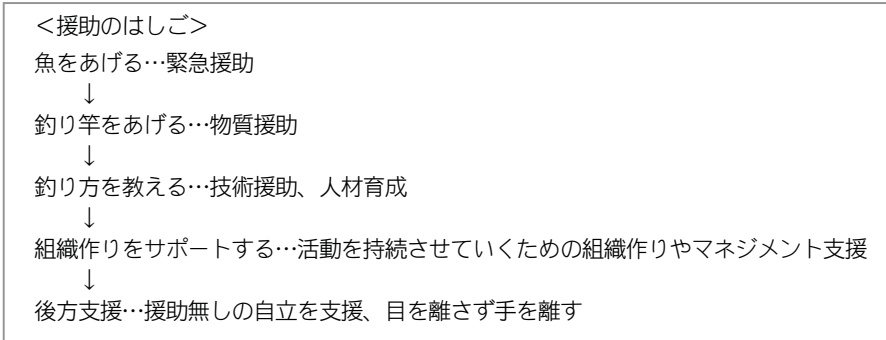
2. バングラデシュを救う9つの方法 13:40-[19]

◇ 資料『バングラデシュを救う9つの方法』を配付。個人で、最も有効だと思うものと最も有効ではないと思うものを選び、グループ内で理由と共に発表した。

＜バングラデシュを救う9つの方法＞

- A: バングラデシュの産物（ジュートや米）を日本に輸入する
- B: バングラデシュの工業基盤を整備するために道路や港湾施設を作るプロジェクトに日本のODAを供与する
- C: 日本の国内においてバングラデシュの実状を正確に伝えるような広報、教育活動を行う
- D: 毎年起きる洪水の時期にバングラデシュに日本の食糧を送る
- E: 農業に代わる産業の技術者を養成するためにバングラデシュから日本に研修生や留学生を受け入れる
- F: 資源や食物を節約するなど日本で私たちの消費生活を見直す
- G: バングラデシュ政府への政府開発援助（ODA）を削減する
- H: バングラデシュの農村開発を行う民間開発団体（NGO）に資金を提供する
- I: バングラデシュの農業研修センターに日本のODAを供与する

◇ ファシリテーターから、「援助のはしご」をレクチャーした。

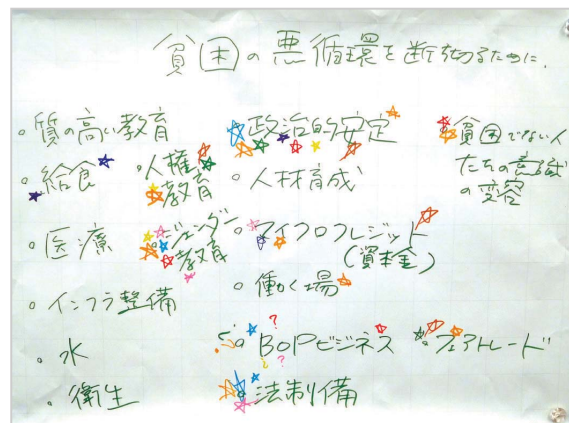
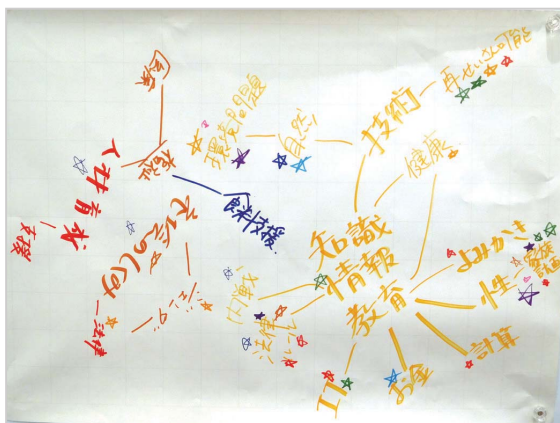


3. 貧困解決のためにできること 13:59-[24]

- ◇ 貧困の悪循環を脱するために役立つこと、必要なことをグループでリストアップした。
- ◇ 模造紙を回し読みし、共感した意見に☆印をつけた。

【「貧困の悪循環を脱するために役立つこと、必要なこと」成果例】

- ・ 人権教育 ・ ジェンダー教育 ・ 性教育（家族計画） ・ 先進国での教育 貧困の仕組みを知る、啓発
- ・ 利己主義にならない（そのための教育） ・ 国際理解教育 ・ 思いやりの心を育てる ・ 多様性を認める
- ・ 物事を多面的、多角的に見る ・ 政治的安定 ・ 伝統産業の保護 ・ 環境問題の解決 ・ 再生産可能な技術の開発
- ・ 人を育てる⇒手に職をつける ・ 食糧の確保 ・ フェアトレード ・ NGO/NPO 設立 ・ 援助段階に応じた支援
- ・ 子どもに直接届く支援 ・ 仲間を増やす ・ リーダーを育てるよりチーム（コミュニティ）を育てる



- ◇ 「貧困解決のために私ができること」を個人で10個考え、A4用紙に書き出した。その内、特に自分らしいものを3つ選び、グループ内で発表した。文章は、「～しない」などの否定的な表現ではなく、「～する」などの肯定的な表現を使用した。
- ◇ ファシリテーターコメント…行動が変わると社会が変わる。社会を変えるために、知り、考え、気づき、動く人を育て、行動を変えるための気づきのプロセスを作るのが国際理解教育である。物の背景を知り、人権と環境に配慮された、より良い社会であるためには何を大切にすべきかを考えて選ぶ人を育てよう。

● セッション6 「課題のある社会と持続可能な未来のビジョン」 7/16 14:23-15:17

1. グループ替えと自己紹介 14:23-[07]

- ◇ 参加者同士で属性等を紹介し合い、多様なメンバーになるようにグループを作った。
- ◇ 「我が青春の一曲」をテーマに自己紹介を行った。

2. グローバル・イシューと持続可能な開発目標 SDGs 14:30-[29]

- ◇ 持続可能な社会実現に向けたこれまでの世界の動きを、ファシリテーターからレクチャーした。

<持続可能な社会実現に向けたこれまでの世界の動き>

1996年～2005年 人権教育の10年

2006年～2015年 ESDの10年

2000年～2015年 MDGs（ミレニアム開発目標）

2016年～2030年 SDGs（持続可能な開発目標）

- ◇ 資料『持続可能な開発目標 SDGs～2030年までの17のグローバル目標～』を配付。1人2種類の資料を分担して読み、グループ内で伝え合い共有した。
- ◇ ファシリテーターコメント…資料を分担して読む作業も協力作業の1つ。参加型はお互いの学びを共有する。

3. 課題解決とよりよい未来作りに関わる力 14:59-[05]

- ◇ 2日間を振り返り、課題解決とよりよい未来作りのためにあると良い力、必要なスキルを個人で考え、A4用紙に書き出した。

【「課題解決とよりよい未来作りのためにあると良い力、必要なスキル」成果例】

・自分を大切にすること ・自己肯定感を高める ・人と関わる力 ・巻き込み力 ・仲間作り ・コミュニケーション力

・困っているときに助けを求める ・相手の立場、視点に立つ ・周りのことに興味を持てる力 ・寄り添う意識

・心を育てる教育 ・多様性を認める ・異文化理解 ・価値観を育てる ・参加型の授業 ・前向きな姿勢

・ねばり強さ ・アンテナを高く広く ・情報収集力 ・情報発信力 ・プレゼンテーション ・メディアリテラシー

・多角的に物事を見る ・感性を磨く ・想像力 ・創造力 ・共感力 ・表現力 ・行動力 ・好奇心 ・楽しむ力

・気づく力 ・地域社会での活動に参加 ・しっかり食べて元気

4. ふりかえり 15:04-[10]

- ◇ 3で書き出した内容と、2日間の感想をグループ内で発表し合った。

5. 事務連絡 15:14-[03]

- ◇ 事務局より、第3回研修宿泊、メーリングリストの確認、第3回での教師海外研修からの報告について連絡した。
- ◇ JICA 中部 倉坪職員より、訪問プログラム案内、JICA 地球ひろばウェブサイト紹介を行った。

★ 15:17 終了

－ 研修で使用した教材の出典等一覧 －

- ・『グローバルクイズ』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」各国編（イタリア／インドネシア／カナダ／ガーナ／スリランカ／タイ／中国／パナマ／フィリピン／モロッコ）
- ・『地球家族フォトランゲージ版』…写真：ピーター・メンツェル／ガイドブック：(特活) ERIC 国際理解教育センター編
- ・『わたしの当たり前＝あなたの当たり前？』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」活用マニュアル Ver.2
- ・『子宮頸がんワクチン接種』… NIED
- ・『国名つながりカード』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」各国編（ソロモン諸島／ベネズエラ／カンボジア／コンゴ共和国／イラン／モンゴル／サモア／マレーシア／ガーナ／フィリピン）
- ・『貧困の悪循環カード』… JICA 地球ひろば 「国際理解教育実践資料集－世界を知ろう！考えよう！－」 2013 年
- ・『PROFILES OF HUNGER』…WORLD VISION AUSTRALIA 1995 年
- ・『富の偏在化～シャンパングラスの世界』…(特活) オックスファム・ジャパン <http://oxfam.jp/news/cat/press/201799.html>
- ・貧困解決のための多様な手立てのひとつ「フェアトレード」
 - 『おいしいコーヒーの真実「あなたが支払ったコーヒー代はどこへ行く？」』…UPLINK <http://www.uplink.co.jp/oishiicoffee/>
 - 『貧困を作り出す構造を変える もう一つの貿易「フェアトレード」』…ウィキペディア
- ・『モロッコのムハンマドさん一家を救え！？』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来」モロッコ編
- ・『貧困解決のための多様な手立てのひとつ「ビッグイシュー」』…ビッグイシュー日本版ホームページ <http://www.bigissue.jp/>
- ・『バングラデシュを救う9つの方法』…「わくわく開発教育」(特活) 開発教育協会
- ・『持続可能な開発目標 SDGs～2030 年までの 17 のグローバル目標～』…国際連合広報センター

※JICA…独立行政法人国際協力機構

※NIED…特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2017年8月26日(土) 13:00～17:17、27(日) 10:00～17:20
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者 37名、JICA 3名、NIED 5名 合計 45名
[2日目] 受講者 38名、JICA 3名、NIED 5名 合計 46名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第3回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育のすすめかた

- ① 流れのあるプログラムの作り方について学び、参加型手法を習熟する。
- ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ③ ファシリテーターの役割とよりよい参加型の進め方についてポイントとなることを確認する。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 8/26 13:00-14:25

1. 主催者挨拶 13:00-[05]

◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言した。

2. 第3回のねらいの確認、自己紹介 13:05-[12]

- ◇ レジュメを基に第3回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。
- ◇ 「この夏刺激的だったこと」というテーマで、グループ内で自己紹介を行った。

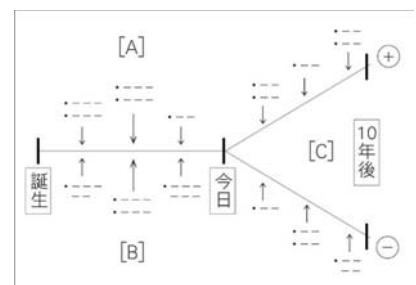
3. 全体アイスブレイキング～参加者アンケートを考えよう！／量的に捉える 13:17-[12]

- ◇ グループに「はい」または「いいえ」で答えられる3つの質問「①全体で“はい”が1人だけになる質問」「②全体で“はい”と“いいえ”が半数になるような質問」「③“いいえ”が少数になるような質問」を割り振り、それぞれグループで質問を考えた。
- ◇ ①から順に全体へ質問をした。回答が“はい”の受講生は会場の上手に、“いいえ”の受講生は下手に移動し、“はい”と“いいえ”の割合を視覚的に捉えた。
- ◇ 受講者全員が違う回答になるような質問を1人ずつ考えた。



4. グループアイスブレイキング～人生のタイムライン／時間軸で捉える 13:29-[13]

- ◇ これまでの自分の人生を振り返り、[A]の部分に人生に影響した出来事を、[B]の部分にその時の気持ちをA4用紙にタイムラインに書き出した。
- ◇ [C]の部分に、10年後の自分について「こうなっていたい」というプラスの未来と「こうなっていたくない」というマイナスの未来を想像して書き出し、作業から分かったこと、気づいたことをグループ内で共有した。
- ◇ 応用として、「日本は」「社会は」というテーマも同様に考えることができると、ファシリテーターより伝えた。



- ◇ ファシリテーターコメント…「人生のタイムライン」は、個人的な出来事や感情に触れるため、初対面の人同士で行うのは難しいと考える。この研修では今回で3回目になり、自己開示できる相手、場所だと分かっているため、安心して自分のことを話すことができる。自分を肯定的に受け止めてくれる仲間がいると、自己肯定感が高まる。

5. ファシリテーターの役割 13:42-[16]

- ◇ ファシリテーターの主な4つの役割を、ファシリテーターからレクチャーした。

<ファシリテーターの主な4つの役割>

- ・場づくり…自分の意見を話しても大丈夫と思える安心感のある場
- ・関係性づくり…違いを受け入れ、お互いから学び合える関係性
- ・プロセスづくり…参加者が主体的に学ぶための組み立てと工夫
- ・合意形成づくり…代案、提案を通して、話し合いで方向性を見出すためのスキルトレーニング

6. 第2回ふりかえり 13:58-[27]

- ◇ 第2回研修の記録を、第2回の3つのねらいに照らし合わせながら各自読み、分かったこと、気づいたこと、印象に残ったことをA4用紙に書き出し、グループ内で伝え合った。
- ◇ 行動変容のステップを、ファシリテーターからレクチャーした。

<行動変容のステップ>

- ・知らないからできない、やらない
 - ↓ 知る機会を作る…知識情報を提供する
- ・知っているけれどできない、やらない
 - ↓ 気づく機会を作る…問題が自分事となるための内発的な気づきを促す
 - ↓ 参加者主体で考える、問いかける
- ・知っているけれどまだできない、やらない
 - ↓ 意識化とスキルトレーニングの提供
 - ↓ …意識化とは、ワークでの気づきを日常で実行できるようになること
 - ↓ そのために、「書く・文章化する」「伝える」「振り返る」を繰り返す、
 - ↓ そこから分かったこと、気づいたことを問いかける
- ・知っているからできる！やる！

- ◇ ファシリテーターコメント…開発教育・国際理解教育は、学習者の行動変容を支えることを最も大切にする。何について知り、気づいて欲しいのか、最終的にどんなことが実を結んで欲しいのかを考え、自分達で行動できる人を育てていこう。

● セッション2 「開発教育・国際理解教育“学びの柱”の理解を深める」 8/26 14:25-16:25

1. グループ替え、自己紹介 14:25-[06]

- ◇ グループ内でジャンケンをし、勝った人と負けた人が移動してグループ替えをした。
- ◇ 「お弁当に入っていると気分が上がるおかず」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

2. 学びの柱の確認 14:31-[30]

- ◇ 開発教育・国際理解教育学びの柱を、ファシリテーターから読み上げ、確認した。

<開発教育・国際理解教育の学びの柱>

- 柱1) 他者、他国と肯定的に出会う～多様性と同一性
- 柱2) 日本と世界とのつながりに気づく・理解する
- 柱3) 共通の課題について共に考え、共に越える



3. [柱1] 他者、他国と肯定的に出会う・[柱2] つながりに気づく目的と学ぶための工夫 14:37-[24]

- ◇ [柱1] [柱2] をグループで分担し、「①柱が実現するとどのような影響があるか」「②そのための学びの工夫」を模造紙に書き出した。

◇ 全体で模造紙を回し読みし、自分のグループでは出なかった意見に☆印をつけた。

【「柱1・柱2の目的と学ぶための工夫」成果例】

柱1 ① 他者、他国と肯定的に出会う影響

意識の変化…・おもしろいと思う ・興味を持つようになる ・食べ物・服文化を試したくなる ・行ってみたいくなる
 ・その国を好きになる ・人に良さを伝えたいくなる→もっと知りたくなる→その国の人と話してみたいくなる
 ・文化など背景を知りたいくなる ・光と影の「影」を知りたいくなる ・視野が広がる→勉強意欲が高まる
 ・世界観が広がる ・自分の価値観が全てではないと気づく ・常識・当たり前がなくなる ・敵対心がわかなくなる
 ・プラス思考で考えることができる ・自分の国を好きになる ・自分や自国のことがもっと深く見えてくる

行動の変化…・自分と違う人・国のいいところを見つけようとする ・他者・他国を尊重するようになる
 ・オープンな人になれる ・違いに寛容になる→自分も生きやすくなる ・身近なところでも肯定的に捉えようとする
 ・相手の良い所を取り入れようとする ・周りを理解するようになる ・周りとの仲良くなる ・人に優しくなる
 ・発想が変わる ・ニュースなど関心を持って聞く

成果・効果…・新しいことに出会える ・いろんな人と仲良くなれる ・友達が増える ・つながりが増える
 ・協力し合える ・安心感が持てる ・新しいもの・文化が生まれる ・交流が生まれる ・偏見・先入観・固定観念・
 決めつけがなくなる ・平和・Happy ・争いがなくなる

柱1 ② 他者、他国と肯定的に出会うための工夫

・地図・国旗を使う ・写真を見せる ・クイズにする ・身近なつながりを紹介する ・情報源を提示
 ・世界の民族衣装を着てみる ・食べ物や文化に触れる ・実際にいろんな人を教室に招く
 ・一緒に〇〇する（踊る・歌う・食べる・話す・創る・笑う） ・お互いの違い（言葉・食・服）を予想→実際→気づき！
 ・知ったことについて「良い所」を見る、共有する ・自分と反対の意見とも出会うようにする
 ・学習者同士が肯定的に出会う ・みんなに発言の機会 ・ファシリテーター自身が偏見を持たず他を尊重している

柱2 ① 日本と世界のつながりに気づく・理解することの影響

意識の変化…・親近感がわく ・興味がわく・疑問がわく ・関心を持つ ・行ってみたいと思える ・目線が外
 （世界）に向く ・どんどんつながりたいと思う ・つながりを強めたいくなる ・常識・当たり前が崩れる
 ・物の背景を知ろうとする ・その国の問題が自分にも影響があると考える ・もっともっと勉強したくなる
 ・自分とは違う価値観に気づく ・「こんな生き方もいいんだ」と思える ・人のことをもっと知りたくなる
 ・自分のことを再発見する・気づく ・自分自身がこれでいいと思えるようになる ・1人ではない（支えられている）
 ことに気づく

行動の変化…・自分の国にあるその国を大切にすること ・その国の事を真剣に考えるようになる
 ・その国の問題を自分事として捉えることができる ・win-win の関係になれる支援のあり方を考えることができる
 ・人を多面的にみられるようになる ・認めることができる ・おしつけが減る ・寛容になる
 ・人に優しくできる ・違っていてもいいと受け入れられるようになる ・なぜ違うのかを考えるようになる

成果・効果…・「分かったつもり」「知っているつもり」が減る ・差別・偏見、いじめ・争いがなくなる
 ・繋がっていることの安心感、喜びが生まれる ・相手も自分も良い所に気づく ・地球市民として社会的課題を
 捉えられるようになる

柱2 ② 日本と世界のつながりに気づく・理解するための工夫

・身のまわりでつながりのあるものを探す（フォトランゲージ、食べ物） ・出前講座 ・実体験を紹介
 ・テーマの提供 ・同じテーマで違いを比較 ・多様性を知るための情報提供 ・多様性を認めない世界を想像する
 ・言葉や食など、その国の文化を体験 ・実際に現場に連れて行く（スタディツアー）
 ・共通点を探す ・自分のことや日本のことを振り返る ・色々な答えがあることについて話し合ってみる

- 休憩 - 15:01-[09]

4. 柱3 共通の課題を共に考え・共に越える目的と学ぶための工夫

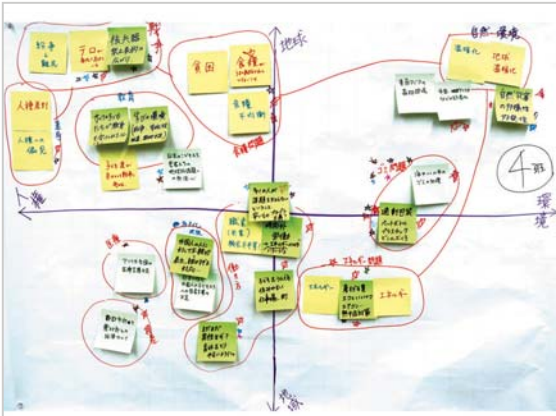
4-1. 変えたいこと、変えるべきことは何か／二次元軸表・カード式整理法 15:10-[43]

◇ 社会が抱える課題について、次の手順で整理分析した。

- ① 私たちの社会を振り返り、課題＝変えたいと思うことを個人で付箋紙に書き出す。
- ② 書き出した付箋を、二次元軸表（Y軸：地球－地域、X軸：人権－環境）とカード式整理法で整理分類する。
- ③ 作業から分かったこと、見えてきたことをグループで出し合い、A4用紙に書き出す。
- ⑤ 模造紙とA4用紙を回し読みして共有し、共感した意見に☆印をつける。

【「二次元軸表、カード式整理法から分かったこと、見えてきたこと」成果例】

- ・地球と地域の課題は共通していることが多い
- ・日本の問題も世界の同じ問題につながる } →身近な課題の解決が地球の課題の解決になる
- ・多くの問題が人間の考え方の違いや利己的な思いによって引き起こされる
- ・経済的格差と教育格差はリンクしている
- ・貧困問題解決なしに、様々な課題は解決しないのではないか
- ・「人権問題」と「環境問題」としてまとめられることが多いが、環境の方が軽視されがち
- ・人間が行動しないと問題は変わらない
- ・「人」が抱える問題は「自分」の問題だと思うから解決したいし、できると思う
- ・知っているようで知らないことだらけ→知ることが大事
- ・相手を思いやる必要がある



⑤) 多くの問題が人間の考え方の違いや利己的な思いによって引き起こされる。
 →世の中は本当に軽微なものであつて？！

⑥) 多くの問題はつながっており、教育の問題につながっている。

⑦) 人間が行動しないと問題は変わらない。(?) 知っているようで知らないことだらけ

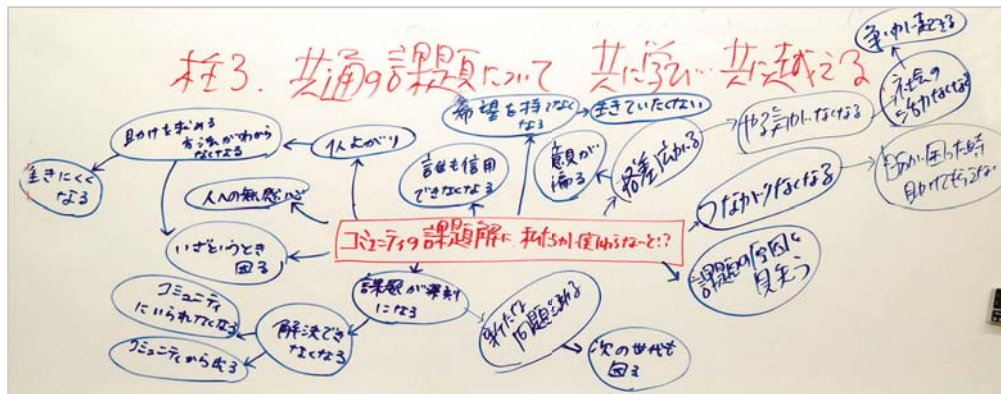
<二次元軸表>
 ある事柄に関して、2つの分類法を組み合わせることで、新たな視野での気づきや検討を促す手法。ある事柄に関する個人の考えを付箋紙に書き出し、X軸、Y軸の異なる指標を設けた模造紙のうちどこに分類されるのか考え、グループで協力して貼り付け、共有する。

<カード式整理法>
 多様な意見を整理類型化し、共通の基盤に立ち共通のものを作り出すスタートにする手法。あるテーマに対しての個人の考えを付箋紙に書き出し、グループで共有し、模造紙上に分類整理する。

◇ ファシリテーターコメント…開発教育・国際理解教育は、人権教育と環境教育かに分けられ、包括して平和教育と言われている。全てはつながっているため、次に学ぶべきことが見えてくるのが開発教育・国際理解教育の特長である。

4-2. 人類共通の課題を越えていくには？～柱3が大切な理由／派生図 15:53-[08]

◇ 「もし自分が、関わっているコミュニティの課題解決に関わらなかつたらどうなるか」を全体で派生的に考え、出た意見をファシリテーターが板書し、共有した。



4-3. 持続可能なよりよい未来創りのために大切なこと／リスト作り 16:01-〔24〕

- ◇ 社会的課題を解決し、よりよい未来を創るために①育てたい価値観、②育てたいスキル、③そのために役立つ情報をグループで出し合い、模造紙に書き出した。

【「課題解決とよりよい未来を創る実現のために育てたい価値観・スキル・役立つ情報」成果例】

① 育てたい価値観

- ・ いろんな価値観を認める ・ 多様性の受容・寛容 ・ 自分を大切にすること ・ 自己受容→自己肯定感
- ・ どんな人にも寄り添える心 ・ 色々な人の立場に立って考える ・ つながりの大切さ ・ 独占よりシェア
- ・ 自分さえよければではない考え ・ 感謝 ・ 自己尊重 ・ 人間の尊厳 ・ みんなが幸せであるべき
- ・ 人を信頼できる ・ 公平 ・ 今の行動が未来につながっているという感覚 ・ 自分の行動を変えようと何かが変わると信じる ・ 地球規模の事にも当事者意識 ・ チャレンジ精神 ・ 無知の知→好奇心 ・ 視野を広げる
- ・ 自分の目で見て判断 ・ 主体性（自分で何かができる） ・ 自然が有限 ・ 自然を大切にすること

② 育てたいスキル

- ・ 相手の立場に立って考えることができる ・ 他者を認める・否定しない ・ 違いに気づく ・ 自分が発信できる
- ・ 自分の思いを言葉にする ・ 自己開示力 ・ 自己肯定感を高めるための授業 ・ コミュニケーション力（受容的な聞き方+自分の意見・主張も言える+場作り・関係作り） ・ 聞く力 ・ 共に生きる力 ・ 合意形成できる力
- ・ 協力し合う体験→親切にする ・ 対話する力 ・ 仲間をつくる力 ・ 柔軟性 ・ 計画性 ・ 想像力 ・ 創造力
- ・ 読書（知識を自分で得る） ・ 行動力 ・ リサーチ力 ・ 考察力 ・ 判断力（公平な） ・ 実践力
- ・ 振り返る力（歴史も） ・ 順応力 ・ 適応力 ・ 信じる力 ・ 問題解決力

③ そのために役立つ情報

- ・ 自分の目で実際に見たもの ・ 実際に体験した人の情報 ・ 身近で実際にやっている例 ・ みんなで体験する
- ・ 色々な立場の人の思い・意見・主張 ・ そこに暮らす人の情報 ・ 気持ち・声を伝える（困っている人の生の声）
- ・ 事実を伝える ・ 現状をしっかりと捉える ・ 比較できる資料（昔と今など） ・ 複数の情報源 ・ 多面的な捉え方 ・ インターネット・マスメディア・SNS・本 ・ 歴史 ・ 調査結果 ・ 解決策・取り組み

● セッション3 「開発教育・国際理解教育 参加型プログラムの作り方」 8/26 16:25-17:17

1. グループ替え、自己紹介 16:25-〔08〕

- ◇ 1つのグループに、指導者研修今年度受講者、リピーター、教師海外研修受講者が入るよう、グループ替えを行った。
- ◇ 「私の得意なこと・苦手なこと」をテーマに、自己紹介を行った。

2. プログラムとは～「ねらい」「ストーリー（流れ）」「アクティビティ（参加型手法）」 16:33-〔13〕

- ◇ 資料『参加型プログラム作りのノウハウ（NIED版）』を配付。参加型プログラムのポイントをファシリテーターから説明し、確認した。

<経験学習の4段階～体験を経験につなげるプロセス～>

1. 体験する → 2. ふりかえる → 3. 一般化する（原理・原則の発見） → 4. 応用する

<参加型プログラムのポイント>

- ・ 知ったことを効果的に応用するために、体験するだけでなく、それを経験につなげる。
- ・ 教えるのではなく、引き出す。気づき、考え、学びを引き出すために問いかける。
- ・ プログラムづくりはストーリーづくり。単なるアクティビティの羅列にならないよう、概念や知識をつなぎ合わせてストーリー性を持たせる。
- ・ クイズ、映像を見る、資料を読み解くなど、学習者が主体的に気づくための工夫をする。
- ・ 学習者の気づきや発見によって学びの共有化が図られるような配慮をする。

3. 第1回と第2回を「ねらい」「ストーリー（流れ）」という視点でふりかえる 16:46-〔09〕

- ◇ 資料『第1回・第2回 プログラムの流れとアクティビティ解説』を配付。ねらいとストーリー（流れ）という視点で各自読み、振り返った。

4. 第1回～第3回を「手法」という視点でふりかえる 16:55-[03]

- ◇ 資料『参加型手法の解説～12のものの見方・考え方から』を基に、参加型手法を確認した。
- ◇ 第1回～第3回で使用しなかった手法について、ファシリテーターから説明した。

5. 8つのテーマのプログラムを作ろう！ 16:58-[07]

- ◇ ファシリテーターが用意した、開発教育・国際理解教育の学びの柱に沿った8つのテーマを、グループに1つずつ配付。2日目にこのテーマでプログラムを作ることを説明した。

＜8つのテーマ＞

1. 肯定的な出会い…脱ステレオタイプで肯定的に出会う世界
2. つながり…自分と世界をつながりと私の影響力
3. 多文化共生…多様性を尊重する地域づくり
4. 人権…ちがっていい「違い」、ちがっていけない「違い」
5. 環境…地球の持続可能性を阻むもの・高めるもの
6. 貧困…貧困格差の理解と解決の手立て
7. よりよい未来創り…SDGs達成に向けてすべきこと
8. コミュニケーション…わたしとあなたのコミュニケーションから始まる国際理解

6. 1日目のふりかえり 17:05-[08]

- ◇ 1日目の感想と、自分のグループに割り振られたテーマについて思うことを、グループ内で発表し合った。

7. 事務連絡 17:13-[04]

- ◇ 受講者より、自分が関係するイベント等の紹介を行った。
- ◇ JICA 中部 倉坪職員より、開発教育関連資料『地球教室』の紹介を行った。

★ 17:17 終了

● JICA TIME 8/27 10:00-10:10

1. JICA TIME 10:00-[10]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行い、JICA 中部事業の紹介を行った。

● セッション4 「教師海外研修報告」 8/27 10:10-10:58

1. 教師海外研修エチオピアチーム報告 10:10-[24]

- ◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、①現地の言葉「アムハラ語」と挨拶の仕方、②エチオピア基本情報、③エチオピアの文化、④日本とのつながり、⑤教育課題、⑥民族問題、⑦現地研修での気づきについて、現地の写真および音楽と共に紹介した。



2. 教師海外研修パラグアイチーム報告 10:34-[24]

- ◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、①パラグアイの文化、②ゴミ問題、貧富の格差、③課題問題の好事例、④農村部の課題、⑤教育の質、⑥子ども達の笑顔、⑦現地の子供達へのインタビューとその結果、⑧課題解決の姿勢、⑨日本とのつながり、⑩研修を通して学んだことについて、現地の写真および動画と共に紹介した。



● セッション5 「プログラムを作ろう！」 8/27 10:58-14:00

1. プログラムの作り方シミュレーション 10:58-[182]

- ◇ 資料『プログラムづくりの流れ』『プログラム作りにおける「起承転結」モデル』を配付。1日目に配付した資料も基に、次の手順でプログラムの作り方のシミュレーションを行った。

- ① テーマを理解する…模造紙に、テーマから思いつくこと、このテーマが含んでいることをブレインストーミングで書き出す。
- ② ねらいを明確にする…プログラムを通して、学習者が「何に気づくと良いか・何を知ると良いか」「何について考え・どう行動するようになるか」と対比表で書き出す。
- ③ プログラムの流れを考える…学習者の意識の流れを考え、書き出した対比表に順番をつける。
- ④ プログラムを組み立てる…プログラムの起承転結を定め、それ沿ってアクティビティを当てはめる。

◇ 14時よりプログラムの発表を行うことをファシリテーターから伝え、グループごとに休憩を取った。

● セッション6 「実践！ファシリテーション！&ふりかえり」 8/27 14:00-17:00

1. プログラム発表→実践報告フォーラム 2018 分科会ランキング→評価提案

1-1. プログラム発表 14:00-[134]

◇ テーマ1から順に、プログラム説明とアクティビティー部実践を行った。アクティビティー体験者は、フィードバック（良かった点、改善提案）を付箋に記入した。



【プログラムのねらいと展開】

1. 肯定的な出会い：ようこそ2年B組へ！！ / 対象：中学校2年生

<p><u>ねらい</u> ・自分の価値観に気づく ・価値観が人によって異なることを知り、相手の良さに気づく ・相手の立場に寄り添い、具体的な行動を考える</p>	<p><u>展開</u> 1) 写真を国ごとに分けよう（実は全てアフリカ） →アフリカに対するステレオタイプに気づく 2) どんな転校生に来てほしい？ →人によって価値観が違うことに気づく 3) 自分がアフリカに転校したら？ されて嬉しいこと・嫌なこと 4) アフリカからの転校生のために何ができるか考えよう</p>
---	--

2. つながり：チョコバナナと世界とわたし、それから… / 対象：中学校2年生

<p><u>ねらい</u> ・身近な食、ものと世界のつながりに気づく ・自分たちに何ができるのか考える</p>	<p><u>展開</u> 1) チョコバナナはどこから？何から？ 2) 原材料の中の植物油脂って何？ 3) パーム油の背景とは？ 4) 自分たちにできることって何だろう？</p>
---	---

3. 多文化共生：共に生きて行く / 対象：高校生

<p><u>ねらい</u> ・多文化共生について知る ・相手を尊重することの大切さに気づく</p>	<p><u>展開</u> 1) 自分の周りの多文化に気づこう 2) 多文化で生きる楽しいこと、心配なことを知ろう 3) 多文化共生で起こる摩擦の原因は何だろう 4) 共に生きて行くには？</p>
---	---

4. 人権：ひらけ！ちがいのとびら / 対象：中学校1年生

<p><u>ねらい</u> ・多様性に気づく ・違ってはいけないものに気づき、問題意識を持つ</p>	<p><u>展開</u> 1) 互いの違いに気づく 2) 違いのおもしろさに気づく 3) 本当にみんな違っていいのか？と疑問をもつ 4) 違ってはいけないものを考え、行動宣言をする</p>
--	--

5. 環境：目指せ！！ナイスカスタマー&バイヤー / 対象：中学生以上

<p><u>ねらい</u> ・自分の生活と環境のつながりに気づく ・環境のために自分の行動を見直してみる</p>	<p><u>展開</u> 1) 今日のファッションチェック！！ 2) Youはどうしてそれ買うの？ 3) 本当は知らないカシミアの裏側 4) 目指せ！！ナイスカスタマー&バイヤー</p>
--	---

6. 貧困：私の幸せ・あなたの幸せ・みんなの幸せって？ / 対象：高校1年生

<p><u>ねらい</u> ・貧困について考え、貧困がもたらす「負の連鎖」に気づく</p> <p>・貧困を解決するために必要なことを考え、自分たちにできることを見つける</p>	<p><u>展開</u> 1) 「幸せ」とは何かについて考える</p> <p>2) 「幸せではない」状況について知る</p> <p>3) 貧困の背景を探ってみよう！</p> <p>4) 解決するために必要なことを考え、自分たちにできることを見つける</p>
--	--

7. よりよい未来創り：～よりよい未来に向けて～国際サミットを開こう / 対象：中学校2年生

<p><u>ねらい</u> ・SDGsについて知る</p> <p>・17項目のうち自分たちができることを1つ考える</p>	<p><u>展開</u> 1) SDGsって何？</p> <p>2) 今ある問題を知ろう</p> <p>3) 私たちにできる解決策を考えよう</p> <p>4) 国際サミットで宣言しよう</p>
---	---

8. コミュニケーション：ジェインがやってきた！ / 対象：中学生

<p><u>ねらい</u> ・相互理解を助けるために考え、行動する</p>	<p><u>展開</u> 1) ジェインが困っている</p> <p>2) 私たちとジェインの気持ちは？</p> <p>3) ジェインのためのよりよいコミュニケーション</p> <p>4) 外国籍の子がもっと過ごしよくなるためには！？</p>
---------------------------------------	--

1-2. 実践報告フォーラム2018で提供したいものランキング 16:14-[11]

- ◇ プログラム発表とアクティビティ実践、体験をふまえ、実践報告フォーラム2018で行う4つの分科会で提供するプログラムを、持ち点1人4票、1つのプログラムにつき2票まで入れることができる重みづけランキング方式で投票し、決めた。



1-3. プログラムの評価提案、ふりかえり 16:25-[15]

- ◇ 付箋に書き出したフィードバックを各チームに渡し、プログラム内容と実践を振り返った。

2. 実践報告フォーラム2018 分科会担当決め 16:40-[04]

- ◇ 実践報告フォーラム2018にて行う4つの分科会体験ワークショップを担当する有志を募り、メンバーを決めた。

3. グループ替え 16:44-[06]

- ◇ ファシリテーターが1~8の番号をふり、指定の机に移動してグループ替えを行った。
- ◇ 「プログラム作りの感想」をテーマに自己紹介を行った。

4. よりよい参加型を進めるファシリテーションのポイント～よりよいFは〇〇する 16:50-[10]

- ◇ これまでを振り返り、よりよい参加型を進めるファシリテーションにおいて大切なことをグループで出し合い、6~10ヶ条にまとめた。文章は、「～する」など学習者の行動が見える表現とした。

【「よりよい参加型を進めるファシリテーションのポイント」成果】

① 自分も楽しんで作る	① 指示がシンプルで分かりやすい	① 参加者の意見を引き出す
② 自分と参加者を信じる（待つ）	② 巻き込み力が高い	② 安心感を与える
③ 参加者が身近なもの・ことで考える	③ 自分が笑顔で楽しそうにしている	③ リハーサル、準備をする
④ テーマについて様々な情報を得る	④ 的確な声掛けをする	④ 順序立てて計画する
⑤ 情報を分かりやすく伝えられる	⑤ 引き出すのが上手	⑤ タイムマネジメントが上手
⑥ 問いかけられる・考えさせられる	⑥ 段取りよく進める	⑥ 分かりやすい説明をする
⑦ 時間を守る	⑦ 全体をよく見ている	⑦ 参加者の主体性を大切に
⑧ ゴールを考えておく	⑧ 上手に板書する	⑧ 話しやすい雰囲気づくりをする
⑨ 世界を変えられるとポジティブに信じている	⑨ ターゲットを絞っている	⑨ 意見を尊重する
⑩ つなげることができる	⑩ 全員に役割を与える	⑩ Smile!!

① 参加者を信じる	① 安心の場作りができる！	① 笑顔を作る
② 参加者が積極的になるように 雰囲気を作る	② 気持ち、意見を引き出す問いかけ ができる！	② 傾聴する
③ 2番バッター → “つなぎ”	③ 参加者と共に成長できる！	③ よい雰囲気をつくる
④ “教える” ではなく “気づかせる”	④ 子どもの思考をキャッチできる	④ 上手に投げ掛ける
⑤ 肯定的になる	⑤ 常に笑顔で！	⑤ コンパクトに話す
⑥ テンポの良さ、間を作る	⑥ 臨機応変に対応できる！	⑥ 時間をコントロールする
⑦ 時間を区切る	⑦ 他者の意見を認める！	⑦ 学習のよい流をつくる
⑧ さりげなくサポートしてくれる		⑧ 参加者を信じる
⑨ 適材適所（小出し）に伝える		
⑩ 参加者の意見をリテリングする		

① よい雰囲気づくりをする	① ファシリテーターも参加し楽しむ	
② 自分も楽しむ	② 全てを包み込む	
③ タイムキーピングをする	③ より良い助言ができる	
④ 心に火をつける	④ 短く分かりやすい説明ができる	
⑤ よりよいストーリーづくりをする	⑤ 抑揚をつけて話す	
⑥ 参加者を信じて待つ	⑥ 時間が読める	
	⑦ 笑顔で雰囲気づくりをする	

● セッション7 「実践報告フォーラム 2018 の概要説明と準備のお願い」 8/27 17:00-17:20

1. 実践報告フォーラム 2018 の概要説明と準備のお願い 17:00-[10]

◇資料『実践報告フォーラム 2018 のプログラムとお願い』を基に、事務局から説明を行った。

2. 事務連絡 17:10-[20]

◇事務局より、第4回宿泊について、教師海外研修受講者へ現地撮影画像の受け渡しについて連絡した。

◇JICA 推進員より、JICA 関連事業の告知を行った。

・静岡県 JICA ボランティア帰国報告会 ・海外体験者による体験談を聞く会「ルワンダ滞在記」

・国際理解教育入門講座 ・国際理解教育ファシリテーター養成講座

◇JICA 中部 倉坪職員より、実践授業訪問および中部圏ネットワーク作りへの参加を呼びかけた。

★ 17:20 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

・『参加型手法の解説～12 のものの見方・考え方から』…名古屋市「環境学習実践者向け ESD ガイドブック ESD はじめの一步」
2015 年

V 実践報告シート

■ 実践報告シート一覧 (五十音順)

No.	名前	対象	時間数	タイトル
01	秋田 真由	小学校5, 6年生	2時間	インドネシアってどんな国？村の生活を見てみよう！
02	足立 友香 ^E	特支学校中学部3年	22時間	ひらけ！世界のとびら！
03	池田 哲朗	大学生、大学院生	3時間	システム思考で価値判断力・意思決定力を育成する
04	出原 豊寛	中学生、高校生、大学生	1時間	人に思いを馳せよう
05	伊藤 智子	中学校3年生	6時間	つながって生きる ～Break the Barrier！～
06	伊藤 宏将	中学校3年生	3時間	「豊かさ」って何だろう？
07	岩塚 善哉	中学校1年生	6時間	共通の未来について考えよう
08	大澤 健人 ^P	中学校2年生	13時間	自分も世界も未来へ向かって～パラグアイとの出会いから～
09	片田 智香子	高校1年生	5時間	バスが来るまで一緒に待つよ！～世界と肯定的に出会う～
10	加藤 侑子 ^P	小学校1年生	8時間	同じも 違うも みんないい
11	河合 あずさ	小学校4年生	2時間	世界一周旅行に出発！～どんなものを食べているのかな？～
12	川合 孝弥	高校1年生	3時間	私たちにもできる支援活動～ハイチ地震を通して～
13	北西 麻衣良	高校1年生	3時間	身近なものから世界へ！教育とパーム油をめぐる問題
14	木村 智子 ^E	中学校3年生以上	3時間	「知る」を「知る」～knowledge is power to save the world～
15	工藤 泰三	大学1年生	4時間	英語で考える 世界の子どもたちのための教育支援
16	久保田 真代 ^P	高校2年生以上	10時間	世界が幸せになるために
17	児玉 恵理 ^E	中学校2年生	6時間	世界とのつながり～日本で生きる自分と世界で生きるあなた～
18	近藤 勝士	中学校3年生	3時間	『学び』は未来を創る(未来へひろがる数学)
19	近藤 大祐	大学1、2年生	1.5時間	お隣さんは外国人？—身近な多文化共生—
20	榊原 早織 ^P	小学校3年生	23時間	行動しよう！ 未来を変える 地球づくり！
21	榊原 麻起子	高校1年生	3時間	人権を考える～杉原千畝を通して
22	櫻井 美香	中学校1年生	12時間	多様性って何？～ALL FOR ALL みんなが大切にされる学校にするために～
23	三小田 京子 ^E	小学校3年生	9時間	笑顔をふやそう！～違いを認めて～
24	白神 大典 ^E	中学校1、2年生	8時間	誰かのことを想うとき、あなたと世界の枠が外れる。
25	白木 純子 ^E	小学校4年生	12時間	食から広がるMY WORLD
26	須古井 京子	中学校3年生	3時間	そうだったのか！！これも国際理解ってことなんだ
27	瀬戸 誠	小学校5年生	6時間	食(ショック)！！どうする！？わたしたちの未来
28	高井 季代子	中学校1年生	8時間	英語de人権 We Can Make Everyone Smile
29	谷口 加恵 ^E	高校3年生	4時間	「ものがたり」を知って豊かになるわたしと世界
30	中垣 尚子	中学校3年生	7時間	よりよい未来のために
31	中野 裕子	教員・ALT・大学院生	10時間	World Workshop ALTとの出会いを大切に授業と一緒に作ろう！
32	丹羽 かよ	高校1、2年生	1.5時間	本で開こう！世界への扉！
33	野々山 尚志 ^P	小学校6年生	28時間	世界に学ぶ～届け幸せのメッセージ～
34	箱山 園江 ^P	高校3年生	2時間	もしも私がカテウラにいたら
35	服部 咲	小学校4～6年生	9時間	世界とつながる・世界を広げる！「ワールド コラボ クラブ」
36	濱田 蒼太 ^P	中学校2年生	12時間	夢見る力～自分の世界を広げる～
37	前地 直樹 ^E	小学校4年生	4時間	エチオピアを知り、自分を知る
38	村上 偉代	高校2年生	3時間	「みんな違ってみんないい」から始まる対立解決
39	脇田 佐知子 ^P	小学校6年生	11時間	みんなつながっている。さあ、わたしたちも動いてみよう！

※凡例：名前の後のP,E：教師海外研修受講者(Pはパラグアイ、Eはエチオピア)。時間数は1時限＝1時間として表記。

インドネシアってどんな国？村の生活を見てみよう！

01

所属	FIWC 東海委員会	実践者	秋田 真由
対象	沓掛小学校5・6年生	時間数	5・6限(90分)
場所	6年生の教室、パソコン室	実践教科	総合的な授業の時間
ねらい	<p>テーマ【共生、異文化コミュニケーション、貧困】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアと肯定的に出会い、自分事として考えてみる ・多様な人、異文化と出会うことの楽しさに気づく ・現地に行って活動することの意義を感じる 		
実践内容	時間	プログラム	
	3分	1、団体紹介、インドネシアについての簡単な説明	
	5分	2、アイスブレイキング(インドネシアO×クイズ)	
	15分	<p>3、村人の気持ちになって考えてみよう！【フォトランゲージ】</p> <p>各グループに写真4枚を配布する</p> <p><u>一人一枚とってじっくりと見てみよう</u></p> <p>(写真の中にある色んなものは何だろう？この人はどんな人なんだろう？)</p> <p>⇒写真から登場人物について関心を持って考えようとする</p> <p><u>写真の人になりきって自己紹介をしてみましょう</u></p> <p>グループで自己紹介を行う</p>	
	15分	<p>4、相手の気持ちを考えてみよう！【対比表】</p> <p><u>もしあなたがこれらの写真の人たちだったら、言われて嬉しいこと・言われたくないことはどんなことだろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い、対比表にまとめる ・他のグループの書いたものを見てまわり、「いいな」と思った意見に☆を書く <p>⇒他のグループの意見を肯定的に評価する</p> <p>自分が気付かなかった視点に気づく</p>	
	7分	<p>5、村人と仲良くなる方法を考えよう！</p> <p>グループで話し合い、発表する</p> <p>《5分休憩》</p>	
	13分	<p>6、活動紹介・体験紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークキャンプの活動について詳しく紹介する ・村人とどのように接し、仲良くなったかを話す ・インドネシアで学んだことを話す 	
	7分	<p>7、質疑応答</p> <p>8、ふりかえり</p>	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアのイメージが変わった！笑顔がたくさんいい国だと思った！という感想をもらった ・自分もインドネシアに行ってみたい！ボランティアをしてみたい！という感想をもらった ・自分たちの活動を人に(特に子どもたちに)伝えること伝えることの大切さに気づいた 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をするという経験が初めてだったので、時間のメリハリをつけたり子どもたちの集中を集めたりするのに時間がかかった ・村人のことについてもっと深いところまで考えてもらえるよう工夫すべきだった 		
備考	6年生は各教室で、5年生は全員パソコン室で。メンバー11人を2、3名に振り分けて授業を行った		

ひらけ！世界のとびら！

02

所属	静岡県立富士特別支援学校	実践者	足立 友香 E
対象	知的障害課程 中学部3年 30名	時間数	22時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間 生活単元学習
ねらい	<p>テーマ【共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国に興味関心を持つ。 ・国の文化の違いに気が付き、互いの良さを見つけることができる。 ・他国の言語や文化について調べたことを、自分なりの表現で他者に伝えることができる。 ・学年の仲間と協力して活動に取り組んだり、互いの良さに気が付いたりすることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-2	<p>【ひらけ！世界のとびら】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている外国の名前を書き出してみよう<ブレインストーミング> ・ワールドクイズに挑戦！（国旗、食べ物）<クラス対抗クイズ> 	A3用紙、マジック 世界地図、地球儀 パワーポイント
	3-5	<p>【エチオピアについて知ろう ～足立先生が行ってきました！～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画を見てみよう！ <フォトランゲージ> （風景、言葉、文字、人、食べ物、町の様子、動物等） ・見て・触って・感じよう（エチオピアコーヒーセット、紙幣）<実体験> ・エチオピアクイズ！（日本のトイレとの違いは？）<対比> ・エチオピアコーヒーの話を読み聞かせ ・友達とアムハラ語で挨拶をしてみよう <実体験> ・衣装を選んで着てみよう <実体験> ・エチオピアダンス（足のステップ）をしてみよう <実体験> <p>【アフリカンミュージックを楽しもう】（学校行事：スクールコンサート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンガやタンザニア出身の演者によるジャンベの生演奏を味わう <p>【インジェラを味わおう】（学校給食：アフリカの料理）</p>	エチオピアで撮影した画像や購入した物（コーヒーカップ、ポット、エチオピアブル、衣装等）
	6-7	<p>【自分のお気に入りの国について調べよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本（修学旅行先）について（着物、音楽、方言等） ・エチオピアについて（アムハラ語、ダンス等） ・イギリスやアメリカ（ALTの出身国）について（歌、英語等） 	A3用紙 各国の特徴的な名物や名産の写真
	8-21	<p>【ワールドリサーチイッテQ！～発表会で保護者に伝えよう！～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国の衣装や文化、音楽を知ろう <対比表><実体験> ・3カ国の国旗カラーを使用したミサンガやコースターを作ろう <p>⇒保護者参加型の発表会、生徒作品をプレゼント</p>	アムハラ語の表 衣装、国旗
	22-23	<p>【いいとこリサーチイッテQ！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会のビデオを見て振り返りをしよう ・自分の頑張ったこと、友達の良かったことを発表しよう 	
	成果	<p>・エチオピアの自然、音楽、言語、衣装など現地で得た情報や実物を活用したことで、とても興味をもって、五感で感じながら学ぶことができた。エチオピアという未知の国を肯定的に受け入れ、親しみをもつことができた生徒が多い。情報や体験を受けるだけでなく、学んだことやもっと調べてみたいと思ったことを発表会に向けて生徒自身がまとめ、表現できたことがとても良かったと思う。</p>	
課題	<p>・日本で暮らす中でも身の回りに外国の物が多くあることに気がつき、世界の恩恵を受けていることに感謝の気持ちをもつことや日本と世界が繋がっていることに気がつくことができるような内容に今後取り組んでみたい。</p>		
備考			

システム思考で価値判断力・意思決定力を育成する

03

所属	静岡大学教職大学院	実践者	池田 哲朗
対象	大学生・大学院生	時間数	90分×3回
場所	教室	実践教科	キャリア教育
ねらい	<p>テーマ【キャリア形成、システム思考、ESDとSDGs、哲学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のキャリア形成や生き方・在り方を、ESDの視点から捉え直す。 ・学校の教育活動を、システム思考で再構築する。 ・自分なりの哲学や価値判断基準を持ち、自律的に意思決定する力を育成する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○「簡単に折れない心をつくるには」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心の根源【2次元軸表】 ・貧困とは【フォランゲージ】 ・システム思考 ・閉じるな開け…事実と解釈を混同しない【ロールプレイ】 ・脱「開発神話」と不便システム ・自己理解と自我同一性(アイデンティティ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・パワーポイント ・『学習する組織』ピーター・M・センゲ著 ・スフィアボール
	2	<p>○「立ちすくんだとき、どう生き抜くか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事実」と「真実」の違い ・俯瞰と焦点化 ・人間の深層心理【冰山モデル図】 ・焦点理論と社会関係資本 ・持続可能な開発のための教育(ESD)の可能性【ワールドカフェ】 ・真正の学力について考える【ロールプレイ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・写真 ・『「つながり格差」が学力格差を生む』志水宏吉著 ・付箋、模造紙、ペン
	3	<p>○「新学習指導要領が目指すもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経路依存性【ブレーンストーミング】 ・オランダのイェナプラン教育 ・なぜ経験学習が重要なのか【リンゴを使ったアクティビティ】 ・「平等」と「公平」の違い ・哲学する練習【「てつがく絵カード」を使ったアクティビティ】 ・持続可能な開発目標(SDGs)と新学習指導要領 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・『オランダの共生教育』リヒテルズ直子著 ・リンゴ、紙、ペン ・『グローバル時代の「開発」を考える』西あい、湯本浩之著 ・てつがく絵カード
成果	<p>ある学生の感想(抜粋)「私はESDと聞くと一歩引いてしまいます。大切なのはわかるけど、具体的にどうすればいいんだろうという思いがあるからです。ですが、微力だけど無力ではないという思いを持てば、何かが変わりそうです。自分も小さな一歩でもまず踏み出してみようと強く思いました」</p>		
課題	<p>学生は、合意形成をすることや納得解を導き出すことには長けている。しかし、他者と異なる意見を持つことや、根拠を持って自分の意見を主張することには臆病である。今回の実践はこれで終了ではなく、長く続く挑戦の始まりに過ぎない。</p>		
備考			




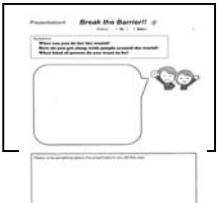
人に思いを馳せよう

04

所属	名古屋大学大学院 国際開発研究科	実践者	出原 豊寛
対象	中学生・高校生・大学生	時間数	1時間
場所	天理教 尾頭分教会	実践教科	
ねらい	<p>テーマ【思いを馳せること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のあたりまえと、途上国のあたりまえの違いに気づく ・人の尊さを考えさせる。 ・自分にも出来ることがあることを知る。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>① アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他己紹介、山手線ゲーム:最近あった嬉しかったこと、楽しかったこと →アイスブレイキングとともに、自分自身がどんなことが喜びなのか、楽しいと感じるのかを再確認させる目的で行う。 <p>② あたりまえの違いに気づこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンドアウトを配付し、それぞれの一日の流れを書いてみる。(平日、休日共に記入する) ・途上国の同年代の生活の例のハンドアウトを配付し、自分の過ごす一日との違いに関して話し合い、模造紙に書き出す。 →自分たちがいかに恵まれているかを理解するとともに、途上国の人々どのような問題を抱えているのか理解する。 <p>③ どれが自分のジャガイモ?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモを配付し、そのジャガイモに語りかけ、どのような特徴があるのかを自身で確認する。 ・そのジャガイモを回収した後、シャッフルし自身のジャガイモがどれかを選ぶ。 →人間は一人ひとり違いがあり、関係していることを再確認し、一人の人の尊さを考える。 <p>④ 自分にできることはなんだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の世界が抱える問題について再確認するハンドアウトを配る。 ・二人一組になり、日常生活の中で途上国を助けることになるための実際の行動を話し合い、発表する。 →少しの行動がどれだけの人を救うことになるのかを実感させ、行動に移すきっかけ作りをする。 	授業中使ったハンドアウトは、筆者が作成。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・途上国の同年代の人々の生活を知ると共に、日本がいかに恵まれた国であるかを理解できた。 ・途上国で起こる問題の悲惨さを理解すると共に、命の尊さを考えることができた。 ・自分が与えることができる影響について、考えることができた。 		
課題	<p>時間が1時間のみだったので、一つ一つのプログラムについて最重要事項の紹介のみに終わってしまった。また、グループワークの時間をもう少し長く取ること、参加者のイマジネーションを膨らますことのできる副教材を用意できるとさらに良い授業になったと感じた。</p>		
備考	<p>参加者は、中学3年生、高校2、3年生、大学2、3、4年生を含む計8名で行った。</p>		

つながって生きる ~Break the Barrier! ~

05

所属	愛知県弥富市立十四山中学校	実践者	伊藤 智子
対象	中学校3年生	時間数	6時間
場所	教室・コンピューター室	実践教科	英語
ねらい	<p>テーマ【肯定的に出会う:多様性、共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活の中に、たくさんの外国とのつながりがあることに気づく。 ・様々な国の様子を知り、国によって文化が異なること＝「多様性」を理解する。 ・自分たちが多様な世界で生きていることを自覚し、自分にできることを考え、宣言する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～3	<p>「自分たちは世界とつながっている」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな人を探して、身近な外国を見つけよう!【グローバルビンゴ】 “Let’s find someone who...” ⇒自分たちと身近で、つながりの深い国を探す。 <p>「この国どんな国？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界から1国を選び、その国について調べ、日本とのつながりを知り、世界の多様性に気づく。 ・「面白い」「驚き」「おすすめ」ランキングを考える。【ランキング表】 “Choose one country and check good, interesting or surprising points about the country.” <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈生徒が選んだ国〉</p> <p>韓国・中国・台湾・タイ・フィジー・アメリカ・ブラジル・エジプト アイスランド・アイルランド・イタリア・フランス・ドイツ・ブルガリア</p> </div>	<p>【グローバルビンゴ】</p>  <p>【ランキング表】</p> 
	4～5	<p>「いろんな国を知ろう」【ランキング表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな国についての発表を聞き、それらの国について知る。 ⇒発表・資料・写真等からわかったことを書き出す。 ⇒固定観念とは違う国の様子に気づく。 “Let’s find something new or surprising about the countries your friends tell.” 	
	6	<p>「つながって生きる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な世界で生きていることを自覚する。 ・違いやつながりを大事にして、自分ができていることを考える。 ・「こんなふうに生きたい!」という宣言をする。 “I want to...” 	<p>【こんなふうに生きたい】</p> 
成果	<p>参加型の学習を通して、言語だけでは伝えきれない内容を互いに深く理解し合うことができた。また、教科書では扱われていない様々な国の様子を知ることで、異なる文化に興味をもち、視野を広げるきっかけをつかんだ生徒も見られた。</p>		
課題	<p>生徒自身に国を選ばせたため、国や地域に偏りが出てしまった。また、様々な国と肯定的に出会った後、それらの国が抱えている問題について考えさせるためには、他教科とも連携して年間計画を立てる必要性があると感じた。</p>		
備考			

「豊かさ」って何だろう？

06

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	伊藤 宏将
対象	中学校3年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	社会科
ねらい	<p>テーマ【豊かさ・多文化共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸福度世界一になったフィジーと、日本の社会を比較して、「豊かさ」とは何か考える。 ・参加型の授業を通して、仲間と考えを共有し、社会の多様性について主体的に考える。 ・多様な価値観に触れることで、自分の生きかたを見つめなおす。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「豊かな国」日本??</p> <p>先進国である日本の暮らしと社会保障制度について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 13枚の「豊かさ」カードを配付し班で確認する。 ② 班で話し合い、3つまでオリジナルを付け加える。 ③ 16枚の「豊かさ」カードを、班で話し合い、大切にしたい順にランキングにし、ホワイトボードに掲示する。 【ダイヤモンドランキング】 ④ 「どうなってるの？世界と日本」クイズで日本と開発途上国を比較する。 ⑤ 日本の社会保障制度を復習し、豊かな日本の課題について班で話し合う。 	<p>大型テレビ ノートPC プレゼン資料 ワークシート 豊かさカード ホワイトボード 公民教科書</p>
	2	<p>「たまってない箱!？」</p> <p>話し合いを通して日本の年金制度とその問題点、解決策を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本の年金制度に関する資料を各自で読む。 ② 年金制度の課題を班でリストアップする。 【ブレンストーミング】 ③ 課題の解決策を班で話し合い、全体に発表する。 	<p>大型テレビ ノートPC プレゼン資料 ワークシート ホワイトボード 公民教科書</p>
	3	<p>「TAKE IT FUJI (EASY)!？」</p> <p>日本とフィジーの社会を比較し「豊かさ」について改めて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「こんなときどうする？」アンケートに答え、班で考えを共有する。 ② 世界幸福度ランキング(2018)を参考に、フィジーの概要を押さえる。 ③ フィジーの特徴ある文化について説明を聞く。 ④ 日本とフィジーの文化を比較し感じたことをWSに記入する。 ⑤ 班で話し合い、第1時で行った「豊かさ」カードのダイヤモンドランキングを見直す。 【ダイヤモンドランキング】 ⑥ 感想を書く。 	<p>大型テレビ ノートPC プレゼン資料 ワークシート 豊かさカード ホワイトボード 公民教科書 参考資料 『世界でいちばん幸せな国 フィジーの世界でいちばん 非常識な幸福論』 永崎裕麻、いろは出版</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法を取り入れることで、生徒が主体的に課題の解決策を考えることができた。 ・日本とフィジーの比較を通して「豊かさ」にも多様なとらえ方があることを押さえることができた。 ・今回の実践以外にも、開発教育・国際理解教育のカリキュラムを意識し、参加型の手法を取り入れることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が実際に訪れたことのあるフィジーを一方向的に紹介したことで、「フィジー文化」を生徒がステレオタイプのとらえた部分があると感じた。日ごろから、ものごとを多面的にとらえることを習慣にできるように、カリキュラムを構成していきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・番外編として、今回の実践とは別の流れで「多文化共生社会」について考える実践を行った。 ・カリキュラムの流れを事前に吟味し、今回の実践とつながるように改めて取り組んでいきたい。 		

共通の未来について考えよう

07

所属	愛知県名古屋市立川名中学校分校	実践者	岩塚 善哉
対象	中学校1年生	時間数	6時間
場所	教室、多目的室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・食への感謝の気持ちを高める。 ・「フードマイレージ」について学び、環境問題について関心を高める。 ・自分の考えを表現し、コミュニケーションがとれるようにする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食への感謝 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食料廃棄物の量について知る。 ・ 「いただきます」「ごちそうさま」の意味について知る。 	パワーポイント
	2	○ うどん作り体験	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料自給率と環境問題 <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs「持続可能な開発のためのグローバル目標」について知り、国際問題や環境問題などがあることを知る。 ・ うどんの原材料の小麦粉の自給率や、日本の食料自給率について知る。 ・ 国内の食糧自給率とフードマイレージについて知り、フードマイレージが高いほど、環境への負担が大きいことを知る。 ・ 持続可能な社会をつくるためには、一人一人が考えて行動することが大切であることを気付かせる。 	パワーポイント
	4-6	<ul style="list-style-type: none"> ○ もしも地球の気温が2度上がったら <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">グループワーク【派生図】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿って、「良いこと」「どちらともいえない」「悪いこと」の3つの視点から意見を出し、書き出す。 ・ 他グループのマインドマップを見て、自分の意見を伝える。 ・ 仲間の「？」に答えることができるように準備する。 ・ 難題解決のためにできることをグループで考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">振り返り～まとめ～</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループが仲間の疑問について解決のために考えたことを発表する。 ・ 「振り返りシート」を書いて、学んだことを振り返る。 	模造紙、ペン
成果	<p>うどん作り体験を行い、食への感謝を味わわせることができたとともに、その原料である小麦粉の90%が輸入に頼っていることにも気付かせることができた。また、フードマイレージから環境問題について考え、自分たちができることについて発表することができた。</p>		
課題	<p>知ったこと、感じたことを言葉にすることができていたが、今後、本当に行動が伴って行動できるかどうか、大切になってくる。</p>		
備考	<p>参考文献 「こども eco 検定」公式テキスト 地球教室 応用・研究編</p>		

自分も世界も未来へ向かって～パラグアイとの出会いから～

08

所属	三重県伊賀市立阿山中学校	実践者	大澤 健人 P
対象	中学校2年生	時間数	13時間
場所	教室・体育館	実践教科	社会
ねらい	<p>テーマ【異文化理解、SDGs、コミュニケーション、キャリア、自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイとの肯定的な出会いから、世界と日本・世界と自分のつながりを実感する。 ・世界が直面している課題をSDGsから学び、解決のために私たちができることを考える。 ・さまざまな国の現状を知ること視野を広げ、あたり前になっている自分の「幸せ」に気づく。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>パラグアイについて知る【フォトランゲージ・ブレインストーミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここはどこ？(テレレ・文化・国旗・町並み・日系社会…) ・あなたがもつイメージは？(パラグアイ・開発途上国…) ・行ってみたらホントはこんなところだった 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修の写真 ・世界地図・国旗 ・テレレセット ・パラグアイ紙幣
	2-3	<p>○2～8回は社会科の授業内容に関連づけて取り入れる参加型学習を体験する</p> <p>【派生図・重みづけ・ギャラリー方式・リストアップ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント
	4-8	<p>パラグアイについて知る②【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然トンネル→農業 ・小農家→畜産 ・ニヤンドウティ→伝統工芸品<動画> ・開発と雇用→持続可能な社会 ・トリニダの遺跡→歴史 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物「ニヤンドウティ」 ・教師海外研修の動画
	9	<p>パラグアイについて知る③ ※文化祭展示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材「パラグアイBOX」
	10-11	<p>SDGsから世界の現状を学び、私たちができることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを学び、世界や日本が直面している課題と向かいあう 【ポップコーン方式・派生図・ギャラリー方式・重みづけ】 ・課題解決のために頑張る人の生き方に学ぶ<動画> 	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子「私たちが目指す世界」
	12-13	<p>世界の国々から学ぶ【フォトランゲージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここはどこ？(12か国を取り上げた) ・パラグアイの日系社会から気づく<動画> ・あなたにとって今なくなったら困ること・ものは？ <パラグアイと日本をむすぶアンケート> ・幸せのとらえ方 <世界がもし100人の村だったら> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材「国際理解カード」 ・図書「世界がもし100人の村だったら」
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・現地に行ったからこそわかる、その国の空気感や人々の表情・声を大切にして授業を行うことができた。 ・国際理解や他者理解を通して自分を振り返り、生徒1人1人の視野や考え方を広げることができた。 ・通常の社会科の授業と並行して行うことで、既習内容とつなげたスパイラルな学びができたと感じている。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づきから行動するためのスキル」へつなげる手立てが弱く、これからも実践し続けていく必要がある。 ・教材ありきの授業ではなく、目の前にいる生徒の姿に合わせて授業を組み立てなければならない。 ・限られた時間のなかで一貫性をもつプログラムを実施できず、断片的な学習になってしまった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でペア・グループ学習を取り入れた授業を行っており、主体的に考え学びあう習慣ができていたため、班活動が停滞することも少なく、生徒の力に助けられる部分も多かった。 		

バスが来るまで一緒に待つよ！～世界と肯定的に出会う～

09

所属	愛知県立緑丘商業高等学校	実践者	片田 智香子
対象	高校1年生	時間数	5時間(50分×5)
場所	教室	実践教科	国語
ねらい	<p>テーマ【多様性と同一性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随筆「待つということ」に描かれたタイ人の行動から、世界の様々な文化・価値観に興味を持つ。 ・世界の文化についての偏った見方に気づく。 ・世界の多様性と同一性に触れることによって、自らのものの見方を広げる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	随筆「待つということ」を読解する。	「待つということ」 角田光代
	2	<p>1 「待つということ」のまとめシートを記入する。</p> <p>2 なぜ「バイク・タクシーの男性は筆者と一緒にバスを待ったのか」について各自考える。</p> <p>3 <タイ・クイズで日本以外の社会を知ろう> (アイス・ブレイキング) 「タイ・クイズ」をグループで行い、グループでの活動に慣れる。</p> <p>4 「タイ・クイズ」の正解をグループで確認した後、最も興味を持った「日本との違い」について、各自シートに記入し、自らの気づきを再確認する。</p>	<p>公益財団法人・愛知県国際交流協会 『世界の国を知る・世界の国から学ぶ・わたしたちの地球と未来』 p8～9 タイ王国</p>
	3	<p><世界について自分の見方に気づこう> 【ランキング】【フォト・ランゲージ】</p> <p>1 『地球家族』から①インド、②エチオピア、③モンゴル、④ロシア、⑤イギリスの写真を提示し、世界地図を見せながら、国あてゲームを行う。</p> <p>2 次の質問について、各自ランキングづけをし、その理由とともにシートに記入する。①幸せそうな順 ②3日間ホームステイしたい順 ③2ヶ月間ホームステイしたい順 ④お隣に引っ越してきて欲しい順</p> <p>3 グループで各自のランキングと理由を聞き合い、シートに一覧を作る。その後、一覧の数字を分析し、気づいたことをグループごとにクラス発表する。</p> <p>4 各グループの発表を聞いて、考えたことをシートにまとめる。 →このアクティビティで、多くの生徒が「各グループの考えが似通っていること」に気づいた。</p>	『地球家族』 ピーター・メンチェル著 TOTO 出版
	4	<世界の家族になっちゃおう> 【ロール・プレイ】【フォト・ランゲージ】	
	5	<p>1 同じく「地球家族」より1グループにつき1枚の写真を割り振る。その写真の中の誰かになりきって家族を紹介するロール・プレイを行うため、下準備としてシートに記入する。</p> <p>2 この家族について「言ってほしいこと」「言ってほしくないこと」をいくつか考えて記入する。</p> <p>3 グループ内でロール・プレイを行う。</p> <p>4 クラス全体で「言ってほしいこと」「言ってほしくないこと」を各グループの代表者が発表する。</p> <p>5 発表を受けて、各自で気づいたことをシートに記入する。指名により意見を発表する。</p> <p>6 <「待つということ」のバイク・タクシーの男性の行動を考えよう> この一連のアクティビティで考えたことをもとに、もう一度「待つということ」のバイク・タクシーの男性の行動について考えを深めてシートに記入する。</p>	
成果	文化が多様であり価値観も多様であることに気づけたとともに、世界の人々と自分たちとの共通性も感じられた。また、国語の教材の内容を多角的な視点で見つめ直すことができ、読解をする以上の深い思考を生徒たちに与えることができた。		
課題	ランキングで行った数字の分析は、生徒にとっては少し難しかったようだ。今後は、シンプルな手法で生徒たちの思考力を磨けるようなプログラム作りを心がけたい。		
備考	国語の授業での実践を考慮し、「書くこと」に重点を置いたプログラムとした。そのため、シート記入に時間を割いた。		

同じも 違うも みんないい

10

所属	愛知県春日井市立玉川小学校	実践者	加藤 侑子 P
対象	小学校1年生	時間数	8時間
場所	教室・家庭科室・廊下	実践教科	学活、音楽
ねらい	テーマ【受容】 ・自分と異なるもの・自分が知らないものと肯定的に出会い、知的好奇心に繋げる。 ・自分ができることを考えて、行動する。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆1日に2回、止まらなければいけない国がある？！ ・それぞれの国に国歌があり、聞く場面や回数は異なることを知る。	タイ国歌 タイ国歌が流れた際の動画
	2	◆世界には、どんな国がある？【ロールプレイ】 ・国旗パズルで、様々な国旗があることを知る。 ・配られた写真の人になりきって自己紹介をし、他国の人に興味をもつ。	国旗パズル パラグアイ国旗 7カ国の子どもの写真
	3	◆どんな生活をしているの？【4つのコーナー】【フォトランゲージ】 ・4カ国の家を提示しどこに住みたいか問うことで、自分ごととして考える。 ・写真から、どこで何をしているところか考えることで、興味をもたせる。	4カ国の家の写真 写真7枚、世界地図 パラグアイ伝統衣装
	4	◆どんなものを食べているの？【4つのコーナー】【フォトランゲージ】 ・いつ、だれが食べていて、何が入っており、どんな味がするか考えることで、その食べ物と国に興味をもつ。	ご飯の写真4枚 写真7枚、世界地図 テレセツト、チパ粉
	5	◆あなたの大切なものは何？ ・友達の大切なものをビンゴカードに書き、パラグアイの子の大切なものを読み上げビンゴを行うことで、住んでいる場所は違っても、大切なものは同じであることに気付く。	ビンゴカード パラグアイの子が描いた大切なものの絵
	6	◆幸せってなんだろう？【統計ラインアップ】 ・日本の子ども、パラグアイの子どもの幸せ度を予想する。 ・パラグアイの子の「幸せじゃない」理由から、幸せとは何か考える。 ・みんなが幸せになったらどうなるか、一人ひとりが考える。	パラグアイ・日本の旗写真
	7	◆みんなが幸せになるためにできることは何だろう？ ・他国のエピソードを参考に、みんなが幸せになるために、自分ができることを考える。	タイ・パラグアイの旗写真
	8	◆気付いたこと・学んだことを伝えよう ・学習発表会にて、学んだことを保護者に伝える。	
成果	・本プログラムと並行して授業時間外での活動も取り入れたため、様々な教材から感じる事ができた。 ・自分たちの当たり前が全てではないと、他の国の文化を受容する姿が多く見られた。 ・世界との入口に肯定的に出会えたことで、積極的に知りたいと思い、行動する子どもが出てきた。		
課題	・クラスで考えた「みんなが幸せになるためにできること」を実践中ではあるが、相手を思いやり、優しい心で行動することはまだ難しい。 ・教師の伝えたい思いが先行し、話しすぎた場面が多かった。その時間を交流の時間にまわすべきだった。		
備考	授業時間外で、国旗くじ・スペイン語講座・名探偵からの挑戦状(国旗探しクイズ)をそれぞれ、毎日・不定期・週1の頻度で取り組んでいる。		

世界一周旅行に出発！～どんなものを食べているのかな？～

11

所属	愛知県岩倉市立五条川小学校	実践者	河合 あずさ
対象	小学校4年生	時間数	2時間
場所	教室	実践教科	学級活動
ねらい	<p>テーマ【共生・食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中にはたくさんの国があり、様々な食べ物が食べられていることに気付く。 ・多様な価値観をもつ人たちと、よりよい関係を築くためにはどうすればよいかを考えることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1 世界中にはどんな国があるのかな？</p> <p>(1) 世界一周旅行に出かけて、たくさん友だちを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① あいさつカードをもとに、あいさつをする。 ② あいさつをした言葉と国名をプリントに記入する。 ③ なるべくたくさんの国の人と出会って友だちになる。 <p>(2) どこの国のあいさつなのかな？</p> <p>世界地図をもとに、国名と場所を確認する。</p> <p>2 それぞれの国では何を食べているのだろう？</p> <p>(1) 各国の家族と1週間分の食料の写真を見て、気づいたことをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこの国のどんな家族なのだろう？ ・わたしたちと同じところはどこだろう？ ・わたしたちと違うところはどこだろう？ <p>(※良さをたくさん見つけるよう助言する。)</p> <p>2 (2) グループで気付いたことを、全体で発表する。</p> <p>(3) 初めて行った国で知らない食べ物に出会ったら、自分ならどうするかを考える。</p> <p>3 サラちゃん和レイモンドくんの今日のごはんを見てみよう。</p> <p>(1) アフリカで食べられている食材を知る。</p> <p>(2) 教師の体験を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では当たり前のように食べられているものが、他国では違うこと、またその逆もあること。 <p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で気付いたこと ・いろいろな国の人と仲良くなるにはどうしたらよいのだろう？ ・今、自分たちにできることは何だろう？ 	<p>あいさつカード (8カ国分) プリント</p> <p>世界地図</p> <p>地球の食卓写真 (8ヶ国分+日本) A3用紙 付箋 【対比表】</p> <p>アフリカ食材 食事風景写真</p> <p>プリント</p>
成果	<p>日本と他の国の1週間分の食料の比較を通して、世界中には色々な国があり、様々な食べ物がたくさんあるということに気付くことができました。また、自分たちにとっては「おいしい」と思っているものでも、他の国の人にとっては違うこと、またその逆もあることを実感し、異文化について考えるきっかけとなった。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめの時間をもう少し確保できると、より深い気付きにつながったのではないかと考えている。 ・今後も発達段階に応じた活動形態を工夫し、参加型の授業を充実させていきたい。 		
備考	<p>参考文献: 地球の食卓(開発教育協会)</p>		

私たちにもできる支援活動～ハイチ地震を通して～

12

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	川合 孝弥
対象	高校1年生	時間数	3時間(50分×3)
場所	教室	実践教科	コミュニケーション英語 I
ねらい	<p>テーマ【支援活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイチ地震とその被害を大きくした原因は何だったのかを知る。 ・世界には苦しんでいる人々がたくさんいることを知り、さまざまな支援活動があることを理解できる。 ・苦しんでいる人々に対して、自分たちにできることは何か考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>ハイチ地震とその被害を大きくした原因を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 他己紹介「色に例えたら」【アイスブレイキング】 ② 記事「ハイチ地震」をジグゾー法で読む。 ③ 映像資料“Haiti earthquake”を見る。 ④ 「1日1ドルで生活する」について、どのように1日1ドルで生活するのか考える。 ⑤ 記事「ハイチ地震」を読んで、被害を大きくした原因は何だったのかを模造紙にまとめる。【因果関係図】 ⑥ 他のグループの模造紙を見て回り、自分たちのグループにない原因にしるしをつける。【ギャラリー方式】 	A4用紙 ペン 資料 映像資料 模造紙
	2	<p>自分たちにできることは何か考える</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 私たちにできることには何があるか、ポストイット1枚につき1つのアイデアを書く。1つずつ読んで模造紙に貼る。【二元軸】 ② 他のグループの模造紙を見て回り、自分たちのグループない「私たちにできること」にしるしをつける。【ギャラリー方式】 ③ 私たちにできることには何があるか、「私たちの〇ヶ条」で英語でまとめる。また、原稿を作成する。 	模造紙、 ペン ポストイット ハンドアウト
	3	<p>自分たちにできることを発表する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グループで発表する。 ② 感想をシェアする。 	
成果	教科書の内容で“We are the world”の歌が生まれた背景を知った上で、ボランティアや支援活動について知ることができた。また、さまざまな参加型手法を通して、自分たちに何ができるかを考え、発表することができた。		
課題	テーマが難しかったこともあり、日本語で言語活動を行うことが多くなってしまった。今後はどうしたらより英語で言語活動を行えるか、試行錯誤していきたい。また、テーマが難しい場合は背景知識を提供する必要があると分かった。		
備考	夏休みの宿題として、“We are the world”を歌っている歌手や団体がどのような支援活動を行っているか、調べ学習をした。		

身近なものから世界へ！教育とパーム油をめぐる問題

13

所属	大同大学大同高等学校	実践者	北西 麻衣良
対象	普通科高校1年生(7クラス)	時間数	3時間(50分×3)
場所	各ホームルーム教室	実践教科	総合
ねらい	<p>テーマ【教育/貧困/人権/共生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを念頭におきつつ、身近なものを通じて世界の実情を知る。 ・『教育を受けることができる幸せ』から『教育の重要性』や『知らないことの怖さ』に気づく。 ・自分と世界とのつながりに気づき、共生社会に生きる一人としての在り方を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>SDGs～教育について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて知る 国連の開発目標であるSDGsには、どんなものが解決すべき問題として挙げられているのかを知る ・教育を受けられないとどんなことが問題か 17項目あるSDGsのうち、私たちが一番身近な「教育」の問題について、当たり前すぎて普段考えたこともないそもその部分から見ていく ・教育を受けられないことで起こる「負の連鎖」 教育を受けられないことで、連鎖が続いていくことをカードによって知る ・教育の機会を均等にするためには、どれだけの資金が必要なのか【ダイヤモンドランキング】 	<p>国際連合広報センター『SDGsロゴ』</p> <p>JICA資料『世界一大きな授業』</p>
	2	<p>パーム油問題からわかること①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーム油ってなに？私たちとどんな関係があるの？ スーパーマーケットやコンビニエンスストアで売っているお菓子やデザート の原材料欄を見て、「よくわからない油」の存在を知る ・パーム油をめぐる4つの問題 各自1つ資料を読み、グループ内で発表する。そこから出たキーワードをもとに内容をグループで分かりやすくまとめたのち、他グループの成果物に星マークを描きながらクラスを回る【マインドマップ】 	『プランテーション・ウォッチ』
	3	<p>パーム油問題からわかること②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な食べ物に潜む私たちの問題/世界の問題 様々な問題を抱えるパーム油が、消費者である私たちにどうやって伝えられるか、またなぜ大量に消費されているかを知る ・解決策を考えよう(消費者としてできる選択) フェアトレード製品の存在などを知ったうえで、「私」⇒「私たち」にはどんなことができるのか考えてみる【ピラミッドランキング】 ・まとめ 	
成果	<p>多くの生徒から、『今までまったく考えてもみなかったことを考えるきっかけになった』『自分たちの選択が誰かの人生を決めている』『今後の生活で実践していきたい』といった声を聞くことができ、国際理解のきっかけづくりになった。また、回を追うごとにグループで協力して取り組む姿に生徒の成長を感じた。</p>		
課題	<p>今回3時間のプログラムでは、きっかけづくりというところから一歩踏み込んだことまでできなかったのも、来年度以降も継続した活動を行いたいと思う。今回の取り組みを見ていて、その際には、生徒がもっと主体的に学べるような仕掛けをこちらが考えていく必要があると感じた。</p>		
備考			

「知る」を「知る」～*knowledge is power to save the world*～

14

所属	愛知県私立愛知高等学校	実践者	木村 智子 E
対象	中学校3年生以上～一般	時間数	3時間(90分×3)
場所	教室	講座名	土曜講座(国際理解講座)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が「地球人」であることに気が付き、参加型の活動を通し、新しい自分や他者との共通点、相違点を認める。【コミュニケーション】 ・世界に目を向けつつ自分の環境を振り返り、これからの自分の起す行動が世界を変える可能性に気付く。 ・すべての「学び」が「よりよい未来」に繋がるとこを知る。【教育】 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル 이슈の提示/参加型への心構えとお願い4C ①6か国語で自己紹介(いきなり難民体験)※スライドあり (アムハラ語(エチオピアの公用語)→スペイン語→韓国語→中国語→英語→日本語) ・グループで感情の共有 英語って何だろう? ・世界共通語の理解≠国際理解 ②国際理解って何だろう? 国って何だろう? [グループ] ⇨色んな人が居る集団 ③自己理解、他者理解を深める(アイスブレイキング2つ) ④「幸せ」とは?(自分にとって/皆にとって/その繋がり)【派生図】【回す】 ⑤ビデオの視聴「飢える国、飽食の国」 ⑥国名カード・繋がりカード・影響カードで「繋がり」について考える(GW) ⑦感想記入 	4C communication collaboration critical thinking contribution ・スライド、模造紙、 マジック 高校生のアンケートと エチオピアでのアンケ ートのスライド ・国名/繋がり/影響カ ード
	2	<ul style="list-style-type: none"> ①自己理解、他者理解を深める(アイスブレイキング2つ) ②好きなおでんの具はどこから来てる?(生産国や自給率を知る) ③前回の影響カードの振り返り ④「より良いつながり」について考える ⑤エチオピアについて(どんなイメージ?【刺繍】 →【クイズ】やスライドで【ホラナゲ】) ⑥感想記入 	・スライド ・エチオピアクイズ ・現地での写真/音楽
	3	<ul style="list-style-type: none"> ①パースデーライン(ルパール)でグルーピング→アイスブレイキング ②エチオピアについて考える ※スライドの鑑賞 (共通点・相違点→相違点の原因)【対比表】 ③「あってはならない違い」に気が付く ④あなたならどうする?(GW) (日本では? エチオピアでは?) ②③④ に共通していること=「知る」機会の欠如 に気が付く ⑤「夢」について考える (自分の夢、そもそも夢って?) ⑥パラグアイについて考える ※英文での状況シートを理解し、自分の役割(A/B)で問題の解決法を考える【個人】→【グループ】 ⑦実際にその町のとった行動を紹介する(クイズ→映像) ⑧感想記入・これから世界に飛び出すみんなへのお願い 	・現地での写真 ・スライド ・英文(高1レベル)と写 真 ・映像 landhill harmony in Paraguay
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の映像や写真のおかげで生徒(一般の方も)は世界を身近に感じ、自分のことを振り返る機会となっていたようだ。アクティビティーに参加する意義を確認してから行ったので、初めての取り組みにも積極的に取り組み、異年齢から刺激を受けあっているようであった。当然のように受ける「教育」の素晴らしさを改めて気が付いた生徒が多かった。色々な教科での学びが線となって繋がった感覚を持つ生徒もいた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 取れる時間が少なく、じっくりと考えてほしい課題なのに時間に追われてしまった。毎時間の受講者が違うので、なかなか深まった感じが得られなかった。特に2回目はエチオピア紹介で終わってしまった。PC がフリーズしてしまうと時間が止まってしまうので、繋ぎのものを準備しておく方がよかった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニングやスライドショーや感想の記入時はエチオピアソングをバックミュージックで流した。 ・一番小さい子は年中さんから年配の方は還暦越えの方まで参加者の幅があった。 		

英語で考える 世界の子どもたちのための教育支援

15

所属	名古屋学院大学 国際文化学部	実践者	工藤 泰三
対象	大学1年生	時間数	4回、計200分
場所	名古屋学院大学白鳥キャンパス 普通教室	実践教科	英語演習2
ねらい	<p>テーマ【世界の子どもたちのための教育支援について考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界(とくに開発途上国)の教育の現状を知る。 ・質の高い教育を受けることの重要性について考える。 ・世界の子どもたちのための教育支援の方法について考察する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>①写真を見て子どもたちの生活を想像してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドで撮影された写真を見て、rickshaw に乗っている子どもたちとそれを引いている男の子の違いについて考える。【フォトランゲージ】 ・彼らが将来どのような生活を送ることになるのか想像する。【対比表】 	写真は「世界と地域をつなげ『話し言葉』による参加と対話を促す ESD フォト・クリップ教材集」(佐藤真久・村松隆 監修)より
	2	<p>②クイズを通して世界の教育の現状を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・"How many children in the world do not attend school?", "How many adults in the world can't read or write?"などの問いを通し、教育を十分に受けることができていない人々の存在を知る。 ・ワークシートを用い、その人々が十分な教育を受けられない理由について考察する。【分類表】 ・記入したワークシートをグループ間で回覧し、それぞれのグループの考えをクラス全体で共有する。【回し読み】 	クイズ問題は JNNE 「世界で一番大きな授業」資料より
	3	<p>③マララ・ユサフザイのスピーチを読もう【ジグソー・リーディング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに割り当てられたパートのワードリストを作る。 ・グループのメンバーそれぞれが異なったパートの担当となり、同じパートの担当が集まって(エキスパートグループを作って)そのパートを読み、内容を理解する。 ・元のグループに戻り、各パートの内容を共有する。 ・グループで協力して Q&A に答えした後、Kahoot!で答え合わせをする。 	ワードリストは Quizlet で共有 (Quizlet については https://quizlet.com/ を参照のこと)
	4	<p>④世界の子どもたちが十分な教育を受けられるようにするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで話し合い、支援方法を1つ選ぶ(または考える)。 ・その支援方法の利点と欠点について考え、ポスターにまとめる。 ・掲示されたポスターを室内を歩き回って読み、よい内容のところにステッカーを貼る。【ギャラリー】 	Kahoot!については https://kahoot.com/ を参照のこと Post-it® の Tabletop Easel Pad を使用
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のコメントから、この活動を通して多くの学生が単に「知る、聞く、分かる」などの低次思考だけでなく「考える、理由、想像、調べる、違い、話し合う、思いつく」などの高次思考を行っていたことがわかった。 ・参加型活動を多く取り入れることによって、英語が苦手な学生も積極的に活動に取り組むことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の学生がそれぞれの課題に対しどう考えているのか、ゆっくり時間を取って書かせてみたい。 ・口頭で意見を述べる機会をもっと多く設けたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の実践発表の一部には、実践者による日本 CLIL 教育学会第3回研究会における発表内容、および名古屋学院大学論集 言語・文化篇第29巻第2号(2018年3月刊行予定)の論文の内容が含まれています。 		

世界が幸せになるために

16

所属	静岡県立静岡中央高等学校	実践者	久保田 真代 P
対象	高校2年生以上(12人)	時間数	10時間(1コマ90分)
場所	教室	実践教科	現代文 A
ねらい	<p>テーマ【共生、貧困、豊かさ、幸福】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とパラグアイの共通点や相違点を知り、価値観や文化の多様性に気づき、受け入れる心(態度)を養う。 ・課題を知り、原因を考え、今後皆が幸せに暮らしていくためにできることを実践できる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-4	<p>(教科書教材「文化と理解」「幸せの分量」学習後)</p> <p>○世界の国について知ろう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界地図に場所を書き込みながら、ワールドクイズ ・じゃがいもさんとおともたち ・世界の食卓【フォトランゲージ】 ・食料自給率、フードマイレージ【できることビンゴ】 	『現代文 A』大修館 愛知県国際交流協会ホームページ 『地球の食卓』写真 『地球の食卓学習プラン10』『フードマイレージ』開発教育協会
	5-6	<p>○世界と日本のつながり、パラグアイと世界をつながりを知ろう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切なものアンケート ・世界と日本のかかわり ・パラグアイクイズ ・パラグアイ体験 ・どれが日本でしょう 	愛知県国際交流協会ホームページ 教師海外研修の写真や購入したもの
	7	<p>○パラグアイの課題、日本の課題を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ貧困に陥ってしまうのか【因果関係図】 ・翻って日本はどうなんだろう【因果関係図】【派生図】 	教師海外研修の写真、動画
	8	<p>○課題解決に向けてどんな取り組みがあるのか知ろう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模農家の自立を促すために【ロールプレイ】 ・実際の取り組み紹介 	教師海外研修でいただいた資料、写真、動画
	9-10	<p>○幸せとは? 幸せになるためには?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの思う幸せのかたちって?【条件の共有】 ・大切なものアンケートの共有 ・幸せを阻むもの、幸せの条件【アンケート、ダイヤモンドランキング】 ・世界が幸せになっていくために、何ができるだろうか【できることビンゴ】 	『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店 教師海外研修での資料、写真
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイという今までまったく知らなかった国と肯定的出会い、そこから世界の多様性にも気づけた。そして国際理解について前向きに考え、授業に取り組んでいた。 ・世界のために出来ることを自分なりに考え、実践するきっかけとなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークが苦手な生徒への支援をどのようにするか、考える必要がある。 ・生徒の実態把握が不十分で授業計画通りに進まなかった。来年度以降はメリハリをつけて実践していく。それに付随して、生徒たちの考えを引き出す発問、資料内容を考えていく必要がある。 		
備考	この他、外国語科の科目「異文化理解」の時間(45分)をいただき、パラグアイクイズを実践した。		

世界とのつながり ~日本で生きる自分と世界で生きるあなた~

17

所属	三重県いなべ市立藤原中学校	実践者	児玉 恵理 E
対象	中学校2年生	時間数	6時間
場所	教室	講座名	英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他国と肯定的に出会い、その国や日本の良さに気づく。 ・世界と自分(日本)がどのように関わっているかを知る。 ・日本で生きる自分と、世界で生きるあなた、自分の可能性やこれからについて考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ① 「アフリカのイメージは？」(ペアで) ② これって何？エチオピアと日本の違い(班対抗) ③ エチオピアと日本のつながり、それぞれの国の魅力を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド、ペン ・Teddy Afro の音源、デッキ ・ワークシート
	2	<ul style="list-style-type: none"> ① Why do you study? なんで勉強するの？(勉強の役割、自分の役割)【派生図】 ② 自分なりの考えを班で交流した後、エチオピアでインタビューしてきたアンケート、写真、動画をスライドで見る。 ③ 自分なりの思いや理由を英語で書く。 ④ 感想を書いて発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生のアンケートとエチオピアでのアンケート・インタビューのスライド ・B4の紙とペン ・ワークシート
	3	① 世界にはどんな仕事があるのか考える。	・スライド
	4	② エチオピア研修で出会った5人の生き方について読みとる。	・ワークシート、5人の写真
	5	<ul style="list-style-type: none"> ③ 読みとった内容を班で交流する。【他者紹介】 ④ What is your dream? / What do you want to do?(将来について考える) ⑤ 自分の「将来」を英語で書く。 ⑥ 発表会を行う。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ① 世界とのつながりを知ろう。 ② 昨日の夜ごはんは？(ペアで) ③ チョコバナナ、お好み焼きは「どこから？」「何から？」【ブレインストーミング】 ④ 「植物油脂」=「パーム油」世界とつながっている私たち(日本) ⑤ パーム油のいいところと問題点 ⑥ 感想を書いて交流。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B4の紙とペン ・どうなってるの？世界と日本 ・パーム油についての資料、スライド ・感想用紙
成果	日本以外の国に興味を持って楽しそうに授業を受けていたのが印象的である。また、世界の人々の生活やその様子を紹介したことで、日本に住む自分の生活を振り返ることができ、「自分にできること」や「自分のこれから」について考えることが出来ていたので良かった。		
課題	授業時間を十分に取る事が出来なかった。また、英語の時間しか取れなかったので内容が英語の授業に少し偏ってしまうことがあった。研修で教えていただいた手法をあまり使えなかったため、これからはもっと使っていき、練習していきたいと思う。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や音楽があると生徒は興味を持つので、資料をしっかりと準備しておく。 ・学校の家庭の教科でもフェアトレードについて学ぶそうなので、連携して授業をしていけるといい。 		

『学び』は未来を創る(未来へひろがる数学)

18

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	近藤 勝士
対象	中学校3年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	数学
ねらい	<p>テーマ【幸せ、SDGs、数量的リテラシー】</p> <p>・何かを『学ぶ』ことは、未来へひろがっていくことにつながるということを実感することができる。</p> <p>・標本調査を学ぶことを通して、世にある調査結果やランキングをそのまま鵜呑みにすることなく、自分の頭で考え、どのように捉えるべきかを考えることができるようになる。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆『全数調査・標本調査を学び、「幸せとは何か？」を考える』…</p> <p>① 簡単なアンケート調査(ハンバーグセットにつけるのは、ごはん？ライス?)に答え、全数調査と標本調査について知る。</p> <p>② ワークシートの問題に取り組み、全数調査と標本調査のどちらがふさわしいかを考えられるようになる。</p> <p>③ 「世界幸福度ランキング2017(国連発表)」の存在を知り、「幸せとは何か？」を考え、付箋に書き出し、グループでKJ法で模造紙にまとめ、ギャラリ方式で見合う。 【リストアップ】【KJ法】【ギャラリ方式】</p> <p>④ 世界幸福度ランキングがどのような項目で評価されているかを知り、SDGs との関連をグループで考え、本時で気づいたことや感じたことを書き、振り返りを共有する。</p>	<p>大型テレビ</p> <p>ノートPC</p> <p>パワーポイント資料</p> <p>ワークシート</p> <p>付箋紙(リストアップ)</p> <p>模造紙(KJ法)</p> <p>ペン(プロッキー)</p> <p>SDGs冊子</p>
	2	<p>◆『標本の抽出方法や調査の仕方によって結果が変わることを学ぶ』…</p> <p>① 頭の体操(黒い玉はもともと何個入っているでしょう?)を通して、標本をもとにして母集団を推測できることを学ぶ。</p> <p>② 乱数表や表計算ソフトのランダム関数や層化二段無作為抽出法など、いろいろな標本の抽出方法を知る。</p> <p>③ 前時とは違う「世界幸福度ランキング2017(スイス WIN/Gallup International 発表)」の存在を知り、どう違うのかをグループで考え、標本調査のメリット・デメリットを対比表にまとめ、ギャラリ方式で見合う。 【対比表】【ギャラリ方式】</p> <p>④ 本時で気づいたことや感じたことを書き、振り返りを共有する。</p>	<p>大型テレビ</p> <p>ノートPC</p> <p>パワーポイント資料</p> <p>ワークシート</p> <p>模造紙(対比法)</p> <p>ペン(プロッキー)</p>
	3	<p>◆『標本調査を活用することで、世界の現状や課題を知ることができることを実感し、学ぶことが自分の未来と世界の未来をつくることを実感する。』…</p> <p>① 頭の体操(黒い玉は何個ある?)を通して、標本調査の性質を活用して母集団の性質を推測できることを学ぶ。</p> <p>② SDGs の目標に対して、どんな調査を行えばよいかをグループで考え、A3の用紙にまとめてみる。</p> <p>③ 『学ぶ』ことで得られるものを連想し、グループで派生図を作成し、ギャラリ方式で見合う。 【派生図】【ギャラリ方式】</p> <p>④ 本時で気づいたことや感じたことを書き、振り返りを共有する。</p>	<p>大型テレビ</p> <p>ノートPC</p> <p>パワーポイント資料</p> <p>ワークシート</p> <p>A3用紙</p> <p>模造紙(派生図)</p> <p>ペン(プロッキー)</p> <p>SDGs冊子</p>
成果	<p>・参加型の学習を通して、生徒達が積極的に意見を出し合うことができた。また、教科の学習内容の理解を促すことにもつながった。世界のために自分たちに何かできることはないかを、より考えるようになった。</p>		
課題	<p>・流れやつながりのあるプログラムが作れたとは決していけない。また、数学科における各単元において、開発教育・国際理解教育を取り入れた授業を今後も考案していきたい。</p>		
備考	<p>・世に出ている調査結果やランキングをどのように捉えるべきかを考える生徒が増えた。</p>		

お隣さんは外国人？—身近な多文化共生—

19

所属	公益財団法人名古屋国際センター	実践者	近藤 大祐
対象	大学1・2年生	時間数	1コマ90分
場所	名古屋市立大学	講義名	地域特色科目7
ねらい	テーマ【地域の国際化、外国人住民、多文化共生、相互変容、地域参画】 ・ ワークショップを通して、身近な多文化共生について考える ・ 多文化共生について枠組みを理解し、後の講義につなげる(該当回以降、各論が続く)		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化社会・日本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本社会の多様性について発問しながら説明 ・ 日本、愛知、名古屋それぞれの外国人人口等を図示 ・ なぜ外国人住民が増えているのか考えてもらい、数名発表 2. ワークショップ <ol style="list-style-type: none"> I. アイスブレイク「名刺で自己紹介」<10分> II. お隣さんは外国人？ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材「となりのベトナム人」を各自黙読する<5分>。 ・ 外国人が近所に引っ越してきたときの「よいこと」「心配なこと」を付箋に書き出し、読み上げながら模造紙に貼る<5分×2>。 ・ 上記ワークを鑑み、近所に外国人が引っ越してきた場合に「心がけたいこと5ヶ条」をグループで話し合い、書き出す<10分>。 ・ 他のグループの模造紙を見て回り、共感する部分に印をつける【カクテルパーティー方式】<5分>。 3. 多文化共生とは？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人住民が日本で抱え得る課題群を整理し、説明。 ・ 多文化共生の定義や意義、批判的見解、具体的取組の類型を概説。 4. 日本人から外国人への片思い？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「助け合う共助」の関係について、複数の事例から考える。 5. まとめ 地域の国際化に伴う課題は、外国人だけの問題でなく、日本人だけの問題でもない。お互いが理解し、お互いが変わることが大切。 	*予めグループ分けを実施。1グループ5名程度の8グループ
成果	多文化共生を考えるうえで、外国人住民のみならず、日本人住民とも顔の見える関係づくりが必要だと履修者に気づいてもらうことができた。また、ワークを通じて履修者各々が自分にできることを考え、その後、当センターのNIC子ども日本語教室で活動するなど、実際に1歩踏み出した者も確認できた。		
課題	今回は漫画教材を活用し、ワークショップを組み立てた。今後は、日本で育った外国人の若者によるスピーチなどの映像資料を活用し多文化共生を考えるワークをつくりたい。		
備考	【使用教材】「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会・みなみななみ.2013.「となりのベトナム人」『まんが クラスメイトは外国人 入門編—はじめて学ぶ多文化共生』明石書店,48-55.		

行動しよう！ 未来を変える 地球づくり！

20

所属	愛知県名古屋市立西築地小学校	実践者	榊原 早織 P
対象	小学校3年生 (35人)	時間数	23時間
場所	教室・体育館・多目的室	実践教科	総合/体育/図工/道徳/学活
ねらい	<p>テーマ【 肯定的・価値観・多面的・体験・SDGs・主体的 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは異なる考え方、暮らし、文化を肯定的に受け入れ、もっと知りたいと興味をもつ。 ・人・物などを通し、日本と世界がつながっていることを多面的に実感する。 ・自主的に考え、学び、世界の未来のために今、どう行動すべきか考えることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 2-3 4-6 7-12	<p>① 世界っておもしろい！ 《 世界と肯定的に出会おう 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パラグアイって？ ●世界の食卓 ●世界のダンス ●世界の動物 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの写真・動画・民芸品 ・冊子「世界の食卓」、巨大世界地図 ・世界のダンス音楽 ・世界の動物の写真、世界の民族柄
	13	<p>② ちがいを楽しもう！ 《 いろんな価値観を知ろう 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大切なものビンゴ ●友情の日 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの子どもが描いた絵 ・パラグアイの写真・動画
	14 15 16-18	<p>③ 私たちが知らない世界 《 世界が抱える問題を知ろう 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本への輸入がなくなると？ ●カカオ豆って？ ●問題を体験しよう(貿易ゲーム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルフェスタ JAPAN2017 資料 ・エチオピアの少年の動画、ACE HP ・冊子「新・貿易ゲーム」
	19-20 21 22 23	<p>④ 今、私たちができること 《 学び、考え、行動しよう 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SDGs って？ ●2030 SDGs ゲーム ●今、私たちができること ●伝えよう！発信しようプロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルフェスタ JAPAN2017 資料 ・クラスで考えた SDGs プロジェクト ・ワークシート ・SDGs の17個のロゴ
		<p>< 日常実践 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●今日のカントリー(朝の会) ●友情カード交換(席替え時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・巨大世界地図、世界白地図 ・友情カード、総合ファイル
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイをきっかけに世界の国々に興味をもち、他の国についてもっと知りたいという意欲が高まった。 ・他国と日本の関わりを知ることで、多様な考え方を受け入れ、自分とは違う価値観に気づくことができた。 ・今、世界が抱えている問題を知り、それを解決するために、自分に何ができるかを考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの知りたいという意欲に応えるために、教師が世界の国々について深く知っておく必要がある。 ・自分と違う価値観を受け入れることは、身近な友達との関わりと同じであることをもっと実感させたかった。 ・「伝えよう！発信しようプロジェクト」を学校内だけでなく、地域や家庭でも活動をさせるとよかった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のダンス音楽「ブラジルのサンバ」「エジプトのベリーダンス」「アメリカのロボットダンス」 ・グローバルフェスタ JAPAN2017「JICA ブースの SDGs クイズ、日本への輸入がなくなると？の展示資料」 		

人権を考える ～杉原千畝を通して～

21

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	榊原 麻起子
対象	高校1年生(国際理解コース)	時間数	3時間
場所	図書室	実践教科	総合英語
ねらい	<p>テーマ【人権】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たち一人一人がかげがえのない大切な存在であるということに気づく。 ・ 人権が守られないとどうなるか、過去の事例に学ぶ。 ・ 人権を守り、一人一人が尊重される社会を目指すために自分にできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>～ 一人一人が大切な人 ～</p> <p>④ 【アイスブレイキング】 “きっとあなたはこんな人！”</p> <p>1. 色に例えると？ 2. こどもの頃に好きだった遊び</p> <p>3. サンタさんに何頼む？ 4. 2030年何してる？</p> <p>⑤ “じゃがいもくん”と友達になろう</p> <p>絵を描き3分間でジャガイモのストーリーを考え発表</p> <p>⑥ ふりかえり ジャガイモでも感情移入できる。人間ならなおさら。</p> <p>人権についてのサイトを見てくるように指示</p>	<p>・A4用紙 ・ペン</p> <p>・じゃがいも(人数分)</p>
	2	<p>～ 人権とは？人権が守られないと？ ～</p> <p>① 『世界人権宣言』 自分と関連があるところに丸をつける</p> <p>② 人権が守られないと？【派生図】で考える</p> <p>③ 人権が守られなかった最悪のケース-ナチスのユダヤ人迫害</p> <p>④ ナチスによるユダヤ人迫害についての文を読み聞かせ</p> <p>⑤ なぜ人権が守られなかった？なぜ起こったのだろうか？</p>	<p>・『世界人権宣言』(谷川俊太郎・アムネスティ版)</p> <p>・模造紙 ・ペン</p> <p>・『アウシュビッツの子どもたち』(グリーンピース出版会)</p>
	3	<p>～ 人権を守る人になるために…杉原千畝から考える ～</p> <p>① 『杉原千畝』のトレーラーを視聴</p> <p>② “Visas for 6,000 Lives”をジグソーで読む</p> <p>③ 『ぼくがラーメンたべてるとき』読み聞かせ</p> <p>④ 千畝のような人権を守る積極的に自分の人権も他人の人権も守るために私たちにできることを3つ自分で書き出す</p> <p>⑤ 感想シェア</p>	<p>・DVD『杉原千畝』</p> <p>・“Visas for 6,000 Lives”(三友社)</p> <p>・『ぼくがラーメンたべてるとき』(教育画劇)</p>
成果	教科書で学習した内容(第一次世界大戦中の板東俘虜収容所)につながるような題材で生徒の興味関心を引くことができた。またナチスドイツのユダヤ人迫害について具体的に知るきっかけになり、今後の学習に対して動機付けを与えることができたのではないと思う。		
課題	扱う題材が難しいので、生徒の英語力で理解できるような題材を探し、4技能を統合するような活動を考えるのが難しかった。外国語だと内容の理解・思考のレベルが低くなってしまうので、どこを英語で行うか、どこを日本語で考えるか、バランスを考える必要があると思う。		
備考	授業のまとめとして、“千畝に助けてもらったユダヤ人の子孫として、千畝に手紙を英語で書く”という課題を課した。また、希望者を授業後集めてDVD『杉原千畝』を視聴する機会を設けた。		

多様性って何？ ～ALL FOR ALL みんなが大切にされる学校にするために～

22

所属	愛知県豊橋市立東陽中学校	実践者	櫻井 美香
対象	中学校1年生(約160名)	時間数	12時間
場所	教室など	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<p>テーマ【多様性, 共生, 異文化理解, 人権, コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な仲間と国籍や文化を越えて, かかわる。 ・主体的, 協同的に学ぶことで, 他者の違いとよさに気づく。 ・東陽校区, 東陽中学校の課題を, 外国人と日本人生徒ともに解決していこうとする意欲を養う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>【東陽中が100人の地球村だったら】</p> <p>～豊橋で一番外国人が多い学校、多様性のある学校として、地球規模の共生の課題を知ろうって体験しよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口、女性と男性の比率、人口分布、世界の言葉に関するアクティビティをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ版「世界が100人の村だったら」DEAR 開発教育協会 ・国際理解教育ハンドブック NIC 地球市民教室
	2	<p>【個人の多様性を知り, 理解しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E コード、部屋の四隅、価値観の多様性のシートを用いて、クラスの中の多様性を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒の書いた作文
	3	<p>【外国人がたくさんいる学校って損？VS得？ ディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知立東小学校(全国一外国人生徒がいる学校)の映像、東陽中の外国人生徒のアンケートを資料にディスカッションをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒の書いた作文
	4	<p>【ひょうたん島問題 出稼ぎに来る人たちの背景を知ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひょうたん島問題の中の「パラダイス学校は認められるか」を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション教材「ひょうたん島cd問題」
	5	<p>【外国人の子どもの気持ち、多様性を認めるってどういうこと？】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHK ココロ部「外国から来た転校生」の授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK「ココロ部」教材
	6	<p>【異文化を受け入れる気持ち, 自分が入っていった時の気持ちを体験しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化体験シミュレーションゲーム「ハンガー」を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンガー, トランプ
	7・8	<p>【異文化理解体験講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の方を呼んで、4つのクラスに分かれて、「ブラジルのカポエイラ教室」「ペルーのダンス教室」「フィリピンのタガログ語、遊び教室」「ルーマニアの文化教室」を行う。参加した講座の情報をあとで、生徒同志でシェアする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい開発教育のすすめ方
	9	<p>【ちがいのちがいがい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちがいのちがいをを行うことで、多様性と差別について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちがいのちがいがい DEAR 開発教育協会
	10	<p>【障害者と健常者の共生について考えよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全盲の生徒良ちゃんのケースを通して、校内や地域の共生について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TOSS ランド 道徳教材「良ちゃんの授業」
	11・12	<p>【グループでまとめと発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学校の特色(多様性)を生かして、よりよい学校にしていくための夢のプロジェクトを考えて、発表しよう。 	
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人生徒…校内の外国人生徒の困り感に無関心だったが、多様性や共生について知ることで、東陽中の校区や学校の中で、何か行動したい、という気持ちが高まった。 ・外国人生徒…自分たちの国に誇りを持ち、自信が持てるようになった。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2・3学年で、各10時間総合的な学習の時間に「国際理解教育」を行っているのだが、うまく連携が取れず、段階的なカリキュラムが出来上がっていない。 		
備考			

笑顔をやそう！～違いを認めて～

23

所属	愛知県名古屋市立宮前小学校	実践者	三小田 京子 E	
対象	小学校3年生	時間数	9時間	
場所	教室	実践教科	道徳・特別活動	
ねらい	<p>テーマ【共生・コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアを通して、世界の国の文化や出来事に興味をもち、多様性や、同一性に気付く。 ・他者とよりよい関係を築くために、違いを受容することや、話し合うことの必要性に気付く。 ・周りの人のために、自分のできることを考える。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<p>◆エチオピアを知ろうⅠ<エチオピアに興味をもつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒークイズ・エチオピアの紹介【クイズ】 ・エチオピアのこれが知りたい！【ポップコーン】 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント、コーヒー資料 	
	2-3	<p>◆エチオピアを知ろうⅡ<エチオピアに肯定的に出会う></p> <p>①笑顔いっぱい、エチオピアってこんな国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアの写真や動画を見る【クイズ】 <p>②エチオピアを体験しよう【体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・民族衣装・アクセサリー・楽器・コーヒーセレモニー・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント(エチオピアの写真・動画) ・現地で購入した物(民族衣装・コーヒーポットなど) 	
	4	<p>◆エチオピアと日本は違いだけ？【フォトランゲージ・対比表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違いだけでなく、つながりや同一性があることに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアの人々の写真 	
	5-6	<p>◆いろんな違い～あっていい違い・ダメな違い～【フォトランゲージ】</p> <p>①エチオピアの悲しみ<民族対立、靴磨きの少年></p> <p>②「違い」について考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・靴磨きの少年(動画)、民族の旗 	
	7	<p>◆違いを認め合っていくには、どうしたらいいのかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の中にある「思い込み」に気付く【レヌカの学び(エチオピア版)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・開発教育協会(DEAR)発行『レヌカの学び』 	
	8	<p>◆世界の悲しみ ～笑顔を増やそう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の挨拶(中国・ロシア・ウズベキスタン・コロンビア)【体験】 ・ロヒンギャの人々の現状を知り、自分なりの思いをもつ【ホー・ポノポノ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・中日新聞『ロヒンギャ』(世界と日本大図解シリーズ No.1331) 	
	9	<p>◆中国からの転校生を笑顔にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転校生の気持ちを考える【ポップコーン】 ・自分達のできることを考え、行動目標をたてる【派生図】 		
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアに興味をもち、日本以外の国の文化や出来事に興味をもつことができた。 ・問題を解決するには、話し合うことが大切だと気付くことができた。 ・自分の考えや行動を変える必要性を感じ、行動しようとすることができた。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の世界の出来事、問題への興味・関心や、多様性を受容する態度の継続。 ・問題解決の手段としての話し合いの習慣化。 ・気付きを深めて、行動するプログラムの工夫、効果的な参加型手法の取り入れ方。 		
備考				

誰かのことを想うとき、あなたと世界の枠が外れる。

24

所属	愛知県愛西市立立田中学校	実践者	白神 大典 E
対象	中学校1年生・2年生	時間数	8時間
場所	体育館・武道場・視聴覚室	実践教科	道徳、総合的な学習の時間、数学
ねらい	一人一人がお互いを尊重して、共に支えあって課題を解決し、それぞれが何のために成長し、私たちが暮らすこの世界に何ができるかを考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆『エチオピアってこんなところ』</p> <p>①エチオピアの遊び『足を合わせて、1・2・3・4・5！』をペアで行う。</p> <p>②エチオピア紹介ビデオを鑑賞する。</p> <p>③エチオピアBOXを使って、現地の物に触れる。</p> <p>④感じたことをまとめる。</p>	<p>パワーポイント資料</p> <p>エチオピア紹介ビデオ、エチオピアBOX</p> <p>エチオピアから持って帰ってきたもの</p>
	2-3	<p>◆『ぼくたちわたしたちは、なんのために学校で勉強するのか？』</p> <p>①エチオピアの人たちへのインタビュー動画を見る。</p> <p>②グループに分かれて、『なんのために学校で勉強するのか？』を考えて、模造紙に書き出す。【ブレインストーミング】</p> <p>③グループごとに発表しあい、共有する。</p>	<p>付箋</p> <p>模造紙(ブレンストーミング)</p> <p>エチオピアで撮影したインタビュー動画</p>
	4	<p>◆『勉強するとどうなるの？勉強しないとどうなるの？』</p> <p>①前回ブレインストーミングして作った成果物をもとに、勉強するとどうなるか、勉強しないとどうなるかの【対比表】を作成する。</p> <p>②作成した表を共有する。</p> <p>③2つの対比表を学年掲示物として、掲示する。</p>	<p>付箋</p> <p>B4用紙(対比表)</p>
	5	<p>◆『みんな違ったって、それでいい。』</p> <p>①体験型ワークショップ【レヌカの学び】を行う。</p> <p>②のびたの悪い所、ジャイアの悪い所をリフレーミングして、良い言葉に言い換えて、模造紙に貼っていく。【カード式整理法】</p> <p>③グループごとに成果物を発表する。</p>	<p>レヌカの学び</p> <p>模造紙(KJ法)</p>
	6-8	<p>◆『僕たちは世界を変えることができない。だけど。』</p> <p>①映画「僕たちは世界を変えることができない。」を視聴する。</p> <p>②JICA、青年海外協力隊の紹介をする。</p> <p>③シートに感想を書く。</p>	<p>DVD</p> <p>プロジェクター</p> <p>パワーポイント資料</p> <p>感想シート</p>
成果	普段は別々の教室で過ごしている生徒同士がクラスを超えて協力し、参加型のグループ活動を行うことで、信頼関係が生まれ、楽しく堂々と発表する姿が見られた。また、『なんのために勉強するのか』という大人でもなかなか答えの見つからない問いに、熟考し、自分たちだけの答えを導き出す良い機会となった。		
課題	講義形式ではなかなかこちらの意図通りに生徒へ伝えることが難しいと感じた。生徒に体感させる手法を多用すれば生徒の興味関心を惹き、伝えたい思いも浸透しやすいことを体感した。そのためには伝え手側が伝える手法について熟知していないといけないと感じた。		
備考	今年、自分が教師海外研修に参加することで、国際交流に興味のある生徒と話をする機会が増え、本校としては初めて、一名ではあるがJICA エッセイコンテストに応募した生徒がいたことは非常に嬉しく感じた。		



食から広がるMY WORLD

25

所属	岐阜県揖斐郡大野町立東小学校	実践者	白木 純子 E
対象	小学校4年生(46人)	時間数	12時間
場所	教室・ランチーム	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	テーマ【貧困】 ・世界には、様々な食があることを知る。 ・食は生命と関わっていることに気付く。 ・自分の食生活を見直す。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆身近な水について知ろう ・自分たちが一日に使う水の量はどのくらいだろう。 ・水は何にどのくらい使っているのだろう。	社会科「くらしをささえる水」でも学習済み
	2	◆世界の水事情① ・水クイズ～いろんな言葉で水を言ってみよう～ ・水から連想できる言葉 ・国あてクイズ～水が使われている各国のことわざを知る～	テキスト 「水から広がる学び」
	3-4	◆世界の水事情② ・地球上に占める水の割合とその中で生活に利用できる水の割合を知る ・資料から、どこの国が1人あたりの水の使用量が多いのかを探す ・エチオピアの少女「タムリさんの一日」を想像し、写真を並びかえる	
	5	◆「先生、エチオピアへ行く」～エチオピアの水&食について知ろう～ ・エチオピアの地域の水事情を紹介する ・JICAの支援で作った井戸の仕組み ・その他「エチオピアの子ども達の一日」	・コロ ・エチオピアの料理の写真 ・井戸や水汲みをしている少女の写真 ・エチオピアで汲んできた水を紹介
	6-7	◆世界の様々な食を見てみよう ・「世界の食卓」の資料を使って、各国一週間分の食事の種類と量を知ろう。 ・なりきり家族で発表	・資料 「世界の食卓」
	8	◆食と生命との関わりについて知ろう ・もしも、大地震が起き、食糧が足りなくなったら・・・	食料自給率表
	9	◆日本と世界との食のつながりについて ・夕飯の献立を立てよう！～食料自給率表をみて～	地球データマップ 「飢える国・飽食の国」
	10	◆食が満足に得られない人々 ・【フォトランゲージ】で原因を想像。地球データマップ	授業参観で保護者へ発表する
	11-13	◆自分たちができることはどんなこと?!～伝えていこう、食問題～ ・グループごとに、まとめて発表する	
成果	日本以外の世界の国に目を向けるきっかけとなった。エチオピアを紹介するに当たり、食に絞ったことで、日本と世界とのつながりを知るだけでなく、子どもたちは改めて自分の食生活を見直すことができた。		
課題	子どもたちが知っている世界の情報が少ないため、こちらから資料を提示することが多く、結果、教師の想定内のまとめになってしまったこと。		
備考	自分たちが知ったことを最後の授業参観で親の前で発表する活動では、張り切って準備をしていた。学んだことを一生懸命伝えようとして言う姿が、やってよかったというやりがいを感じた。		

そうだったのか！！ これも国際理解ってことなんだ

26

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	須古井 京子
対象	中学校3年生	時間数	3時間
場所	総合学習教室	実践教科	保健体育(保健)
ねらい	<p>テーマ【健康な生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間(国際理解学習)で学んだSDGsと保健授業とのつながりに気づく。 ・ 自分の健康な生活について考えながら、世界の現状に目を向ける。 ・ 健康な生活のための知識を知るだけでなく、実践への意欲を高める。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>「感染症ってどんな病気？エイズってどんな病気？」</p> <p>① エイズについて知っていることを出し合う。【ブレインストーミング】 エイズ感染者の日本と世界の現状を比較する。【対比表】</p> <p>② 感染者の多い国の現状を知る。 ・ 資料などのデータを見たり教師の話や話を聞いたりする。</p> <p>③ レッドリボンの活動について知り、その意義を考える。【リストアップ】 ・ それぞれの資料を読み、班員に伝え合い、ホワイトボードに書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちが目指す世界～子どものための「開発目標」～(地球環境基金) 
	2	<p>「世界から感染症を減少、撲滅させるために必要なことを考えよう！」</p> <p>① 自分がインフルエンザに罹った体験を話し合う。 ・ アイスブレイクとしてひとり30秒くらいで話す。</p> <p>② 途上国の乳幼児死亡率の現状を知る。 ・ 5歳の誕生日を迎えられない途上国の子どもたちの資料を見る。</p> <p>③ 感染症が発生する理由を考える。【ブレインストーミング】 ・ 考えられる理由をホワイトボードに箇条書きでリストアップする。</p> <p>④ 感染症の原因とその対策を考える。【対比表】 ・ ホワイトボードを参考に、模造紙を使って対比表を仕上げる。</p> <p>⑤ 他の班と考えを共有する。【模造紙読み】 ・ 「なるほどマーク☆」や、「説明がほしいマーク？」をつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！(JICA 地球ひろば) ・ 集まれ！地球の教室 (JICA 地球ひろば) 
	3	<p>「わたしの健康から世界中のみんなの健康に」</p> <p>① 「わたしの健康」を守るために必要なことを考える。【KJ法】 ・ 個人で付箋に書き、全員の付箋をKJ法で分類する。</p> <p>② 健康を支える社会の取り組みを話し合う。【ブレインストーミング】 ・ 分類した中から、ホワイトボードに箇条書きでリストアップする。</p> <p>③ SDGsの目標3のために必要なことをランキングにする。【ランキング】 ・ リストアップしたものを、大切だと思うものから優先順位をつけていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくら地球探検隊 (JICA 地球ひろば)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の専門教科である保健体育で取り組んでみて、改めて国際理解教育はどの教科ともリンクできるということ、この研修で学んだ参加型手法を活用することの可能性を実感することができた。 ・ 総合学習で取り組んできた国際理解学習が保健の授業ともつながっているということに、多くの生徒が気づくことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科で実践する場合、単元計画のどこに位置づけて実践するとよいかを吟味する必要がある。 ・ 評価の「知識・技能」の観点からは、参加型手法のときは、どのようにすると適切かを考えたい。 ・ 実践力が高まったのかどうかを、どのように評価していくのか、検討していきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマにあるように、「国際理解の視点で授業をするのは、そんなに難しいことじゃないね！」ってことを多くの先生方に知っていただきたいです。生徒も教師も視野が広がり、学びが深まります。 		

食(ショック)!! どうする! ?わたしたちの未来

27

所属	静岡県浜松市立瑞穂小学校	実践者	瀬戸 誠
対象	小学校5年生	時間数	6時間
場所	教室	実践教科	社会科、総合的な学習
ねらい	<p>テーマ【食料生産、環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料生産に関する様々な資料を読み取ったり議論したりすることを通して、食の安全性や食料自給率の低下、環境への影響など日本の食料生産を取り巻く問題に気づくことができる。 ・理想とする未来について想像し、話し合うことを通して、考えを広げ、深めることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	アイスブレイキング（アドジャン自己紹介） ※3、4人のグループで、0～5の指を各々出す。足した本数の番号の与えられた話題について一人ずつ話をする。	アドジャン一覧表
	2	フードマイレージを計算しよう。 ・食材の主要生産地を知り、フードマイレージを計算して話し合う。 ・資料「日本と主な国の食料自給率」「主な食料の自給率」を見て話し合い、日本の食料自給率の現状について知る。	「フードマイレージどこからくる？私たちの食べ物」(DEAR 開発教育協会)
	3	討論会「どうする？食料自給率」の準備をしよう。 学級全体を A「自給率は高い方がよい(食料生産は国内の方がよい)」チーム B「自給率を高くする必要はない(食料生産は海外に頼ってよい)」チーム C 討論を聞くチーム に分け、班ごとに資料を読み取りながら討論会の準備をする。	社会科5年教科書 図表、グラフ等資料
	4	討論会「どうする？食料自給率」をしよう。【ディベート、対比表】 ・討論する6チームは、準備した資料を使って討論する。 ・討論を聞く2チームは、メモをしながら討論を聞く。 ・討論が終わったら、討論を聞くチームは討論されたことについて話し合い、自分たちの意見をまとめ、発表する。	
	5	食料問題を含む環境に関する過去の出来事や取り組み等を知り、理想とする未来について考える。【タイムライン】 ・日本や世界の環境に対しての取り組みとSDGsについて知る。 ・タイムラインの図になってほしい未来、なってほしくない未来を記入する。	ワークシート 「環境教室基礎編」 (朝日新聞) SDGsの映像
	6	理想とする未来について話し合う。【タイムマシン法】 ・食料生産、工業生産、総合的な学習(テーマは環境)で学んだことを関連させながら理想の未来につなげる。	ワークシート 半模造紙 カラーペン
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集の資料を活用しながら討論会を行ったことで、社会科の目標に迫ることができた。討論会の準備やディベートをする過程で、主体的に学習内容を習得することができた。 ・タイムライン、タイムマシン法などの参加型手法により、子供たちが思考を整理したり、グループ内の話し合いを活性化させたりすることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた授業時数の中で、情報を主体的に読み取り、取捨選択して活用する力を付けていきたい。 ・総合的な学習の時間が各教科の学習内容とつながる年間計画づくりが大切である。 		
備考			

英語 de 人権 We Can Make Everyone Smile

28

所属	静岡県浜松市立細江中学校	実践者	高井 季代子
対象	中学校1年生4学級(132人)	時間数	8時間
場所	教室	実践教科	英語
ねらい	<p>テーマ【人権】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あってもよい違いとあってはいけなない違いがあることを知り、課題意識をもつ。 ・障がい者向けスポーツの特徴を知り、“Sports for Everyone”の意味を考える。 ・身の回りに目を向け、全ての人が笑顔で暮らせる町について考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>【違いについて考える】 ◁:アクティビティ ☆:英語科授業との関わり</p> <p>◇「ちがいのちがいを英語で行う。</p> <p>☆can の肯定・否定文導入(読む)</p> <p>○車いすスポーツの動画を見て、車いすでも楽しめるスポーツがある事を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい開発教育のすすめ方」参照 ・動画は三省堂「New Crown」(デジタル教科書)
	2	<p>【文字読める?読めない?】</p> <p>○Can you read this kanji? 漢字クイズを行う。</p> <p>☆can 疑問文(聞く、話す)</p> <p>◇読めない体験をする。「文字が読めないということ」を英語で行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら」参照
	3 4 5 6 7	<p>【障がい者向けスポーツの特徴を知る】</p> <p>○Lesson7 “Sports for Everyone”を読み、車いすバスケットボール、ゴールボールの特徴を知る。</p> <p>☆can を含む対話文、説明文(聞く、読む、話す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三省堂 [New Crown](教科書)
	8	<p>【身近な “○○ for Everyone”を探そう】</p> <p>○町にある「あっていい違い、いけない違い」に目を向ける。</p> <p>◇フォトランゲージく身の回りにあるユニバーサルデザインを始めとする様々な場所や物の写真を見て、特徴や工夫、疑問を見つける)</p> <p>☆can の活用(話す、書く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町の写真
成果	<p>仲間との意見の違いを楽しんだり、世界の識字率の問題を知ったりと、生徒の人権意識を揺さぶることができた。生徒の視野を広げると共に、身近な町にも意識を向けさせることができた。総合的な学習の時間(住んでいる町についての活動)とも関連がもてた。助動詞 can への理解も深まった。</p>		
課題	<p>「あってよい違い、いけない違い」は、分類した後、特徴や共通点をまとめる時間がとれなかった。人権について深く考える時間や、シェアする時間を十分に確保できなかった。日本語での補足説明が必要な場面が多かった。より分かりやすい英語での授業展開の仕方を模索したい。</p>		
備考	<p>英語の授業ではあるが、生徒同士の話し合いは、ほぼ日本語で行った。</p> <p>実際には、上記の活動に加えて、対話を継続する活動、リスニングの活動を行っている。</p> <p>今後、ゴールボール体験を予定している。</p>		

「ものがたり」を知って豊かになるわたしと世界

29

所属	愛知県立天白高等学校	実践者	谷口 加恵 E
対象	高校3年生	時間数	4時間
場所	被服室・教室	実践教科	国語
ねらい	<p>テーマ【共生・貧困】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な出会いによって広がる自分の世界を自覚し、挑戦することを前向きにとらえる。 ・フェアトレードの仕組みを理解し、持続的な社会の発展について考える。 ・自分の意見を明確な根拠によって示し、論旨を明確にして説明する。(書くこと) 		
実践内容	回	プログラム	備考
	<1>	<p>起 「伝統料理インジェラを食べてみたい？食べてみたくない？」</p> <p>☆Aネットの情報とB先生の感想</p> <p>挑戦リストを作ってみよう【リスト】</p> <p>挑戦に必要な〇〇【派生図】</p>  <p>承 ☆「ニセバナナの木から何を作っている？」 【フォトランゲージ】</p>	<p>インジェラレポート (ネット上のブログ)</p> <p>ドルゼ村の写真</p> 
	<2>	<p>第1回の振り返り</p> <p>「物語(背景)」知って印象が変わった体験について (記述)</p>	
	<3>	<p>転 「フェアトレードについて知ろう」</p> <p>☆フェアトレードコーヒーの食レポ</p> <p>「フェアトレードが無い世界ではどんな問題が起きる？」(論理的文章)</p> <p>ラベルとその仕組みについて知ろう【ジグソー法】</p> <p>フェアトレード会社「sabahar」について知ろう</p> <p>☆世界で起きている貧困(ビデオ)</p> 	<p>フェアトレード・ジャパンのホームページ</p> 
	<4>	<p>☆フェアトレード会社を営むキャシーさんの話(ビデオ)</p> <p>持続可能な社会の発展について自分の意見を述べてみよう。(記述)</p> <p>結 学習全体の振り返り【ルーブリック】</p> <p>自分の中で変化したことについて話し合う。</p> 	
成果	<p>生徒たちの国際的なニュースへの関心が高まった。主張につづけて根拠を述べる姿勢が身についた。十年後を見据えた目標を見据え、今身につけるべき能力について考えることができるようになった。</p>		
課題	<p>フェアトレードの仕組みを理解した上で、国際社会の抱える課題を身近なものとして捉えるための活動や話し合いの時間をさらに設定したい。(今回は「消費者の行動選択に伴う責任」というテーマで意見を記述。)</p>		
備考	<p>ルーブリックの評価規準を学習のはじめに提示することにより、学習全体を通した目標を意識させるべきであった。ルーブリック評価を引き続き行い自己評価を重ねていきたい。</p>		

よりよい未来のために

30

所属	三重大学教育学部附属中学校	実践者	中垣 尚子
対象	中学校3年生	時間数	50分×7コマ
場所	教室	実践教科	英語
ねらい	テーマ【人権】 ・過去の歴史を知る ・世界人権宣言を知る ・よりよい社会のために何ができるかを考える		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	教科書 P70 写真を通して「人種差別について」知る	プロジェクター
	2	映画「ドリーム」 動画 映画を通して、当時の差別の様子を知る 文法指導(後置修飾)	パソコン ムービー 教科書
	3	P72 本文のローザパークスさんの話を通して「人種差別について」知る	ノート
	4	復習 P74～76 本文のキング牧師の話を通して「人種差別について」知る	教科書 ノート
	5	キング牧師の演説の動画を紹介	プロジェクター
	6	本文音読練習 キング牧師の演説を暗誦する	パソコン ムービー
	7	1 英語 基本練習(dictation test、listening test、lesson6 復習、会話練習、単語練習、音読練習) 2 【派生図】「もし、差別がなくならなかつたら、どんなことが起こる？ どんな危険性がある？ 班で書く 【回し読み】他の班に回す「なるほど」と思ったものに★をつける 戻ってきた用紙を見て、班で意見交流 3 動画 過去の人種差別を紹介する映像 4 世界人権宣言 英語版を班で協力して読む 5 世界人権宣言(日本語 谷川俊太郎版)を読む 6 【決意表明】行動宣言「どんな未来になってほしいか？どんな 社会に生きていきたいか？よりよい社会のために自分ができることは何かあるか？」 行動宣言を発表する	CD ラジカセ ワークシート B4用紙 ペン プロジェクター パソコン ムービー 本 A4 ワークシート
成果	・みんなで一枚の用紙に書き込むという作業は班員同士の距離も近くなり、話がより進んでいた。 ・動画など、真剣に見入っていた。その中で、当たり前前の幸せのありがたみを感じられていた。		
課題	・時間が足りずに、行動宣言ができなかった。一番大事な自分の日常に結び付ける作業ができなかったのがとても残念だった。次回は時間に余裕を持って取り組みたい。 ・考える時間をもっと確保したかった。せっかく生徒が興味を持っていたのに深め切れなかった。		
備考			

World Workshop ALTとの出会いを大切に授業と一緒に作ろう！

31

所属	上越教育大学教職大学院(上越市立雄志中学校)	実践者	中野 裕子			
対象	妙高市内の小学校教諭, 市内ALT, 大学院生	時間数	2回講座 (計10時間)			
場所	妙高市ふれあい会館	実践教科	小学校外国語活動 教員研修			
ねらい	テーマ【ALTの国・地域や文化を知り, ALTと子どもをつなぐ授業デザイン】 ・教員研修 ・コミュニケーション ・授業デザイン 妙高市内の小学校教員及び ALT が協力して小学校外国語活動・外国語教育の授業・学習をデザインし授業を実施するため, 互いを知り, 協働的な関係性を構築すること, 英語でのコミュニケーションの基礎を養うことを目的とする。					
実践内容	回	プログラム	備考			
	1	<p>【Ice Break】 ①呼び名共有(握手, ハイタッチなど)[アイスブレイキング] ②フルーツバスケット ③Four about me! (Which is a lie?) 4つの私(1つはうそ?)</p> <p>アイスブレイクのポイント→ポップコーン方式 研修オリエンテーション(研修の目的, 概要の説明) <多様な人・国と肯定的に出会う></p> <p>【Activity 1】 世界とのつながりを感じよう (グループ) ALTの国を含めた10ヶ国についてカードを合わせて地図に置く 【Activity 2】 ALTの住んでいた国ってどんな国? 生活? 学校は? こんな所でつながるALTの国と日本 [対比表]</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>(ALTの国)と日本の同じ所</td> <td>(ALTの国)と日本の違う所</td> </tr> <tr> <td>(ALTの国)のいいね!</td> <td>日本のいいね!</td> </tr> </table> <p><ALT自己紹介>私とスロベニア</p> <p>【Activity 3】 子どもたちとALTをつなげよう! を入れた授業デザイン ★振り返りアンケート 共有 まったりタイム 世界の絵本展示など</p>	(ALTの国)と日本の同じ所	(ALTの国)と日本の違う所	(ALTの国)のいいね!	日本のいいね!
(ALTの国)と日本の同じ所	(ALTの国)と日本の違う所					
(ALTの国)のいいね!	日本のいいね!					
2	<p>【Warm up】 Four about me 4つの私 [アイスブレイキング]</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>Full Name / Nickname</td> <td>最近気になるニュース</td> </tr> <tr> <td>日本の/ALT の国のオススメお菓子(sweets / snacks)</td> <td>この研修への期待</td> </tr> </table> <p>【Activity 1】 ALT/ALT の国のへえ~! ALTによるプレゼン&クイズ(スイス・スロベニア・カナダ・アメリカ) 資料: 愛知県国際交流協会『私たちの地球と未来』スイス・カナダ・アメリカ編</p> <p>【Activity 2】 Let's make okonomiyaki! @調理室 ①資料の説明 ②調理確認(ペア)→散策しながら調理器具, 材料, 料理手順 ③お好み焼きづくり ④Lunch Time ⑤Clean-up</p> <p>【Activity 3】 ALTと〇〇について子どもたちをつなぐ授業デザイン ★振り返りアンケート 共有</p>	Full Name / Nickname	最近気になるニュース	日本の/ALT の国のオススメお菓子(sweets / snacks)	この研修への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・pptx, スクリーン ・プロジェクター ・資料: 〇〇ってどんな国? ・材料 ・模造紙 ・マジック ・振り返り用紙
Full Name / Nickname	最近気になるニュース					
日本の/ALT の国のオススメお菓子(sweets / snacks)	この研修への期待					
成果	参加型のワークショップという研修形態を小学校教諭は「ALT と普段話せなかったことも話せた, 知り合えた」と感じ, ALT は自分や自分の国について知ってもらって「居心地よかった」と感じた。ALT と考えた授業デザインを, 研修後に実践した教員もいた。2回目に自分の国の絵本の持参や, クイズなど自主的に用意する ALT がいた。ALT と気軽に打ち合わせできるようになったなど研修後の教師の変容につながった。					
課題	アイスブレイクのポイントなど日本語・英語両方によるコミュニケーションで, 英語力アップに「インフォーマルでリラックスして参加できた」という成果の一方で, 英語使用に消極的な参加者がいかに英語で活動に参加できるかを丁寧に計画する必要がある。「ことばの文化背景」を体験するには研修に内容・時間ともに連続性が必要である。市教委共催でALT 全員参加で振休にしたが, 長期休暇中か平日が望ましい。					
備考	・愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ私たちの地球と未来』スイス編・カナダ編・アメリカ編 ・ローズマリー・マカー(2017)『すごいね! みんなの通学路』西村書店					

本で開こう！世界への扉！

32

所属	愛知県立常滑高等学校	実践者	丹羽 かよ
対象	高校1年・2年	時間数	90分
場所	図書館	実践教科	図書館教養講座
ねらい	<p>テーマ【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは「知ること」から始め、興味を持ち、自分で考え、行動につなげる。 ・なぜ学ぶことが必要なのか、世界の教育の現状を知り、教育の大切さに気付く。 ・世界の取り組みを知り、持続可能なより良い世界を作るためにできることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
		<p>①アイスブレイク&読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きていると感じることを書き出し発表する。 <p>②世界の現状を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で起こっている問題について考える。 ・就学していない子どもたちがいること、識字率の低さについて考える。 <p>③文字が読めないと困ることを体験してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬はどれ？ 三種類の紙コップに書かれた文字から薬を選ぶ。 <p>④教育を受けられないことで起こることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を受け読み書きができれば出来ること、教育を受けられず読み書きが出来ないと困ることをグループで考え、模造紙に書きだし、全体で共有する。【対比表】 <p>⑤教育を受けられない、学校に行けない理由を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5冊の本から各国の教育が受けられない事例を抜粋し、作成した資料を配付。グループの5人がそれぞれ各国の学校に行けない理由を読み、その理由を共有する。【ロールプレイ】 <p>⑥教育を受けられないまましていると、どうになってしまう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考え貧困カードを用紙に貼る。連鎖を断ち切るには何が必要かを考え、用紙に書き込む。 <p>⑦世界の人々が読み書きできるよう教育を受けるために、出来ることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の取り組み、「SDGs」を知る。目標4：質の高い教育 <p>⑧世界の未来へ、自分がどんな行動にうつせるかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな自分に成長していきたいか、未来予想図を描く 	<p>『生きる』谷川俊太郎 withfriends 著 (KADOKAWA)</p> <p>パワーポイント(地図)</p> <p>パワーポイント(薬クイズ)</p> <p>模造紙 ペン</p> <p>資料(5種類) 『ほっとけない世界の貧しさ』(扶桑社) 『学校に行けない子どもたち』(新日本出版社)他3冊</p> <p>貧困カード A3用紙 のり、ペン</p> <p>パワーポイント(SDGs) 動画視聴</p> <p>A4用紙 ペン</p>
成果	<p>授業ではなく、図書館からの情報発信として本を利用し、世界が抱える問題に触れることができた。また、参加型の手法を行うことで、学年を超えて他の人の意見を聞きながら考えを深めることが出来た、という生徒の声が寄せられた。本を通じて生徒の視野を広げることができたと感じた。</p>		
課題	<p>たくさんアクティビティを詰め込み、時間内におさまらず振り返りが不十分になってしまった。他の時間の確保をし、生徒の学びを深め、さらに発展できるようにしたい。</p>		
備考	<p>愛知県図書館から国際理解(教育、人権)に関する資料を借り、図書館で展示した。 書籍『生きる』を読んだ後に生徒が書いた言葉を「連詩集」として冊子を制作し、生徒に配付した。</p>		

世界に学ぶ ～届け幸せのメッセージ～

33

所属	愛知県豊明市立沓掛小学校	実践者	野々山 尚志 P
対象	小学校6年生(96名)	時間数	28時間
場所	教室・多目的スペース	実践教科	総合的な学習の時間・学級活動 ・外国語活動・(家庭科)
ねらい	テーマ【つながり、人権、コミュニケーション、課題解決】 ・世界と日本とのつながりに気付き、世界に関心をもつ。 ・多様な価値観や文化を知り、肯定的に捉える。 ・課題解決の方法を知り、自分たちができることを考え、発信する。		
実践内容	回	プログラム	備考
		1 世界に目を向けよう(5時間) 1 ・世界と自分たちのつながりを知るグローバルビンゴ 2-3 ・世界がもし100人の村だったらワークショップ【シミュレーション】 4 ・パラグアイに折り紙と絵を届けよう 5 ・日本と途上国とのつながりについて知ろう【フォトランゲージ】 2 日本と世界のつながりに気付こう(4時間) 6 ・日本と世界とのつながりを知ろう～パラグアイ編～【フォトランゲージ・対比表】 7 ・日本と世界とのつながりを知ろう～日本の食事編～【ランキング】 8 ・チョコレートの真実 9 ・ジャガイモさんとお友だち(知ることは身近になる)【ロールプレイ】 3 多様な価値観や文化を知り、よさを知ろう(4時間) 10 ・日本とパラグアイの子どもの大切なもの【ピラミッドランキング・対比表】 11 ・キニ先生にインドについて聞いてみよう 12-13 ・外国人観光客になりきってインタビューをしよう【ロールプレイ】 4 課題解決の方法を探ろう(5時間) 14-15 ・インドネシアの村でのボランティア【フォトランゲージ・対比表】 16 ・ちがいを越えて(ハーフの先輩から話を聴こう)【ロールプレイ】 17 ・貧困の連鎖を断ち切る方法を探ろう 18 ・国際協力で大切な視点～海外で活躍する日本人からのメッセージ～ 5 自分たちができることを考え、学んだことを発信しよう(6時間) 19-23 ・各グループのテーマに沿って追究しよう 24 ・学習発表会「世界はひとつ～届け、幸せのメッセージ～」 番外編 パラグアイのゴマを使ってゴマ団子づくり(2時間) 25-26 6 国際理解のまとめ～国際協力と夢～(2時間) 27-28 ・元青年海外協力隊の方から話を聞こう。	ワークショップ版世界がもし100人の村だったら JICA「どうなってるの?世界と日本」 パラグアイの写真カード チョコレートパッケージ ジャガイモ 大切な物の絵 インドの映像 なりきりカード FIWC東海委員会 ラッシュセリーナ萌さん 国際理解教育実践資料集 パラグアイインタビュー動画 ゴマ・もち粉 稲葉健一さん
成果	パラグアイをはじめとする世界の様々な課題を知り、課題解決の方法を考えたり、世界と日本とのつながりや幸せについて考えたりしたことで、自分と無関係だと思っていたことが身近なこととして捉えられるようになった。また、積極的に他者と関わったり、相手の立場に立って手助けをしたりする機会が増えた。学習発表会では、これまでの学習で気付いたことや学んだことを自分たちの言葉で発信することができた。		
課題	パラグアイをはじめとする様々な教材を児童に与え、参加型手法を用いて取り組むことにより、情報の中から課題を見つけ、解決方法を考えるという経験ができた。しかし、総合的な学習の時間の探究プロセスの中に位置づけられている「情報の収集」についてはほとんどできなかった。さらに気になったことや疑問に思ったことを追究する機会を設定できるとよい。		
備考	参加型手法を効果的に用いることで、学びに深まりが出た。国際協力の現場で活動する方たちや当事者と出会うことで、現実味がわき、自身の可能性に気付くことができた。		

もしも私がカテウラにいたら

34

所属	愛知県名古屋市立桜台高等学校	実践者	箱山 園江 P
対象	高校3年生	時間数	<46分×2>授業×3クラス
場所	第1講義室	実践教科	英語
ねらい	テーマ【共生】課題解決のために考え、工夫し、行動する力を育む ・パラグアイという国に肯定的に出会う ・自分のこととしてカテウラでの生活を考える ・貧困について考え、自分にできることを考える		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆アイスブレイキング ・5人一組のグループに分かれて自己紹介する ◆『パラグアイってどこにあるの?』(グループ活動) ・南米の白地図を見て国名を考える ・地図上に国旗を表すカードを置く ◆『パラグアイってどんな国?』(グループ活動) ・パラグアイの自然・言葉・日本からの距離等についてのクイズに答える ◆『もしも私がカテウラにいたら…』 ・英文 Landfill Harmonic を読み、カテウラに住む子どもまたはファビオさん(ソーシャルワーカー)の立場になって考える(各自で考える) ・子どものグループとファビオさんのグループそれぞれで意見を共有し、模造紙に書いていく 【ブレインストーミング】 ・模造紙に書いた内容を他のグループと共有する(回し読み)	南米の白地図 国旗カード カラーペン PC 4択の答えカード 資料①…子ども ②…ファビオさん 模造紙(1/2サイズ)
	2	◆『お母さんと子どもたちはどうなった?』【ブレインストーミング】 ・グループを再編し、子どもとファビオさんの両者がいるグループを作る ・路上生活を送るお母さんと子どもが用意された家に移り住んだ1年後の暮らしを考える ・各グループで出た意見を発表する(ポップコーン方式) ◆『お母さんと子どもはなぜ路上に戻ったのか?』【ブレインストーミング】 ・グループで話し合いながら理由を半模造紙に書いていく ◆『ファビオさんはなにをした?』 ・カテウラやファビオさんの映像を見せながら、実際に行われたことを伝える ◆『わたしたちに何ができるだろう?』(振り返り)(各自で考える) ・貧困とは何か、状況を変えるために何ができるかについて、自分の言葉で書く(各自で考える) ・全体で感想を共有する(ポップコーン方式)	模造紙(1/2サイズ) スピーカー プロジェクター 振り返りシート
成果	参加型の授業は私にとっても生徒にとっても新鮮だった。生徒たちが生き生きと楽しそうに活動する姿を見ることができた。授業後に講義室に残り、溢れる感動を伝えてくれた生徒たちもいた。2コマという短い授業ではあったが、生徒の心を動かすことができたと感じている。		
課題	限られた時間内で流れのあるワークショップにするために時間の管理に気を付けたが、最後の振り返りの時間が足りなかった。もっと時間を取ることができれば全体での共有がより深まったと思う。		
備考	受験勉強に忙しい高校3年生に対して、卒業後も心に留めておいてほしいメッセージが伝わったと思う。		

世界とつながる・世界を広げる！「ワールド コラボ クラブ」

35

所属	愛知県名古屋市立山田小学校	実践者	服部 咲
対象	小学校4～6年生	時間数	9時間
場所	教室	実践教科	クラブ活動
ねらい	<p>テーマ【異文化・相互理解】【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国と関わる日本人とつながることで、これからの生き方の幅を広げる。 ・ 外国とつながることで、自国の文化を振り返ったり、他国の生活や文化を知ったりする。 ・ 異文化に触れる楽しさ、おもしろさ、難しさを味わう。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回	・ 自己紹介「4つのわたし 1つはうそ？」【アイスブレイキング】 ・ インTRODューズ	
	2回	・ 「民族衣装を着てみよう」「外国に住むってどんな感じ？」 外国(モンゴル、中国、インドネシア、ドイツ、カンボジア)に住む・住んだことのある日本人にアンケートを送る。	
	3回	・ 「返ってきたアンケートを見てみよう」「ナミビアに行く日本人と出会おう」 派遣前の青年海外協力隊と知り合い、つながる。	外部講師： 青年海外協力隊 ナミビア派遣前隊員
	4回	・ 「外国(モンゴル、ナミビア)の子どもたちに日本の学校を紹介しよう(1)」 グループ決めと写真撮影の準備。	
	5回	・ 「外国(モンゴル、ナミビア)の子どもたちに日本の学校を紹介しよう(2)」 撮ってきた写真を選び、送る。	協力： 青年海外協力隊 モンゴル小学校隊員 ナミビア小学校隊員
	6回	・ 「モンゴルから来た写真を見よう」【フォトランゲージ①】	資料：ナミビア通信
	7回	・ 「ナミビアから来た写真を見よう」【フォトランゲージ②】	
	8回	・ 「世界の子どもたち～良いことばかりではない この世界～」 DVDを観て、世界の課題の一部を知る。 ～ 以下、未実践(2月末実践予定) ～	DVD：『フジテレビ 世界がもし100人の 村だったら ディレク ターズエディション』
	9回	・ 「モンゴルから返ってきた返事を見よう」 返ってきた反応を見る。 ・ 1年間の活動を振り返って	資料：モンゴル通信
成果	<p>回を重ねる毎、子どもたちの中の「外国との壁」が薄く、低くなっていくのを感じることができた。「関わりのない国」から「知っている国」へ、子どもたちの世界を一步広げることができた。外国との交流活動の一番の壁は「言語の違い」である。写真や動画でシンプルに交流することは有効であると感じた。</p>		
課題	<p>クラブ活動は1時間(45分)しかないため、子どもたちに活動のことをゆっくり振り返らせることができない。次年度続けるのであれば、活動を通じて感じたことをアウトプットさせることを意識したい。また、自分の学級や職員間でも異文化に触れる機会をさらに設け、楽しさやおもしろさを感じてもらいたい。</p>		
備考	<p>転勤して初めて立ち上げたクラブ活動。自分自身、何をするのか定まらないまま、「子どもたちを直接世界と関わらせたい。」という思いで進めてきた。「直接世界と関わることのできる時間」として継続したい。</p>		

夢見る力～自分の世界を広げる～

36

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	濱田 蒼太 P
対象	中学校2年生(145名)	時間数	12時間
場所	教室・体育館	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界が抱えている課題をつかみ、それらの課題のつながりに気付く。 ・ 課題の原因や背景を知り、自分も無関係ではないことに気付く。 ・ 課題を抱えている国を「かわいそう」と考えるのではなく、同じ地球の一員として対等な立場で自分にできることは何かを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	夏休み	<p>《1学期「夢をもとう 生き方を考えよう！」》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界一大きな授業 ・ 職場体験「Challenge for the dream～働くことの大切さを体験しよう～」(職業調べ・働く人へのインタビュー→体験→まとめ→プレゼン) ・ JICAエッセイコンテスト・プランジャパン読書感想文 <p>《2学期「世界平和に向けてわたしたちにできること」》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育協力 NGO ネットワーク JNNE」教材
	1	じゃがいもさんとおともたち(1時間目)	・じゃがいも(実物)
	2	賛否両論の両論を知ろう(2時間目)	・意志表示カード(自作教材)
	3	ジェインがやってきた!(3時間目)	・図書「地球家族」
	4	豊かさせて何だろう?(4時間目)	・教師海外研修の写真
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外学習「グリーン平和と愛を広げよう!」じゃないC!」(なごや地球広場・ささしま散策・ピースあいち)(事前学習→訪問・見学→まとめ→プレゼン) ・ 広島研修「8.6→平和への道～千羽の想いを届けよう～」(事前学習→訪問・見学→まとめ→展示) 	・SDGs展示
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながりに気づき、つながりを築く4時間計画 	・パラグアイクイズ(自作教材)
	6	世界と日本つながりクイズ(1時間目)	・図書「ゾウの森とポテトチップス」
	7	つながりによる影響を知ろう(2時間目)	・「飢える国・飽食の国」地球ターマップ第10回
	8	つながりによる悪影響にもしかして自分も…(3時間目)	
	9	よりよいつながりを築くには(4時間目)	
		<p>《3学期「より良い未来のために、わたしたちにできること」》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和を創り出すわたしたち!4時間計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師海外研修体験談 ・教師海外研修の写真 ・教師海外研修の動画 ・JICA ボランティアで活躍した人の出前授業
9	世界のSOS(1時間目)		
10	課題の原因を追求しよう(2時間目)		
11	平和を創り出すわたしたち!(3時間目)		
12	平和を創り出すために活躍する人たち(4時間目)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行にむけて(企業訪問探し) 		
	SDGs達成に向けて取り組んでいる企業やNPOの国際協力・国際貢献の現状について調べ、修学旅行に訪問させてもらえるように電話する。		
成果	生徒は、遠い国で起きている様々な課題と自分とのつながりを知り、自分ごととして考えられるようになってきたと感じる。これまでは、「世界の課題を解決するにはとにかく募金」と考える生徒が多く、視野がもう少し広がればいいなと感じていた。このプログラムを通して、物を買う時にその物がどんな過程で作られたものかを考えたり、フェアトレード商品を選んだり、食べ物を残さず食べたりするなど、より身近なところで自分にできることを考えられるようになったと思う。		
課題	ねらいとする力を育むために、アイスブレイクを含めたアクティビティの流れや的確なファシリテートをもっと熟考する必要があると思った。今後はさらに、世界共通の課題をもった「地球市民のひとり」という自覚がある生徒を育てたい。日常の中でも広い視野で考え、行動する力をつけられるプログラムが必要である。普段の生活の中で世界の SOS に反応できることが増えるといいなと思う。		
備考	来年度は、修学旅行を通して、日本(東京)の企業やNPOの SDGs達成に向けた国際協力・国際貢献の現状について学ぶ。よりグローバルな視野を広げ、自分たちにできることを考えて行動していく国際理科教育を進めていきたい。		

エチオピアを知り、自分を知る

37

所属	三重県津市立一身田小学校	実践者	前地 直樹 E
対象	小学校4年生	時間数	4時間
場所	教室	実践教科	総合
ねらい	<p>テーマ【国際理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本以外の国を知ることで、今まで気付かなかった身のまわりのことに気付き、日本やエチオピアの人々の知恵にも気付くことができる。 ・世界のことや身の回りの知恵や工夫に興味・関心を持つ。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>○エチオピアの国について知り、日本とのつながりについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エチオピアという国について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアクイズをグループで行い、どんな国か予想する。 ・日本と比較する。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 日本とエチオピアのつながりについて知る。 	パワーポイント
	2	<p>○ドルゼ村の生活と知恵について考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドルゼ村について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドルゼ村についてのクイズを班で行い、どんな村か予想する。 <ol style="list-style-type: none"> 2. コチョの活用について知る。 	パワーポイント
	3	<p>○日本の生活の知恵について考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 稲の活用について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、稲の様々な活用について予想する。 ・パワーポイントを用いながら、フォトランゲージで話し合った内容を確認する。 	【フォトランゲージ】 パワーポイント
	4	<p>○日本とエチオピアのそれぞれのちがいを考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とエチオピアの良い点、問題点を考える <ul style="list-style-type: none"> ・日本とエチオピアのいいなと思ったこと、問題だなと思ったことを班で模造紙にまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 全体で交流する。世界には様々な問題があることを知る。 	【対比表】
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなグループワークでお互いの意見を述べ合って考えることを楽しんでいた。 ・エチオピアのいろいろな予想外の生活を知ることで、海外への関心を深め、自分の身の回りの生活を見つめなおすきっかけとなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ではグループワークに関しての関心が高いのだが、国際理解教育にまで手をつけられていない学級が多い。外国につながる児童が多い学校でもあるので広げていきたいと思う。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は国際理解に関する授業が少なかったため、国際理解教育の授業の例を示す機会を作ることができた。 		

「みんな違ってみんないい」から始まる対立解決

38

所属	愛知県立瀬戸北総合高等学校	実践者	村上 偉代
対象	高校2年生(24人)	時間数	50分×3
場所	教室および化学実験室	実践教科	生物基礎
ねらい	テーマ【コミュニケーション・多様性】 ・自己理解・他者理解を深め、考え方や生き方の多様性に気づくことができる。 ・自分自身も多様性の一部であることに気づき、他者との関わり合いを考えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	〇ワークショップの説明とアイスブレイキング ワークショップについての説明 アイスブレイキング ・親指アンケート(今日は元気だ・冬は好きだ・味噌汁は好きだ) ・4つのコーナー(どこから通っているか・好きな季節・朝ご飯は何系)	ジャガイモ(人数分) A4用紙 ペン
	2	〇違いを大切に作る～意見とは何だろう 教室内3箇所に「ぜったいそうだ」「ぜったいちがう」「わからない」と書いてある紙を貼っておく。質問に対し賛成・反対・中間それぞれの意見の表示の周りに立つ。ファシリテーターからのインタビューで、各自の考え方を知る。	
		〇けなす言葉・ほめる言葉 けなす言葉・ほめる言葉を挙げ、自分が言われたらどんな気持ちになるか、相手に言った場合どんな気持ちになるかを想像する。	ワークシート ペン
3	〇ハナコの日 ハナコの物語を聞き、けなす言葉が主人公のハナコに与える影響はどのようなものか考え、ハナコを幸せな気持ちにする言葉を考える。	ワークシート ペン ハート型の紙	
		〇生命のあみ 人と人との関わり合いや結びつきを、生態系の例から捉え、「つながり」について考える。	教材「生命のあみ」 毛糸(8色) 生き物カード
成果	「人によって同じ言葉を使っても感じ方が違うということが分かった」「自分が嬉しくなる言葉を相手にもかけてあげたい」と、自分自身の他者との関わりを見つめ直すきっかけを掴んだ生徒が多かった。また、生物多様性や環境問題にも触れ、他者と関わる力が社会と関わる力につながることを伝えることができた。		
課題	他者と意見交換することを不安がる生徒も一定数おり、ワークショップを展開するための事前の丁寧な働きかけが必要であると感じた。「対立解決」に向けては、年間を見通した計画が必要であると考えている。今後は総合的な学習の時間等、学年全体での実践につながるものに発展させていきたい。		
備考			

みんなつながっている。さあ、わたしたちも動いてみよう！

39

所属	愛知県名古屋市長植田東小学校	実践者	脇田 佐知子 P
対象	小学校6年生(143人)	時間数	11時間
場所	教室・多目的室	実践教科	総合的な学習の時間・道徳
ねらい	テーマ【コミュニケーション・共生・人権】 ・自分と世界がつながっていることに気付き、世界に興味をもつ。 ・物・人・国などを多面的に見ることで、違いを肯定的に捉えたり、課題に気付いたりする。 ・課題を解決する人々を知り、身近な課題解決のためのプロジェクトを作り、自分にできることを考え、行動を起こす。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆ わたしたちは世界とつながっている！ ・アイスブレイキング(4つのコーナー)…多面的に見ることの大切さ ・(グローバルビンゴ)…世界と様々な面で関わりがある	ビンゴカード
	2	◆ 日本も世界とつながっている！ ・アイスブレイキング(名刺で自己紹介)…自分や他人をよく知る ・(日本の食料自給率クイズ)…外国からの輸入に頼る	A4用紙 ペン パワーポイント
	3	◆ 日本の食卓と世界の食卓 ・(地球の食卓)【フォトランゲージ】…日本との共通点や相違点 ・【ブレンストーミング】…国や地域が違うと違うことたくさんある	「地球の食卓」 A3用紙 ペン ワークシート
	4-5	◆ 違いを楽しもう① ～世界の民族衣装編～ ・アイスブレイキング(きつとあなたはこんな人)…思い込み訂正できること ・(民族衣装クイズ)(民族衣装・楽器体験)…日本との違いを肯定的に	パワーポイント A4用紙 民族衣装・楽器等
	6-7	◆ 違いを楽しもう② ～パラグアイ編～ ・アイスブレイキング(海外旅行に行こうよゲーム)…人との関わり楽しさ ・(パラグアイクイズ)…パラグアイの習慣・食事・文化 ・(パラグアイの体験)…日本との共通点や相違点を肯定的に	パワーポイント テレレ・チパ・アルパ ニヤンドウティ ゴマ
	8	◆ ちがいのちが い みんなちがって本当にいいのかな？ ・アイスブレイキング(Yes, No カード)…考えの違い ・(ちがいのちが い)…あってよい違い・あってはいけない違い ・【派生図】…あってはいけない違いを放っておくとどうなるか	Yes・No カード ちがいのちが いカード
	9	◆ あってはいけない違いとその解決について考えよう ・カテウラ地区の貧困問題…パラグアイのあってはいけない違い ・カテウラ音楽団…課題を解決する人・課題解決に大切なこと	A4用紙 ペン パワーポイント
	10-11	◆ わたしたちのクラスや学年はどうだろう？卒業までのわたしのプロジェクト ・【対比表】良いところ・改善したほうがよいところ…クラスや学年の課題 ・プロジェクトづくり…自分にできることを ・【みんながみんなのサポーター】…お互いに応援しよう ・パラグアイで出会った人々からのメッセージ…相手の立場に立つこと	A3用紙 ペン パワーポイント
	成果	自分たちや日本は世界の様々な国とつながりがあること、その世界には様々な国や文化があり、その違いも受け入れていくこと、しかし、違ってはいけない部分は改善していかななくてはならないこと、課題解決には、大切にすべきことがたくさんあること、自分たちも課題解決に向けて努力していくべきであることなどを理解することができた。	
課題	教師から提示した国について知ったり考えたりすることはできたが、子ども達が調べ、追及していく活動を設けることができなかった。今後は、興味をもった国について、そのような活動を取り入れ、課題解決のプロジェクトも世界に向けたものが考えられるようにしていきたい。		
備考	この実践の成果や課題を受け、リトルワールドに出かけて(2/9)様々な異文化を体験したり、興味をもった内容を追及したりする活動を行う予定である。		

VI 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2018年2月10日(土) 10:00～18:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：受講者38名、JICA2名、NIED6名 合計46名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第4回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育をつなげよう

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供する準備を行い、次へとつなぐ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 2/10 10:00～10:55

1. 主催者挨拶 10:00～[02]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言した。

2. 第4回のねらいの確認 10:02～[06]

- ◇ 翌日に行う実践報告フォーラムの概要と現在の参加者数状況を共有した。
- ◇ レジュメを基に、第4回のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

3. アイスブレイキング、自己紹介 10:08～[18]

- ◇ グループ内で、次の4つのテーマ(①2017年を漢字1時に表すと、②2018年を漢字1字で表すと、③最近私を元気にしてくれたもの)で自己紹介を行った。

4. 第1回～第3回研修のふりかえり 10:26～[29]

- ◇ 第1回～第2回研修の記録(ねらい・成果物をまとめたダイジェスト版)を基に、ファシリテーターから内容の振り返りを行った。
- ◇ 第3回研修の記録を各自読み、印象に残っている部分3ヶ所に下線を引いた。
- ◇ 下線を引いた部分について、気づいたこと、学んだことをグループ内で共有した。



● セッション2 「実践の共有①」 2/10 10:55～12:09

1. 実践の共有 10:55～[14]

- ◇ 実践報告集を配付、グループメンバーの実践報告シートを各自読み、共感したこと、もっと知りたいと思ったことをピックアップした。
- ◇ 翌日の「実践報告フォーラム2018」の準備も兼ね、本番と同様の時間配分にてグループ内で順に報告を行った。



<実践報告フォーラムでの時間配分>

発表者の持ち時間14分/1人=9分以内でプレゼンテーション+残りの時間～14分までで質疑応答

- 休憩 - 12:09-[61]

● セッション3 「実践の共有②」 2/10 13:10-14:25

1. 実践の共有 13:10-[75]

◇ セッション2と同様に、発表と質疑応答を行った。

● セッション4 「実践の成果とネクストステップの共有」 2/10 14:25-15:38

1. 体験して学んだ国際理解教育の可能性 14:25-[07]

- ◇ ファシリテーターが1~7の番号を振り、指定の机に移動してグループ替えを行った。
- ◇ 研修と実践を振り返り、3つの視点（①自分にとって、②学習者にとって、③周囲の人にとって）で、国際理解教育の可能性（実践から分かった国際理解教育の効果や影響）をグループで模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を回し読みして共有し、共感する意見に☆印をつけた。

【 「国際理解教育の可能性」 成果例 】

① 自分にとって

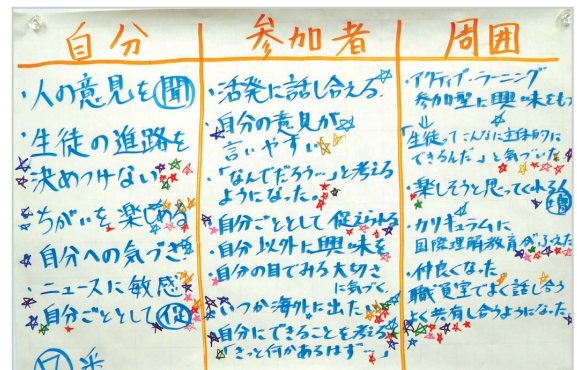
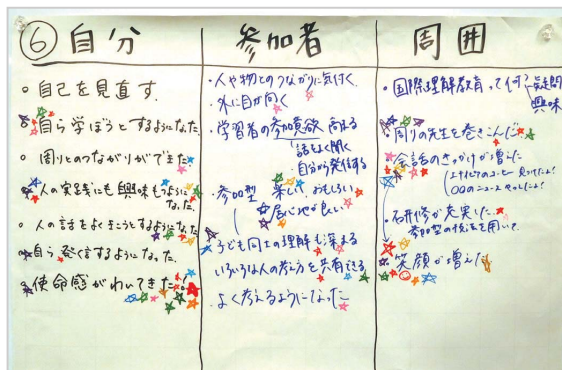
- ・視野が広がる ・人脈が増える ・もっと学びたい知りたいというモチベーション UP! ・使命感が湧いてきた!
- ・多面的・多角的な考えを持てるようになる ・「貧しい・可哀そう」の気持ちがなくなる ・違いを楽しめる
- ・自国を知る大切さを感じた→自国を知らない自分達に結び付けられない ・課題解決の視点が変わった
- ・授業の幅が広がる（手法・思考の整理） ・他教科・他分野でも応用できる・たくなる ・人を巻き込みたくなる
- ・人の話をよく聞こうとするようになる ・人の実践にも興味を持つようになった ・学級作りにも通じる
- ・自分ではなく生徒主体になるよう心がける ・生徒の内面にあるものを知った ・生徒の進路を決めつけない

② 学習者にとって

- ・視野が広がる ・人や物とのつながりに気づく ・自分なりの世界との関わり方を探れるようになる
- ・自分事として捉えられる ・行動に移すようになる ・細かいミスが気にならなくなる→内容が大事!
- ・学力に関係なく活動できる&意欲もUP! ・いつも発言できない子が発言できるようになる ・自己・他者理解
- ・「認める」「認められる」という活動が生徒のエネルギー ・コミュニケーション能力が高まる
- ・一人一人の距離が近くなる・子ども同士の理解も深まる ・違いを肯定的に捉えられる ・「なんでだろう…」と考えるようになる ・「世界を変えたい」と思うようになる ・自分にできることを考える「きっと何かあるはず」

③ 周囲の人にとって

- ・国際理解教育は難しくないといふことができた ・授業見学し合えるようになった→その後、実践してくれた
- ・仲良くなった（職員室でよく話し合う・よく共有するようになった） ・周りの人が持っている概念が変わってきた
- ・会話のきっかけが増えた（エチオピアのコーヒー見つけたよ!）→笑顔が増えた ・親にも広がる（生徒が家で話す）
- ・保護者が子どもと共に調べるようになった ・「生徒ってこんなに主体的にできるんだ」と気づいた
- ・楽しそうと思う人が増えた ・教科を超越して国際理解教育を扱える ・カリキュラムに国際理解教育が増えた



◇ ファシリテーターコメント…人を啓き、社会を開き、未来を拓く国際理解教育。私たちは参加型に可能性を感じている。時間をかけてでも参加型を実施していく。

2. SDGs 目標4「すべての人にインクルーシブで公正な質の高い教育を」達成のために！ 14:52-[24]

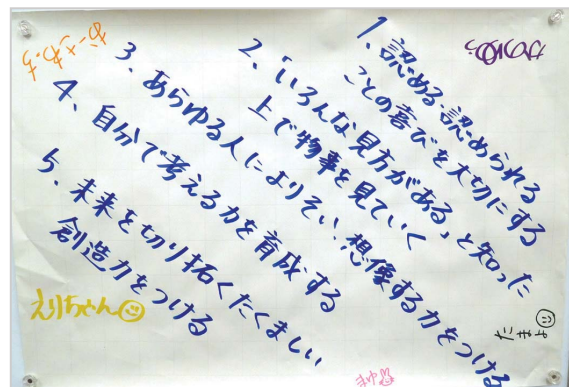
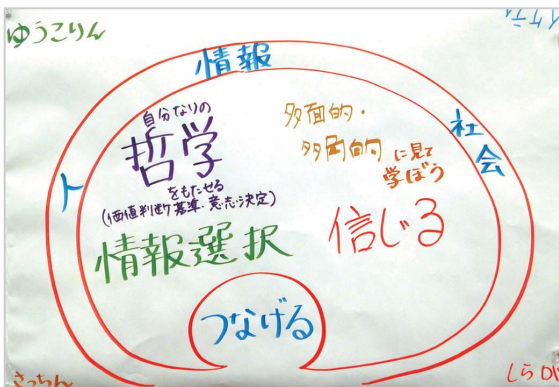
- ◇ これまでの研修であまり同じグループにならなかった者同士で集まり、グループ替えを行った。
- ◇ 資料『グローバルエデュケーションモニタリングレポート 2016』を配付、世界教育フォーラムにて合意された「教育における持続可能な開発目標（Education2030 アジェンダ）」について、ファシリテーターからレクチャーした。
- ◇ 資料のうち、『インクルーシブで公正な質の高い教育と今の社会を読み解くキーワード』を個人で読み、5つのキーワード（①イクスクルーシブ、②ポスト・トゥルース、③フェイクニュース、④ヘイトスピーチ、⑤アイヒマン）の意味と内容を確認した。

3. 持続可能なよりよい未来をつくる人を育む教育者の心得 15:16-[22]

- ◇ 様々な課題がある私たちの社会において、「持続可能なよりよい未来をつくる人」を育む教育者であるために大切なことを個人で3つ考え、グループで出し合い、教育者としての心得をグループで5カ条にまとめた。
- ◇ 隣のグループと交換し、内容を共有した。

【「持続可能なよりよい未来をつくる人」を育む教育者の心得5カ条】成果】

① 違いを認める	① 子どもを信じる
② 自分を大切にし、他者も大切にする	② “考える” プロセスを大事にする
③ 自分を信じきる	③ オープンマインドを持ち、♥幸せ♥を届ける
④ 自分の言葉をもって伝える、責任を持つ	④ “多様性” みんな違ってみんないい
⑤ 正しい情報を得て自分で判断する	⑤ “世界” “人” “平和” “今” “未来” に想いを馳せる
① グリット（続ける力）	① 認める、認められることの喜びを大切にすること
② 多様な意見に耳を傾けること	② 「いろんな見方がある」と知った上で物事を見ていく
③ ひとりよがりにならない情報収集	③ あらゆる人に寄り添い、想像する力をつける
④ 弱者に寄り添える心	④ 自分で考える力を育成する
⑤ つなぐりに想いを馳せる想像力	⑤ 未来を切り拓くたくましい創造力をつける
① 知的好奇心	① 360度のアンテナを持つべし！
② 脱固定概念	② 情報を正しく取捨選択すべし！
③ 自己尊重・信頼	③ 安心できる空間をつくるべし！
④ 明朗・活発	④ 深く広く考え、根拠をもって発信すべし！
⑤ 夢と希望	⑤ 学習者の学び（可能性）を尊重すべし！
① 周囲に諦めずに理解を求め続ける	① 学習者が自分なりの哲学を持てるようにする (価値判断基準、意思決定)
② 批判的思考力を身につけるための学習を提供できる	② 情報選択
③ ファシリテーターとしての技能を高める	③ 多面的・多角的に見て学ぼう
④ 豊かさ、公平さとは何かを考える	④ 信じる
⑤ 相手の立場に立って、相手の価値観に寄り添う	⑤ 人・情報・社会をつなげる



- ◇ ファシリテーターコメント…情報に流されやすい今の時代だからこそ、教育者がよりよい未来を作るための軸を持つことが大切。私たちは、一人一人が教育者である。

- 休憩 - 15:38-[09]

● セッション5 「実践報告フォーラム 2018 のための準備①」 15:47-17:02

1. 実践報告フォーラム 2018 の進め方と個々の動きの説明 15:47-[24]

- ◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2018 のプログラム」と昨年度の写真（パワーポイント）を基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。



2. 実践報告フォーラム 2018 についての確認事項 16:11-[51]

- ◇ 分科会ワークショップ担当メンバーから、プログラムの概要説明を行った。分科会を担当しない受講生から、ワークショップ実施に向けてエールを送った。
- ◇ 実践報告フォーラム 2018 の最後に挨拶をする研修受講者代表を、事務局推薦により決めた。
- ◇ 実践報告フォーラム 2018 を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」を全員で出し合い、これらを持ち帰ってもらうために自分自身が期待すること、貢献できることを各自考え、グループ内で発表した。

【 「フォーラムで参加者に持ち帰って欲しいこと」 成果 】

- ・自分のクラスの子どもの反応を想像する ・どんな年代でも実施の仕方次第で参加型はできる
- ・いろいろな切り口があるという気づき ・情報 ・アンテナを高くしよう ・国際理解教育への熱意
- ・「自分にもできるかも!」「やってみたい!」という気持ち ・「自分がやる!」という使命感
- ・やってみようかなという一歩踏み出す勇気 ・アタマ使った〜いい疲労感 ・明日からの元気!
- ・答えのない問いのおもしろさ ・参加型って楽しい ・学んで楽しい ・新しい仲間 ・つながりあう楽しさ
- ・来年度この研修に参加したい!という気持ち ・学生でも参加できるんです!

- 休憩 - 17:02-[08]

● セッション6 「実践報告フォーラム 2018 のための準備②」 17:10-18:00

1. 海外研修報告/有志ワークショップ/個人の実践報告の準備及び相談 17:10-[50]

- ◇ 実践報告の準備と会場設営を行った。
- ◇ 分科会ワークショップ担当者および海外研修発表者は、指定の別会場に移動し、それぞれ打ち合わせを行った。

★ 18:00 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

- ・『グローバルエデュケーションモニタリングレポート 2016』…グローバルエデュケーションモニタリングレポート 2016
- ・インクルーシブで公正な質の高い教育と今の社会を読み解く 5つのキーワード
 『インクルーシブ（包摂的な）/イクスクルーシブ（排他的な）』…ヒューライツ大阪
 『ポスト・トゥルース（脱・真実）』…知恵蔵
 『フェイクニュース（虚偽報道）』…知恵蔵
 『ヘイトスピーチ（憎悪表現）』…知恵蔵/wikipedia
 『アイヒマン（Karl Adolf Eichmann）1906-1962』…ブリタニカ国際大百科事典
 『誰もがアイヒマンになる可能性を持っている』…森達也（映画監督/作家）

VII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2018

■ 開催概要

- ◆ 日時：2018年2月11日(日) 10:00～16:30
- ◆ 場所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数：一般参加者126名、受講者38名、JICA6名、NIED7名、合計177名
(一般参加者内訳：教員88名、学生9名、JICA・NPO関係者6名、その他23名)
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2018のねらい

- ①【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ プログラムの内容

● セッション1「導入と実践報告ポスターセッション」 10:00-12:30

1. あいさつ・概要説明など 10:00-[22]

- ◇ 主催者（JICA 中部連携推進課課長内島）が主催者挨拶を行った。
- ◇ 開発教育指導者研修（実践編）および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントでJICA 中部倉坪職員が説明した。
- ◇ 実践報告フォーラム 2018 のねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。



2. 39人ポスターセッション（実践報告） 10:22-[128]

- ◇ ポスターセッション（実践報告）を行うにあたり、参加者は配付資料「実践報告シート集」リストのうち、興味のある実践8例（シートNo.の奇数・偶数番号より各4例ずつ）をピックアップした。
- ◇ 奇数番号を前半、偶数番号を後半に分け、拡大した実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッションを行った。14分間を一つの区切りとし、1人4セッションの報告と質疑応答を行った。なお、当日欠席となった1人の受講者分は、掲示のみとした。



- ◇ ポスターセッション終了後、「午後のプログラム」「4つのワークショップのテーマと会場」「昼食」について説明した。

- 休憩 - 12:30-[60]

● セッション2 「実践教材体験ワークショップ」 13:30-15:05

1. 実践教材体験ワークショップ 13:30-[90]

◇ 4つの会場に分かれて、以下の4チームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- 分科会1（人権）…「ひらけ！ちがいのとびら！」
- 分科会2（脱ステレオタイプ）…「ようこそ我が家へ」
- 分科会3（環境）…「目指せ！ナイスカスタマー&バイヤー」
- 分科会4（コミュニケーション）…「外国人は困った人？それとも困っている人？」



◇ 移動 10分

● セッション3 「海外研修報告」 15:15-16:05

1. 教師海外研修報告（パラグアイ） 15:15-[25]

◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。

- ① パラグアイの場所等、基本情報を紹介
- ② パラグアイの公用語、パラグアイ文化クイズ、ホームステイ体験と日常の暮らしを紹介
- ③ 現地で活躍する日本にルーツを持つ方々との出会いと印象的だった言葉、課題解決（国際協力）の姿勢、帰国後実践例、現地研修で得た学びを、現地の写真と音楽と共に紹介



2. 教師海外研修報告（エチオピア） 15:40-[25]

◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。

- ① エチオピアの場所等、基本情報を紹介
- ② エチオピアの主食インジェラ試食とコーヒーセレモニー用茶器を使用したコーヒー試飲を参加者に提供、エチオピアの特徴的な文化を紹介
- ③ 日本とのつながりクイズ、エチオピアの教育課題、多民族国家が抱える民族問題、帰国後実践例を、現地の写真と音楽と共に紹介



● セッション4 「ふりかえり・閉会」 16:05-16:30

1. ふりかえり・閉会 16:05-[25]

- ◇ 実践報告フォーラム 2018 のふりかえりを各自シートに記入した。
- ◇ 一般参加者、受講者それぞれ3~4名から、本日の実践報告フォーラム 2018 の感想を全体へ発表した。
- ◇ 受講者を代表して榊原麻起子さんが、閉会のあいさつを行った。

※ 閉会后 30 分間、参加者と受講者が自由に歓談、交流を行った。



■ 実践教材体験ワークショップの内容

●分科会 1 の記録 (A1 会場)

テーマ	人権	タイトル	ひらけ！ちがいのとびら！
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・あつてよい違い(多様性)に気づく。 ・あつてはいけない違いがあることに気づき、問題意識をもつ。 		
参加者	40 人 (内訳:参加者 31 人、提供者 7 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:31	1 アイスブレイキング「4つのコーナー」 ◇好きな食べ物は？(a) ◇中学時代は楽しかった。(b) ◇世界は良い方向に向かっている。(c)	(b)ほぼ均等に4つ(はい)、どちらかといえばはい、どちらかといえばいいえ、いいえ)に分かれる。 (c)4 つに参加者は散らばった。他の意見の人達の理由に対して肯きながら聞く人が多かった。	
13:43	2 いろいろな違いを見つけよう。 ◇好きな食べ物、飲み物を言い合い、自己紹介。 ◇世界の食卓をのぞいてみよう。【フォランゲージ】 ・写真の中の一人になりきって自己紹介を行う。(a) ・写真の解説をグループ内で共有する。(b) ◇人や国、地域が違うとどんな違いがあるかを考える。【ブレンストーミング】(c) ◇全体共有し、自分のグループでは出なかったアイデア、いいなと思ったものに☆を付ける。	(a)すごく興味深そうに、他の人の自己紹介を聞く。「どんなことを言うんだろう？」という感じ。 (b)写真の国名と改札を知り、「全然違って」と笑い声が出る。その後、改めて写真をのぞき込み興味深そうに眺める。	
14:17	3 全てのことが違っていいのかな？ ◇ちがいのちがいを見てみよう(a) ・10 項目のちがいをリストを配付。個人で「あつてよいちがいは」と「良くないちがいは」に分ける。 ・どうしても決めかねるものには△をつけてもよい。 ◇グループで、理由とともに発表する。△は決められなかった理由を話し合う。(b) ◇あつていいちがいは、いけないちがいの要素を書き出す。 【対比表】 ◇あつてはいけない違いを放っておくとうなるかを考える。 【派生図】(c) ◇あつてはいけない違いとは何かを振り返る。(d) ◇自分に関わることを考える。(e)	(a)一生懸命に個人作業を行う。ほおに手を当てたり腕を組んだまま固まったり、困った様子の参加者も。 (b)「制服:女子はスカート 男子はズボン」で意見が分かれ話し合いに入っているグループが多くあった。他、議論が分かれたものは「進路」「死刑制度」など。 (c)グループで意見を出し合いながら、一人一人の意見を付け足し、発展させながら派生図を書いていた。戦争、貧富の差が広がる、人権問題が起こるなどの意見が書かれた。 (d)人の尊厳、基本的人権、自由に関わるもの、生まれによって決められる、といった意見が出る。 (e)「ちがいは自分事であることに気づく声が上がった。	

●分科会 2 の記録 (A2 会場)

テーマ	脱ステレオタイプ	タイトル	ようこそ我が家へ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の価値観に気づく。 ・価値観が人によって異なることを知り、相手の良さに気づく。 ・相手の立場に寄り添い、具体的な行動を考える 		
参加者	合計 24 人(内訳:参加者 24 人、提供者 6 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1.アイスブレイキング ◇自己紹介 誕生月の早い順に①どこから来たか、②呼んでほしい名前を紹介する。(a) ◇グループを1つの家族だとし、家族の中の役割を決める。	(a)和やかな雰囲気です自己紹介し合っている。	
13:47	2 いったいこれはどこの国のことでしょうか ◇2カ国(11枚)の写真を見て、どこの国かを考える。 ①個人で→②家族(グループ)で 理由を伝えながら、写真を地域に分ける(a)→③答え合わせ(b) ◇答え合わせをして感じたこと、意外なところを共有する。	(a)写真をじっくり見て、細かいところにも注目しながら、写真を地域に分けている。理由を聞いて、「あ～、そうかあ」「(国名)のように見えるけど、違うと思う。」などの声上がる。 (b)答えに対し、「えー！」「あ～」など、盛り上がった。	
13:57	3 ホームステイを受け入れよう。どこの国の人がいい？ ◇3カ国6人の留学生のうち、どの子をホームステイさせたいか、グループで話し合う。(a) ◇ファシリテーターに、希望する留学生と理由を伝える。(b)	(a)留学生を1人に決める過程で、「タブーがありそう。」「日本語を少しは話せるほうがいい。」「性格がよさそう」「趣味が合いそう。」などの意見が出た。多数決ではなく、いろいろな視点で合意形成をしている。 (b)「言葉は少し心配だが、志に共感する。」	
14:06	4 受け入れる時のことをイメージしよう ◇受け入れ留学生の紹介(a) ◇受け入れる際に「不安なこと」「楽しみなこと」を、家族の中の立場、留学生の立場から考える。 ①個人で付箋に書く(b)→②グループで付箋を整理分類する。【二次元対比表】 ◇他のグループが作成した二次元対比表を全体で共有する。	(a)紹介された留学生が希望を異なり、とまどいや不安が感じられるグループもある。 (b)次のような意見が出た。 家族:不安なこと「言葉が通じるか。」「食べ物」 楽しみなこと「カンボジアの話が聞ける。」 留学生:不安なこと「友達ができるか。」「教会はあるか」 楽しみなこと「大学の勉強」 不安なことの方が若干多めに挙げられている。	
14:35	5 相手の立場に寄り添い、具体的な行動を考える ◇お互いが気持ちよく過ごすためにホストファミリーとしてできることを「留学生を迎えるための〇〇家リスト10カ条」を「～しよう」と前向きな言葉でまとめる。(a) ◇ト10カ条を回し読みし、よいと思ったものに☆をつける(b) 自分たちのリストのどこに☆がついているかを見る。	(a)次のような意見が挙げられた。「食事はみんな一緒にしよう。」「コミュニケーションの仕方を工夫しよう」「エチオピアの言葉を1日1つ覚えよう」など (b)「これ、いいなあ。」「これは何で？」→留学生のプロフィールを見て「ああ、なるほど。」などの声上がる。	
14:53	6 ふりかえり・感想共有	「留学生だから、ではなく、家族に対してもリストに挙げられたことを大切にすることが大切ではないか。」「異なった文化を積極的に受け入れることで、自分たち家族にとってもよい影響がある。」	

●分科会 3 の記録 (B1 会場)

テーマ	環境	タイトル	目指せ！ナイスカスタマー＆バイヤー
ねらい	・自分の生活と環境のつながりに気づく。 ・環境のために、自分の消費生活を見つめる。		
参加者	合計 31 人(内訳:参加者 23 人、提供者 6 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1 アイスブレイキング・自己紹介「今日のファッションポイント」(a)	(a)着ているものをお互いに紹介。にぎやかに始まる。	
13:35	2 服を選ぶときの基準 ◇服を選ぶとき、買うときに大切にしていることを、個人で付箋に書き出し、大切にしている順にランキング ◇グループで一番大切にしていることを紹介しあう。(a)	(a)グループメンバーの価値観を興味深く聴く。	
13:45	3 カシミアってなんだろう？ ◇アクリル製・中国産 or カシミア製・モンゴル産のどちらのセーターを買いたいのか挙手で答えてもらい、理由を聞く。(a) ◇カシミアクイズ(原料となる動物/カシミア生産国/カシミアに関係する写真はどれか)を出し、カシミアについての知識を共有する。(b)	(a)アクリル製とカシミア製の良い点を出し合う。 (b)「そうなんだ」などと声上がり、カシミアと世界の環境問題への関心を深めていった。	
13:50	4 身近なものがおよぼす環境への影響 ◇「環境カード」「原因カード」を配付。グループで話し合い組み合わせる。(a) ◇「説明カード」を配付。3つのカードを組み合わせる。 ◇ファシリテーターから答えを発表。世界の環境問題を共有した。(b)	(a)グループで相談しながら考えを深めた。 (b)知らなかった現状があり、驚きの声も上がった。自分との関わりに気づいた。	
14:06	5 服から考える持続可能な社会 ◇グループで、環境に配慮した衣料品店を作ると仮定。「役割カード(店長、社員、大学生アルバイト、パート主婦、留学生)」を配付、1人1つの役割を担当。その役になりきって話し合いをし、お店のコンセプトを決める。(a) ◇途中経過を共有。店長役の人から話し合いの経過を発表。他グループの意見もヒントに、話し合いを再開。(b) ◇グループごとに、出来上がったコンセプトを発表。	(a)役割ごとに考えがあり(作り手に優しい商品がいい、利益のために安価で大量生産がよい、子どもが肌アレルギーなど)、頭を悩ませながら話し合いを進めた。 (b)その役割の人状況を想像し、衣服を通して環境に配慮するとはどういうことかの考えを深めていった。	
14:47	6 服を選ぶときの基準をもう一度考える ◇2で書き出した服を選ぶ基準ランキングを振り返った。 ◇再度ランキングを考え、入れ替えたり追加したりした。	ワークを通して自分の価値観を見つめた。	
14:50	7 ふりかえり・感想共有	「改めて考えることが大切」「原材料の背景まで考えて物を選びたい」「話し合いを重ねればよりよい答えが見つかる。何事もこのように話し合えば社会が変わると思った。」	

●分科会 4 の記録 (B2会場)

テーマ	コミュニケーション	タイトル	外国人は困った人？それとも困っている人？
ねらい	・外国人との共生について考え、相互理解するために何ができるか考える。		
参加者	合計 44 人(内訳:参加者 36 人、提供者 6 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1 アイスブレイキング・自己紹介 ◇左隣を見てその人のことを想像して「好きな色」「子どものころ好きだった遊び」「好きな食べ物」「野望」を書く。 ◇記入した紙をグループで発表、答え合わせをする。(a)	(a)ユニークな想像を紹介し、和気あいあいとした雰囲気 でスタートした。 (a)参加者から「当たりー！」「へえ」という声があがり、引 き込まれている。	
13:46	2 少数派・多数派ゲーム ◇配付されたカードとファシリテーターの指示従い、行動す る。カードには、少数派と多数派に分かれるような指示 がされている。(a) ◇感想をグループで共有する。(b)	(a)グループ 6 人の内、1 人だけ違う行動をとる人がいて、 少し戸惑っている様子。 (b)「そうだったんだ」「なるほど」といったつぶやきがあった。 B のカードを持った人からは「さみしかった」「かなしか った」などの声が上がった。	
13:51	3 地域のゴミ出しについて考えよう ◇自分の役割「外国人」「町内会長」「近所の人」「役所 職員」「関わりたくない近所の人」になりきり、地域のゴミ だしについて意見交換し、1 つのグループが全体へ発表す る【ロールプレイ】(a) ◇与えられた役割を離れ、地域の外国人がどんな気持ち でいるのかを考える。(b) ◇「問題を作り出す原因や背景」「課題解決に役立つこと をグループで紙にまとめ、全体で共有する。(c)	(a)与えられた役を演じ、各グループとも盛り上がっていた。 発表を聞いた別のグループから笑いが起こって場が 和んでいた。 (b)「日本人は心が狭い」「悲しい」「疑われてつらい」「日 本語がわからないのが苦しい」「なんで自分ばかり 責められたのだろう」 (c) 問題を作り出す原因や背景:「外国人に対する偏見」 「コミュニケーション不足」「国に対する差別」「日本人に 余裕がない」「メディアの影響」「知識不足」 課題解決に役立つこと:「地域のルールを伝える」「近 所の人とのコミュニケーション」「シニアの力を活用する」	
14:40	4 外国籍の方に思い当たる問題と問題の原因。 ◇ゴミ問題以外も含めて外国籍の方に思い当たる問題を グループで出し合い、全体で発表する。(a) ◇外国籍の方が日本で暮らす上での問題について書かれ た資料を読む。	(a)抱えている問題:「時間間隔のずれ」「衣食住の違い」 「ピアスがダメ」「ランドセルじゃないとダメ」「騒音」「ル ールの違い」「匂いが気になる」「日本語が読めない」など 問題を作り出す原因:「日本語が分からない」「宗 教」「文化の違い」「メディア」「両者の知識不足」「経 験の不足」「偏見」「思いやり不足」など	
14:46	5 行動計画を立てよう！ ◇外国人の方が暮らしやすい日本をつくるうえで「個人で できること」「地域でできること」「国でできること」をグル ープで模造紙にまとめる。(a) ◇全体で共有、「できること」を確認。(b)	(a)個人:「あいさつ」「優しく教える」「知る」「歩み寄る努 力」「友人をつくる」「外国のことを学ぶ」 地域:「ユニバーサルデザインの普及」「交流の場をつ くる」「進路保障」「まつり」「人材育成」 国:「制度の改革(労働者の受け入れ)」「外国人向 けの困りごと相談を充実させる」「パトロール」 (b)他のグループの意見から新たな発見、気づきを得た。	

●ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。()内は記入者の属性

「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- これほど多くの人が開発教育に情熱を燃やし、研究し、実践していることに、とても刺激をもらった。(教員)
- 若い世代の人達が、柔軟な発想で国際理解のための授業を実践している。(教員)
- 発表者の先生が生きていて素敵だった。(学生)
- 同じ問題意識を持ち、行動している先生方に出会えた。(教員)
- 意識を高く持っている人達との時間、学び、考えのシェアに参加できた。(NPO・その他)
- 「国際理解教育」は難しい教育だと感じていたが、「知り・考え・行動する」の「行動する」の中身が「服を大切にする」や「ご飯を残さない」といった身近なことだ驚いた。もっと身近な話題から始められそうな国際理解教育を見つけられそうでワクワクした。(教員)
- 国際教育には決して難しいことではなく、小学校 1 年生や特別支援の子でも大切なことなのだ発見した。(教員)
- 小学校 1 年生からでも国際教育はできる！（むしろ誰でも？）「やってみよう」と思った。(教員)
- 国際理解教育の観点が様々な教科や活動の中で生かすことができると知った。(教員)
- 総合的な学習の時間外でも、教科の中で国際理解を深める手立てを学んだ。(学生)
- 様々な国の様子を知り、教育の中で子ども達に伝えていく方法を学べた。(教員)
- 実践を参考に、より深い学びを得られる授業に改良したい。(教員)
- 教育を目指した原点が開発教育だった。夢を今一度思い出すことができた。(教員)
- 問題意識を持つこと、解決のために行動することの大切さ。(教員)
- 年齢を重ねてもまだまだ知らないことばかり。たくさんの交流を通して、これから多くのことに協力しようという力をもらった。(教員)
- 肯定的な出会いの手立てを知った。(教員)
- 認め合える意見交流の方法を学ぶことができた。(教員)
- ファシリテーターとしてプログラムを組んで実践している例をたくさん見ることができた。(行政・教育関係)
- 伝えることの楽しさ、奥深さをさらに認識した。(JICA)
- 教師海外研修受講者が現地を視察し、日本の教育に生かしていく姿を見て嬉しく思った。楽しく実践していたのが何より。(JICA)
- 信念、優しい気持ち、他者への理解がある人達の発表が素晴らしかった。幸せな気持ちになった。(JICA)
- 日本も海外も変わらない！日本だから、海外だから、と考えない。本質的には同じ人間・地球人。つながっている！「一緒」という見方で考えていくことの大切さ！（NPO・その他）
- 子ども達への国際理解についての教育を行っている先生がたくさんいることが嬉しい。(NPO・その他)
- ワークショップ 1 つで貴重な疑似体験ができる。(NPO・その他)

「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- 仲間と再会でできて嬉しかった。元気をもらった。(教員)
- 開発教育・国際理解教育を学生に伝えていくために仲間がたくさんいると思えた。(NPO・その他)
- 多くの仲間が教育に熱心に取り組んでいることを知った。(教員)
- 考えや興味、関心がつながっている、広がっていると実感。(教員)
- 初心を取り戻す 1 日だった。(教員)
- また視野が広がった。それこそが、貢献につながると思う。(教員)
- 国際協力や SDGs に関心を持ち、子ども達に広めていこうと活動している仲間がこんなにたくさんいる。活動に可能性を感じた。(学生)
- 指導者研修の内容が子ども達の学びにつながっていく。(行政・教育関係)
- 異文化を知ることは自分の文化を知ること。再発見。(教員)
- 「支援」が一人よがりになってはいけない。現地の人に寄り添って…。(教員)
- 開発教育・参加型は楽しい！いろんな切り口、やり方がある！生徒を成長させる力がある！(教員)
- 実践のレベルが年々あがっている！特に若い先生のセンスは素晴らしい。負けないぞー。(教員)
- 若い人に確実に「社会のために行動するのがよい」と思う心が育っている。(教員)
- 発表している人がとてもハツラツとしていて、何かに挑戦することは人を輝かせるんだと改めて思った。(教員)
- みんなが求めるものがこのフォーラムにある。(教員)
- 教師海外研修がバージョン UP している☆(NPO・その他)

「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 国際理解教育への熱！！(教員)
- 自分を奮い立たせる絶好の場だった。(教員)
- 1 年間たくさん勉強ができ、引き出しが増えた。(教員)
- 仲間と作り上げる楽しさも学べた。(教員)
- 世界の未来のためにがんばる仲間がいることが嬉しい。(教員)
- 実践は実に多様で、それこそ ESD なのだという発見。(教員)
- 昨年知り合った人が発表を聞いてくれた。(教員)
- 卒業生が来てくれた！(教員)
- 「わたしにできるかな…」が「わたしにできた！」になった。(教員)
- どんな教科でも開発教育・国際理解はできる。(教員)
- 国内、海外という考え自体が、当事者意識じゃない。(教員)
- 特支校で国際理解教育をどのように組んでいくのか実践者と話ができた。(教員)
- 自分の団体に興味を持ってくれた人がいた。(NPO・その他)
- 話してみたら他の活動でつながっている人がいた。(NPO・その他)
- 分科会ワークショップで発見や学びを提供できた。→自分もそこから学べた。(教員)
- ワークショップで思ったよりもずっと多くの学びがあった！（NPO・その他）

「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 志を同じくする仲間とのつながりをさらに広く、より強く。(教員)
- 横のつながりを大切にする。そのつながりを続けていく。(教員)
- 海外の問題は特別なものばかりではない。思うだけで終わらず、何か少しでも動く。この考えを持ち続けていきたい。(教員)
- 思っていることを考えるだけでなく、行動に移す!
- 知識を力にしていく。一人ではなく、仲間を作る。(教員)
- 学んだことを発信し続ける。今日学んだこと、生かせることを、自分が発信していく。(教員)
- まず教師が違いを認めることを忘れない。(教員)
- 職場の若い先生に伝えていきたい。子どもだけではなく、先生にも経験と刺激とコミュニケーションが大切ということ。(教員)
- 自分の学校に「開発教育」の視点をアピールする。(教員)
- 世界で起きていることを自分事として考えられるような内容を授業にもっと取り込みたい。(教員)
- 自分ができるところを、まず日々の生活の中でちゃんとやる。(教員)
- 教師海外研修に行ってみよう。きっと現地に行ったからこそ伝えられることがたくさんある。(教員)
- 来年度のこの研修に応募し、メンバーとしてともに勉強したい。今いる学校で、どのように実践し、また継続的に教育していくかを考えたい。(できればたくさんの仲間にもまれて!)(教員)
- 自分もこんな素敵な先生になりたい! そのために学び続けていきたい。(学生)
- 教育現場だけではなく、実生活につなげたい。(学生)
- 教育系の NPO に、今日学んだことを持ち帰る!(学生)
- 授業の中で、参加型を取り入れたい。(学生)
- 仕事につなげていけるブラッシュアップをしていきたい。(行政・教育関係)
- 現場の目線で「押しつけない」協働してプロジェクトを進めていく。(JICA)
- 教育関係だけじゃない横のつながり、多角的視点を持った考え方で国際協力に関わりたい。教育、医療、福祉、環境、全てをつなげて。(JICA)
- 先生方の取り組みを支援する。(NPO・その他)
- 今日で得たヒントを活かして、教師ではないが自分たちで作っていく事業につなげていきたい。(NPO・その他)
- 自分の地元でも国際理解に関するワークショップをやってみよう。(NPO・その他)
- 子どもたちと関わる際は「違い」があることが当たり前で、それを受け入れられるよう促したい。(NPO・その他)
- 気づいた課題意識をいかに絶やさず向き合い、解決のためのアクションをとれる仕組みを作るか、行動していきたい。(NPO・その他)
- このようなたくさんの意見や視野を広げるためにも、気続き参加し、多くの人に伝えていきたい。(NPO・その他)
- このような活動は、いかに広めていくかが大事。自分の体験も、地道に広めていく。(NPO・その他)

「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- 今年行った実践をつなぎ広げる。→カリキュラムシステムの構築、仲間との連携(教員)
- 学内におけるチーム作りが出来上がってきた。それをさらに拡大していきたい。(教員)
- 国際理解教育を実践し続ける。(教員)
- 教材研究や情報収集を怠らない。(教員)
- どの教科でも開発教育の視点は入れられる。(教員)
- 周りの先生を巻き込む(教員)
- めっちゃ発信する!(教員)
- 教師海外研修訪問国の文化を伝えたい。実践したい。(教員)
- 世界のことを知って楽しいと思う生徒を増やしたい。
- 「恥ずかしい」「自信がない」人に一歩踏み出す経験を学校で用意する。後ろに立つ。(教員)
- 参加型学習の無限の可能性を信じて教壇に立ちたい。(教員)
- 分科会で得た気づき(服を選ぶ基準)をこれからも考える。(教員)
- 常に他人を思って行動する。自分がこうしている間、世界で何が起きているのか…、自分はどうか協力できるか…。(教員)
- 当たり前を見つめ直す。(行政・教育関係)
- 今日の学びを教職員研修につなげたい。(行政・教育関係)
- 気になった実践や教材を試してみよう。(NPO・その他)
- 地元で国際理解を深める事業を行いたい。(NPO・その他)
- 同僚、若い先生達に、是非このフォーラムを進めたい。(教員)
- 来年も参加したい! 受講もしてみたい!(NPO・その他)

「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 子ども達と一緒に視野を広げることを取り組んでいきたい。(教員)
- 今、目の前にいる子ども達に、自らを大切に他者を大切にすることを伝えていきたい。未来のために行動していける若者を育てたい。そのために、自分が得た学びを広げていきたい。(教員)
- 受講生同士のつながりをキープ、情報の共有を続ける。(教員)
- 「やってみよう」から「やれそうだ」になる方法・環境の開発。(教員)
- 根本はみんな同じ! 自分、あなた、みんなの幸せのために何かをしていく、そんな想いをみんなが持てる世界にしていきたい。(教員)
- 繰り返し伝えてみる。家族に、職場に、友人に。(教員)
- 国際理解教育に興味のある人をもっと増やしたい。(教員)
- 教科の中で、無理なく、楽しく、より深く実践すること。(教員)
- 今年やったことを来年、再来年とブラッシュアップさせる。(教員)
- ここでゴールではなく、今日もらったたくさんのアイデアや熱意をこれからも授業に入れていきたい!(教員)
- 今年消化できなかったものを来年はやってみたい。(教員)
- 開発教育・国際理解教育って、先生じゃなくてもできるんだよ!! →地域の中にいろんな立場としてそういう人がいれば、その人たちがつながって良い町を作ることができる。それを担える人になりたい。(NPO・その他)
- もっと学びたい!(NPO・その他)

VIII 研修全体のふりかえり・評価

※受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果（回収率97%）を取りまとめた。

■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）や教師海外研修（以下、「海外研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（92%）、「自らの視野や能力を研鑽する」（92%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（79%）が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（87%）、「満足できた」（13%）と回答しており、十分に満足度の高い研修であったといえる【設問2】。

設問1；指導者研修・海外研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	35	92%
2	自らの視野や能力を研鑽する	35	92%
3	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	30	79%
4	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	29	76%
5	世界の現状や日本とのつながりを知る	29	76%
6	その他	4	11%
	全体	38	100%

設問2；指導者研修、海外研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	33	87%
2	満足できた	5	13%
3	ある程度満足できた	0	0%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体（無回答1名除く）	38	100%

■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

受講者の92%が、「受講後（より）関心が高まった」と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問3；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	30	79%
2	受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった	5	13%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	3	8%
4	受講前はあまり関心がなかったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	38	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての理解」したり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よくわかった」と「わかった」を合わせて92%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて95%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問4,5】。

設問4；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりがわかりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よくわかった	29	76%
2	わかった	6	16%
3	ある程度はわかった	3	8%
4	あまりわからなかった+わからなかった	0	0%
	全体	38	100%

設問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	25	66%
2	考えるようになった	11	29%
3	ある程度は考えるようになった	2	5%
4	あまり考えるようにならなかった+考えるようにならなかった	0	0%
	全体	38	100%

その他、地球市民として、具体的に受講者が気づき、考えるようになった主な内容を以下に示す。

設問6；その他、地球市民として、何に気づき、何について考えるようになりましたか。（主な回答内容）

<「知らない」という自覚／「知ること」から始まるという認識>

◇外に目を向ければ向けるほど、中（日本）のことを実はよく知らないということ。

◇何事もまずは、知ることだと感じている。

◇問題は身近にあり、原因が思ったより複雑で、解決方法が簡単ではない。

<自分と世界のつながり／社会問題は他人事ではなく自分事だということ>

◇世界で起きていることを他人事と思わず、人に思いを馳せてみようという意識をもつようになった。

◇自分の生活が世界の貧困や飢餓に影響を与えてはいないか、見直せる点はないか考えるようになった。

◇安いコーヒー、チョコなど、ありふれた食材の中にも世界の貧困とのつながりを感じるようになった。

◇世界で起きていることは遠い国のことでなく、自分とつながりのあることで決して他人ごとではない。

<地球市民という考え方と責任／自分の行動が持つ人や社会への影響力>

◇自分ひとりの行動が、どんなつながりを築き、どんな影響をあたえるのかを考えるようになった。

◇海外国内という捉え方ではなく、同じ地球の上に住む『人間』であると考えられるようになった。

◇自分主体、自国主体ではなく、人間以外の生物も含め、共存していく

◇授業やワークショップの中で、ファシリテーターが人権、多様性、尊重、傾聴の意識で接すること、細かな授業案を立てること、生徒への声かけなど小さなことも、地球を変える小さな一歩であること。

<自ら行動することの大切さ>

◇自分や周りの小さな一歩が平和につながることに気づいた。

◇世界とのつながりを認識し、自分にできることが必ずあるということを考えるようになった。

◇行動変容はまず自分から そして子どもたちから そして子どもたちに関わる大人へ。

◇「自分の行動が世界を変えると信じる」ようになった。

<周りに伝えていく使命感／まわりの人々と課題について対話する大切さ>

◇地域の中で助け合うことの重要性をまわりにどう伝えるか考えるようになった。

◇問題が遠く感じなくなり、知ったことを次に伝える使命感が生まれた。

◇自分が教えている学生・生徒は当然のこと、自分の周りにいる人々（家族を含む）とも国際的な課題について意見交換をすることが大事だと考えるようになった。

◇「日本に住んでいる自分、から地球に住んでいる自分。世界に飛び出していける自分。」という意識を生徒に伝えていきたい。もっと視野を広げさせ、自分の持つ可能性に気づかせたい。

<「与える」のではなく「引き出す」支援／多様な国際協力活動>

- ◇「開発」という新しい技術やモノを導入し、先進国と同じように現地を変えていくための支援を思い浮かべていたが、現地の人々と同じ目線や立場に立ち、「与えていく」ことを基準にするのではなく、現地の人々の力を「引き出していく」ことが求められるのだと強く感じた。
- ◇「誰もとりこぼさない」ために、様々な活動に取り組んでいる方が世界にはたくさんいること。

<ファシリテーターとしてのあり方／授業への参加型の導入の仕方>

- ◇生徒たちの目の前には、見たこともない世界と多くの人たちとの出会いが広がっていて、彼らの中には問題を解決できる可能性があると考えようになった。
- ◇参加型授業で子ども達の可能性が伸びることに気づき、画一的な授業からの脱却を考えた。
- ◇学校現場にいる分、今の生徒が大人になった時の将来のことも見通して考えるようになった。
- ◇想像力をつけ、未来を創造する力をつけるためにどうすればよいか考えるようになった。

<対話と相互理解の大切さ／協同の姿勢>

- ◇対話、相手を知ることの大切さ。
- ◇他者と協同する際には、できるだけ自分の価値観を横に置いて、相手の価値観に寄り添うことが必要であること。

<身近なことと地球規模のこのつながりや同一性／Think global Act local>

- ◇地球規模の課題解決に必要な姿勢は、身の回りの課題解決に必要な姿勢と何ら変わりはないこと。
- ◇世界を変えることはむずかしい。少しずつまずは自分から、ゆっくり自分の周りの世界を変えていく。
- ◇世界の平和が、いま自分が生きているこの生活とつながっていることを実感するようになった。
- ◇まずは身近な人から幸せにしていくことが大切。

<今後につながる問い>

- ◇海外の発展と国内の発展を両立させるにはどうしたらいいのだろうか？例えば、現実問題として欧米の排外主義や右傾化は産業（工場や仕事等）を海外に奪われた（少なくともそう思っている）から生じているし、実際に仕事がなかったり、生活に苦しんでいる人が増えていたりいる。
- ◇みんなが幸せに発展するにはどうしたらいいのだろうか、みんながその能力を生かし、全員の幸福度を上げる社会にするにはどんな社会やシステムがいいのだろうか？自分はどう社会にかかわっていったらいいのだろうか？と考えている。
- ◇それぞれの「幸せ」とは何か。

● 開発教育・国際理解教育の内容理解

受講者が考える開発教育・国際理解教育の範ちゅうは、受講後にその幅が広がり、特に選択肢4「日本の伝統・文化」、選択肢10「地球規模の課題と自分とのつながり」、選択肢11「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」、選択肢12「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」が50ポイント以上高くなっている。研修により開発教育・国際理解教育の幅が広がり、「自分たちの生活とのつながりの中で地球規模の課題を考え、解決する意識を育む教育であること、そのためにはスキルトレーニングが必要であること」といった開発教育・国際理解教育への理解が深まったといえる【設問7,8】。

設問7,8;受講前後に考えていた「開発教育」または「国際理解教育」の教育の範ちゅうはどれですか。(複数回答)

No.	選択肢	受講前		受講後		割合増減
		回答者数	割合	回答者数	割合	
1	外国語教育	14	37%	20	53%	16%
2	異文化理解	34	89%	36	95%	5%
3	国際交流	34	89%	32	84%	-5%
4	日本の伝統・文化	10	26%	29	76%	50%
5	開発途上国の開発	28	74%	34	89%	16%
6	南北問題	17	45%	29	76%	32%
7	国際協力	33	87%	35	92%	5%
8	在住外国人との共生	21	55%	34	89%	34%
9	人権・環境・平和など地球規模で考えるべき課題	29	76%	37	97%	21%
10	地球規模の課題と自分とのつながり	18	47%	38	100%	53%
11	様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成	10	26%	37	97%	71%
12	自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング	7	18%	37	97%	79%
13	その他	1	3%	9	24%	21%
	全体	38	100%	38	100%	-

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の開発教育・国際理解教育の実践時間は、「10～14時間以上」が11人(29%)と最も多く、次いで、「1～4時間」が9人(24%)、「5～9時間」と「20時間以上」が各8人(21%)となっている。10時間以上の受講者が55%と比較的長時間の実践が行われているといえる【設問9】。

前年度との対比では、「前年度より増加した」が32人(84%)であり、大半の受講者が前年度よりも多い時間の実践をしている【設問10】。

増加した理由として、「開発教育・参加型のノウハウを身につけ意欲が増加」「指導者研修および海外研修の学びの還元と使命感」が多く述べられており、本研修の受講が、開発教育・国際理解教育の実践時間を前年度より増加させた大きな契機になっているといえる【設問11-1】。一方、実践時間が減少したのは、担当する教科上の制約や実践環境の変化が主な理由となっている【設問11-2】

設問9; 開発教育・国際理解教育の延べ実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～4時間	9	24%
2	5～9時間	8	21%
3	10～14時間	11	29%
4	15～19時間	2	5%
5	20時間以上	8	21%
	合計実践時間数	463	時間
	1人当たり平均実践時間	12.2	時間/人

設問10; 前年度に比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	前年度より増加した	32	84%
2	前年度と変わらない	2	5%
3	前年度より減少した	4	11%
	全体	38	100%

設問 11-1；実践時間が増加した理由は何ですか。（主な内容）

<開発教育・参加型のノウハウを身につけ意欲が増加>

- ◇研修を通して授業の作り方や伝え方を学んだから。 ◇教材との関連付けができた。
- ◇研修で学んだことや手法を使って実践したいという意識が高まり、生徒たちに伝えたいと思ったから。
- ◇研修をへて、自分の目で見て、体験し学んだことを自分事として伝えられるようになったため。
- ◇研修を通して、伝える方法が分かったから。研修を通して、伝えたいことが出てきたから。
- ◇教材を知ったことと、あらゆる問題に関連づけられることを知ったから。

<指導者研修および海外研修の学びの還元と使命感>

- ◇自分が教師海外研修に行かせていただけたことがきっかけとなり、単元を組んで実践を行えたから。
- ◇実際にエチオピアに行き、現地の方々の生活や生き方を見て刺激的だったから。
- ◇教員海外研修に参加し、教材を生かす時間を確保できたため。
- ◇エチオピアに行き、5年生にエチオピアを題材に外国語で異文化理解を行った。
- ◇自分が教師海外研修に行って学んだ事を生徒達へ伝えることは、実践前に予想していたよりも遥かに難しかったため、試行錯誤しながら授業展開していった。そのため実践時間が増えた。
- ◇研修の実践発表のため、自分自身が実施するための時間を捻出しようと努力したため。
- ◇報告会があるので何としてもしなければならぬ状況を作ることができた。

<立場が変わり機会が得られた／時間の捻出の自己努力>

- ◇総合的な学習の時間の担当となったから。 ◇理科ではなく社会科を担当することになったため。
- ◇担当学年の総合的な学習の時間のテーマとして、国際理解が示されているため。
- ◇学級経営が難しい学年から変わり、余裕ができた。
- ◇チームムティーチングで授業を行う上で、周囲の先生方の多大なる協力を得られたから。

<多様な科目に導入または教科横断型による取り組み>

- ◇様々な学年、様々な教科で実践したため。
- ◇道徳の異文化理解、勤労、人権などを、エチオピアを題材に取り上げて行った。
- ◇昨年度は総合的な学習の時間のみで実施したが、本年度は教科（保健体育）でも実践した。
- ◇保育園児には多文化の視点で絵本の読み聞かせや福笑い等々の活動で多文化の視点を入れた。

設問 11-2；実践時間が減少した理由は何ですか。（主な内容）

- ◇職場が変わった。 ◇今年度の学年の都合。 ◇進路学習が優先された。 ◇国際理解教育担当から外れた。

● 実践内容

前年度に比べて実践内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」50%、「深まった」26%、「ある程度深まった」24%との回答が得られ100%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問 12】。

その理由は、「研修を通して、プログラムの作り方や参加型の導入のスキルの習得」や「海外研修や指導者研修で得られた教材・情報・学びの効果」といった研修の効果といえるもの、「児童・生徒主体の開発教育・国際理解教育の授

設問 12；前年度に比べて本年度の実践内容はどのようになったと思いますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	19	50%
2	深まった	10	26%
3	ある程度深まった	9	24%
4	あまり深まらなかった + 深まらなかった	0	0%
	全体	39	100%

業を行うことでの児童・生徒の変化」といった実践してみて感じた効果といえるもの、「仲間からの刺激・協働でのプログラムづくり」といった指導者間の連携の効果といえるものなどがあった【設問13】。

設問13；実践内容が深まった理由は何ですか。

<研修を通して、プログラムの作り方や参加型の導入のスキルの習得>

- ◇アクティビティの種類や取り入れ方を学び、参加型授業を考えることができた。
- ◇ファシリテーションの手法、グループワークのやり方などについて研修で学ぶことができた。
- ◇バックグラウンドになる知識や具体的な手法を、体系的に学べた。
- ◇実践内容や手法をたくさん学んだことで、やってみたいという気持ちが高まった。
- ◇情報を「教える」だけでなく、子ども自身が気づき学び合う場面を設定するスキルが身についた。

<海外研修や指導者研修で得られた教材・情報・学びの効果>

- ◇教師海外研修を通して、現地で収集した物、情報が教材となり、体験活動を提供できた。
- ◇エチオピアから持ち帰った生きた教材の活用。
- ◇教師海外研修をへて、その国の空気感や人々の声・表情を子どもたちに丁寧に伝えたいと感じたため。
- ◇実際に自分が体験してきたことを伝えているので、より詳しく伝えられたから。
- ◇JICA 隊員から直接伺うことができた、対立の解決方法による、より具体的な授業の組み立て。
- ◇教師海外研修での異文化の体験による、実感を込めた授業づくり。
- ◇研修で新たな教材や参考資料に触れることができた。

<児童・生徒主体の開発教育・国際理解教育の授業を行うことでの児童・生徒の変化>

- ◇「肯定的な出会い」を大切にすることで、生徒の興味関心が高まり活動する場が活発になった。
- ◇実物や写真、動画などを持っているため、視覚的に伝えることができた。
- ◇今までとは視点の違う授業ということで、生徒たちも色々なことを考えるきっかけになったと思う。
- ◇体験を織り交ぜ、映像なども取り入れ、参加型の学習を具体的に継続的に実践した。

<仲間からの刺激・協働でのプログラム作り>

- ◇研修で出会った仲間から刺激を受け、いろいろなことをしてみたいと思った。
- ◇出会った仲間が行った実践や、教えてもらったことを実践してみて自分なりの手ごたえを感じた。
- ◇東海地方の現場教員がとても熱い志をもって実践している姿に出会えたことが深い学びになった。
- ◇プログラムを協力して作ることで、話し合いをすることで、力が付いた。
- ◇フォーラムのワークショップに向けて同じグループで工夫改善する過程が大きな学びとなった。
- ◇実践のためのアドバイスを十分にもらえたから。

<リピート参加による学びの深まり>

- ◇2年続けて受講し、自分の中でイメージが湧くようになり、多様に手法を活用できるようになった。
- ◇前回の実践の反省を生かすようにプログラムを組んだ。 ◇学び直しができた。
- ◇昨年度は別の本校教員が実践を行っており、昨年度からかなり充実した内容だった。

<教科教育への導入／教科横断型の連携>

- ◇総合と教科とを連携することで見えてきたものもあった。 ◇教科の授業で取り組めることが分かったから。
- ◇普通の授業の中で取り扱ったこと。単元構想を考え、実践できたこと。手法を構築できたことに意義あり。

<目的の明確化>

- ◇内容をきちんと考えてプログラムを練ったため。 ◇開発教育についてより深く考えるようになったから。
- ◇使命感を持ったこと。 ◇実践を通して、目指すべき子どもの姿が明確になったから。

● 参加型のスキル

指導者研修は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを3つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

1つ目の指標「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」8%「作れるようになった」26%、「ある程度作れるようになった」61%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問 14】。

2つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」16%「使えるようになった」34%、「ある程度作れるようになった」50%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問 15】。

3つ目の指標「理解・実践した参加型の手法」については、「アイスブレイキング」84%、「ブレインストーミング」74%、「フォトランゲージ」68%、「派生図・因果関係図」66%、「対比表」58%、「ロールプレイ」53%といった主要な参加型手法については半数程度以上の受講者が実践している。一方、「指標づくり」42%、「ランキング」37%の活用はやや低くなっており、手法により実践度に高低差が見られた【設問 16】。

その他、受講者が「場づくり、学習者の主体性、学習者同士の学び合いを進めるファシリテーターとして、あなたが心がけたり、実践したりしたこと」に関する主な回答は、次ページのとおりである。

設問 14；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	3	8%
2	作れるようになった	10	26%
3	ある程度作れるようになった	23	61%
4	あまり作れるようにはならなかった	2	5%
5	作れるようにならなかった	0	0%
	全体	38	100%

設問 15；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	6	16%
2	使えるようになった	13	34%
3	ある程度使えるようになった	19	50%
4	あまり使えるようにはならなかった	0	0%
5	使えるようにならなかった	0	0%
	全体	38	100%

設問 16；次の参加型の手法のうち、進め方を理解し、実践した手法はどれですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合	No.	選択肢	回答者数	割合
1	アイスブレイキング	32	84%	6	ロールプレイ(なりきり紹介)	20	53%
2	ブレインストーミング	28	74%	7	カード式整理法(KJ法)	18	47%
3	フォトランゲージ	26	68%	8	指標づくり(○箇条づくり)	16	42%
4	派生図・因果関係図	25	66%	9	ランキング	14	37%
5	対比表	22	58%	10	その他	4	11%
					全体	38	100%

設問 17; 場づくり、学習者の主体性、学習者同士の学び合いを進めるファシリテーターとして、あなたが心がけたり、実践したりしたことを教えてください。(主な内容)

<安心感のある場づくり/アイスブレイキング>

- ◇考えたことや思ったことを発言しやすい雰囲気づくりを心がけ、みんなが意見を言えるように。
- ◇どんな考えの人がいてもいいということを肯定するような話し方。
- ◇間違えても大丈夫、失敗しても大丈夫な雰囲気づくり。 ◇グループワークにおけるルール作り。
- ◇参加者が自分自身を出すことのできる『場』づくり。
- ◇既に人間関係のできあがっている場合、円滑な話し合いができるメンバーでグループを作る。
- ◇アイスブレイキングを兼ねたグループチェンジができるようにも工夫した。
- ◇特定の人がいつも同じグループにならないよう、いろいろな人と触れ合えるような環境を作る。

<明るい表情/受容/多様性尊重>

- ◇明るく元気よく楽しくファシリテーターを務める。 ◇受容的な態度(笑顔、言葉がけ)
- ◇参加者のどんな反応や発言も肯定的に受け入れ、言葉にしてフィードバックし、全体で共有する。
- ◇「へえ」「すごい」等の心が動く自然なつぶやきができるように。 ◇ちがいを楽しむ。

<コミュニケーションの活性化>

- ◇参加者同士が互いに関わり合って活動できる場づくり。 ◇共感的姿勢を持つことの大切さを伝える。
- ◇一人ばかりが話すのではなく、傾聴を心掛けるよう伝える。
- ◇正解・不正解のないこと、考えることの楽しさや重要性の投げかけ

<対等・平等/信頼>

- ◇グループ内で一人一人が役割を持って活動できるように。 ◇平等で対等に意見を出す機会を作る。
- ◇参加者を信じ、世界、人、平和、今、未来に思いを馳せる。
- ◇時間の管理をし、テンポよく、またはじっくりと行えるようにした。

<参加者主体/ファシリテーターが話す時間<参加者の活動時間>

- ◇声をかけすぎず、参加者主体の活動の邪魔をしない。
- ◇口頭の説明はなるべく端的に行い、参加者の体験活動の時間を多く確保する。
- ◇ファシリテーターが語りすぎることがないように、アクティビティからの気づき、参加者同士の自然なコミュニケーション、文章化などを通じた自己の振り返りなど参加者の主体性を第一に。

<視覚的教材やハンズオン/調べ学習/リアルな教材>

- ◇対話や思考の材料として写真やイラストなどの視覚的支援を多用する。
- ◇知識や情報を教え込むのではなく、グループで話し合い予想・想像したり調べたりする時間も。
- ◇本物(課題の当事者、国際協力を行っている方)に出会う機会を設定した。

<適材適所で参加型手法を活用>

- ◇ギャラリー方式を取り入れることで、参加者各々の考えを共有する場をつくった。
- ◇やったことない手法でも、今回の参加型ワークショップでうまくいったんだから、怖がらないで、やってみよう! うまくいくはず! 成功するはず、と挑戦してみた。

<「考える」時間>

- ◇自分で考え、発信することの重要性の投げかけ。 ◇考えるプロセスを大切にする。
- ◇自分なりの考えを持ち、それを交流し合える時間をとる。
- ◇誰かの言葉を借りるのではなく、自分の言葉で喋るように心掛ける。

<問いかける／引き出す>

- ◇参加者が自発的に気付き、自分の考えを引き出すこと。
- ◇参加者が進んで課題に取り組むための発問と声掛け。
- ◇児童生徒の互いの受容感、意見の多様性や深く志向を再構築する課程が学習にあるよう心がけた。
- ◇参加者をコントロールしないように、声かけ、発問、ワークシートを工夫。

<事前準備など>

- ◇無理に参加を強要せず、いつのまにか参加しているプログラムの作成。
- ◇計画的に、十分に、事前準備する。 ◇参加者主体とした学びにするプログラム案作成。
- ◇参加者の興味関心から広げる。 ◇簡潔に明確に指示を出す

■ 学習者の変化や周りへの波及効果について**● 学習者の変化**

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の98%が学習者のより良い変化を実感することができている【設問18】。

より良い変化の中身については、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」61%、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」61%、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」53%、「自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった」50%が上位で50%を超えている。また、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」47%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」39%、「自らの生き方や共生について考えるようになった」37%といった変化の実感があった受講者も1/3以上となっている。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問19】。

設問18：開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	11	29%
2	変化があった	11	29%
3	ある程度は変化があった	15	40%
4	あまり変化はなかった	1	2%
5	変化はなかった	0	0%
	全体	38	100%

設問19：学習者にどのようなより良い変化がありましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	23	61%
2	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	23	61%
3	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	20	53%
4	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	19	50%
5	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	18	47%
6	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にすることを意識が高まった	17	45%
7	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	15	39%
8	自らの生き方や共生について考えるようになった	14	37%
9	その他	3	8%
	全体	39	100%

● 開発教育・国際理解教育以外の活動への波及

受講者の95%が開発教育・国際理解教育における参加型の手法や考え方何らかの活動に取り入れている。具体的には、「学級の決め事に取り入れた」34%、「コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた」34%、「研修に取り入れた」26%、「ミーティング・会議に取り入れた」11%となっている【設問20】。

設問20；参加型の手法や考え方を、自分の活動に関係することに取り入れましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	学級の決め事に取り入れた	13	34%
2	コミュニティづくり(学級・地域)に取り入れた	13	34%
3	研修に取り入れた	10	26%
4	ミーティング・会議に取り入れた	4	11%
5	その他	10	26%
6	どこにも取り入れていない・無回答	2	5%
	全体	38	100%

● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は全員であり、全受講者合計で743人、1人あたり約20人に伝えたとしている。このことから本研修は受講者により他の教職員への波及効果も得られていることがわかる。その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が55%と一番多く、次いで「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」47%、「研究発表(公開授業など)で伝えた」47%、「共同で教材を作成する際に伝えた」32%となっている【設問21】。

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「とても理解している」、「理解している」、「ある程度は理解している」を合わせて82%と、多くの受講者は周りの理解のもと実践活動ができている。その一方で、19%の受講者は理解が得られていない環境で実践を余儀なくされているという実態もある【設問22】。

設問21；所属している学校や団体において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	21	55%
2	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	18	47%
3	研究発表(授業公開など)で伝えた	18	47%
4	共同で教材を作成する際に伝えた	12	32%
5	その他	6	16%
6	どこにも伝えていない	0	0%
	全体	38	100%
	伝えた人数合計	743	人
	1人あたり平均	19.6	人/人

設問22；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても理解している	8	21%
2	理解している	14	37%
3	ある程度は理解している	9	24%
4	あまり理解していない	6	16%
5	理解していない	1	2%
	全体	38	100%

● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一つとして行っている「JICAが直接学習者に対して教授する国際協力出前講座、JICA施設訪問プログラム等(直接提供事業)」に対し、本研修は、養成された開発教育を進める中核的な指導者が研修で得た知識や能力を生かして、自らの現場で多くの学習者に対して継続的に還元することが期待されている。

研修受講者の実践実績から、直接提供事業の場合と比較した本研修による還元効果を計算すると、下記のとおり単年度当たり 12.2 倍となった。さらに、継続年数を加味すると、還元効果は 20 倍にも 30 倍にもなると考えられる。このほか、研修受講者は、研修で得た知識や能力、自らの実践などを他の指導者に伝達しており、そのことによる一定の還元効果も見込むことができる。

これらのことから、直接提供事業と比較して、本研修による学習者への還元効果は単年度実績として 15.7 倍、複数年、他の教職員への波及効果を加味すると、より多くの還元効果があるといえる。

◇研修受講者による延べ還元量（2017 年度）＝46,937 人・時間／年
※（実践した児童・生徒数×実践時間）の 38 人分の合計
◇研修で受講者に対して行った還元量＝開発教育指導者研修（実践編）受講者数 38 人×研修時間数 33 時間＋教師海外研修受講者数 16 人×研修時間数 102 時間（国内 22 時間＋海外平均 8 時間×10 日）＝2,985 人・時間／年
◇還元効果（倍）＝46,937 人・時間／年÷2,985 人・時間／年＝約 15.7 倍

● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1 年間の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワークは、すべての受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」100%、「実践報告フォーラム参加者」45%、「実践を通じたネットワーク」13%となっている【設問 23】。

設問 23；1 年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	38	100%
2	フォーラム参加者とできた	17	45%
3	実践を通してネットワークができた	5	13%
4	その他	3	7%
5	できなかった	0	0%
	全体	38	100%

● JICA 中部の開発教育・国際理解教育に関する支援メニューの活用度

受講者の JICA 中部の開発教育・国際理解教育に関する支援メニューの活用度は 95% と高い。

活用度が高いメニューは、「開発教育・国際理解教育に使える教材の提供・閲覧」58%、「JICA ホームページ等の情報」53%、「なごや地球ひろばで開催する JICA 中部主催講座・イベント」29%、「なごや地球ひろば訪問プログラム」26%、「国際協力出前講座」26%、「各県で行う開発教育指導者研修（初級編）」26%などとなっている【設問 24】。

設問 24；JICA 中部の開発教育・国際理解教育に関するメニューのうち、これまで活用したり、参加したりしたものはどれですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育に使える教材の提供・閲覧	22	58%
2	JICA ホームページ等情報の活用	20	53%
3	なごや地球ひろばで開催する JICA 中部主催講座・イベント	11	29%
4	なごや地球ひろば訪問プログラム	10	26%
5	国際協力出前講座	10	26%
6	各県で行う開発教育指導者研修（初級編）	10	26%
7	中学生・高校生エッセイコンテスト	9	24%
8	JICA 中部メールマガジン「なごや地球ひろば便り」	4	11%
9	その他	3	8%
10	活用・参加していない	2	5%
	全体	38	100%

■ 全体を通して

● 最も大きな学びや変化

「受講者の1年間の研修を通じた最も大きな学びや変化」についての回答は、以下のとおりである【設問 25】。

設問 25；1年間の研修を通して、あなたの最も大きな学びや変化は何でしたか？

<学ぶこと・知ることの楽しさ>

- ◇何より「学ぶことは楽しい」と身をもって感じた。1人で学ぶより、仲間と話して、自分自身の考えを深めていくこと、また仲間の考えから新しい気づきを得ることができた。自分が楽しいと感じた学びを生徒にも伝えたい！という思いから、授業を考えるのが楽しくなった！
- ◇自分自身が知らなかった知識や発見がたくさんあった。元々開発教育に興味はあり、言葉だけは知っていたものも、実際それがどんなものなのかということまで知らなかったので、学びは多かった。
- ◇エチオピアでは、女性の社長がいて、ドルゼ族の観光はシステムティックであった。ネットで世界の情報が入るが、やはり、現地でしかわからないことがある。

<教育の大切さ／教育者の使命>

- ◇悲観的にならず、未来を信じて前向きに取り組むことの大切さ。教育の大切さ。
- ◇研修仲間とのつながりが深まったことや実践をしてみることで、もっと子ども達にいろんなことを伝えていきたいという気持ちが芽生えた。
- ◇教師という職業は、国際協力の種を撒くことができる職業だと思うようになった。
- ◇地球人として自分にできることを行動に移している人がこんなにもいたんだと知れたこと。そして出会った人みんながとても熱く、自分なりの使命を持っていた。私は教師として、自分自身が学び、感じ、経験したことを生徒に伝え、それをきっかけに生徒自身が自分の役割に気づいていけるようにしたい。
- ◇一歩踏み出して自分が変われば、世界も変えられること。
- ◇争い、憎しみ等の負の感情を解決手段は、お互いを知り、対話することから始まる。
- ◇平和は自分や周りの小さな一歩から始まると分かりました。そして、自分の経験や想いを伝えることの大切さを実感しました。
- ◇グローバル・イシューに対して、私実践しなくては、発信しなくては、という使命感を感じるように。

<身近なところから始まる開発教育／開発教育の範疇>

- ◇開発教育・国際理解教育は身近なことから始められる教育だと気づき、これまで行ってきた授業と結び付け、発展させて行うことができた。
- ◇「世界を変える」ことよりも「自分を変える」ことをまず考えるようになった。
- ◇あらゆる分野が国際理解教育につながることを知り、中まで進めていくことが大切だと学んだ。
- ◇国際理解教育、開発教育は、総合学習だけでなく、教科教育や学校生活のいたるところで、いかせるものだと感じるようになった。「学ぶ」ことに対する意欲の喚起をより大切に考えるようになった。

<「肯定的に出会うこと」「自己受容・他者受容」の意味と意義>

- ◇誰かのことを心から想い、行動し、誰かが笑顔になると自分も心から温かい気持ちになるとを学んだ。
- ◇「肯定的に出会う場」の絶対的な安心感の中で、自分自身の生き方考え方を表現していけることが有難かった。職場でも、「ここで言わねば！」と発言ができるようになり、色々な話をシェアしやすくなった。
- ◇自分とちがうものや自分が変わっていくことを、楽しくおもしろく受け入れられるようになった。
- ◇生徒を信じてプログラムを投げかけてみることの大切さ。

＜参加型手法の効果の実感＞

- ◇参加型の手法を学べたことで、自分の授業づくり、授業の進め方を見直すことにつながった。
- ◇参加型手法を用いて地球的課題をテーマに英語の授業を進めたが、英語教育の視点からも国際教育の視点からも効果が期待できることがわかった。
- ◇アクティブラーニングの手法により、より実感し、自分事として考えられる。
- ◇様々な手法を使うことで学びが深まり、もっと伝えたくなった。

＜他人事が自分事に＞

- ◇世界で起きている問題に対して、自分事として捉えることが多くなった。
- ◇課題の原因をつくりだす自分、解決のために動き出せる自分を自覚できた。地球市民としての当事者意識をもてたことが一番の変化。同じ地球にある課題に思い馳せ、平和な世界を願う心を根本にもつことができるようになった。

＜同じ志を持つ仲間がいることの喜び・刺激＞

- ◇開発教育やESDは現場ではなかなか浸透しないことへの嘆きに近いものを感じていたが、意識や関心を同じくする人がこんなにもたくさんいたということへの喜びが大きかった。
- ◇意欲的な先生方の醸し出す前向きなエネルギーに触れ、教師のあり方が生徒へも影響すると感じた。
- ◇自分のやりたいことは間違っていない！仲間がたくさんいてみんな頑張っている！ことが分かった。
- ◇一生涯付き合っていける大切な仲間が得られたこと。とことん学び合う中でそうなっていったこと。

＜研修リピートの効果の実感＞

- ◇今回二回目の研修だったが、前回より余裕をもって（見通しをもって）参加できたと思う。
- ◇同じ学校から複数で参加できたことで、学校内で実践を行うときにも一緒に相談したりしながら行うことができた。また、いいと思える研修やイベントなど臆せず同僚に声をかけられるようになった。

● 研修で得られた気づきや学びの今後に活かし方

研修で得られた気づきや学びを今後どのように生かしていくかの意見は以下のとおりである【設問 26】。

設問 26；具体的にどのように活かしていきたいと考えていますか。

＜クラスづくり、多様な教科に参加型と開発教育を導入還元＞

- ◇自分のクラス、そして学年、学部、学校とじわじわと国際理解教育について広めていけたらと考える。特別なことではなく、日々の実践の中に少しずつ取り入れてみたい。
- ◇授業実践はもちろん、学年経営や学校経営にも、研修で得た知見はたくさん使える（参加型手法によるチームビルディングや支援の仕方など）。
- ◇参加型の授業をさらに充実させ、子供たちが主体的に学べるように働きかけていきたい。
- ◇他教科や授業時間外で、開発教育で学んだ手法を生かしていきたい。
- ◇英語を担当しているが、『言語』は世界とつながるツールでもあるので、参加型を取り入れたい。
- ◇各種研修事業などで参加型を取り入れられる場合は積極的に役立てたい。
- ◇子どもたちが世界に目を向け、自分にできることを考えられるよう刺激を与える授業をしたい。
- ◇より複雑化していくであろう社会の中で、子どもたちが自分の考えをもち、生きがいをもって人生を歩んでいけるような、きっかけとなる学びを提供したい。
- ◇今年度は総合的な学習の時間で実践することができたが、次年度以降、開発教育・国際理解教育として与え

られる時間がない中、各教科や道徳◇特別活動の中で、どのような実践ができるかが大切であるとする。教科や道徳、特別活動、さらには時間外の教育活動の中で、どのように実践できるかを模索していきたい。

＜更なるブラッシュアップ／継続と定着＞

- ◇校内の年間計画の中に位置づけ、定着・継続性を図る。
- ◇今回学ぶことのできたファシリテーターの役割、参加型の教育の手法をまずは自分のものにするために、授業で取り入れていく。自分なりのアレンジなどもしていけるといい。
- ◇学校現場で取り入れていきたいと感じ、実践力を養うためにさらに自分自身の学びを継続していけたらと思う。そして身近な同僚といっしょに取り組んでいけるのが夢です。
- ◇肯定的に出会うという考え方について学び、自身の人生で失敗したり苦難にあったときに、肯定的にとらえる考え方をしていこうと思う。
- ◇これからも、積極的に様々な研修に参加し、視野を広げていきたい。

＜一緒に取り組む仲間づくり＞

- ◇仲間を増やし、実践を学校全体に広げる。
- ◇自分からも周りに広めていくことをして、いろんな人を巻き込んでいきたい。
- ◇職場（中学校）で、そして職場の地域でひとりでも多くの先生が、このような研修に参加できるように、まずは、お声がけから始め、共に学び実践の輪を広げていきたい。
- ◇「早く行きたいなら一人で行きなさい、遠くへ行きたいならみんなで行きなさい」。もっともっと広げて、みんなと一緒に開発教育・国際理解教育をしたい。

＜積極的なコミュニケーションと関係づくり＞

- ◇同僚とのコミュニケーションを積極的に取ることを心がけたい。自分の中だけの決めつけた見方を改めて、対話を通して相手を知ろうとすることから始めようと思う。
- ◇なかなか校内での授業実践が難しいが、学校生活の中の、ごくごく小さなことも「開発教育」と思い、子どもへの対応、外国人保護者への対応、声かけ、など意識してやっていきたい。

＜出会った仲間と「つながり」を継続／情報共有＞

- ◇できたつながりを大切にしたい。
- ◇出会った先生方と連絡を取り合いお互いに高めていけるような関係を作る努力をしたい。
- ◇出会えた仲間を大切に、これからも情報や方法を共有していきたい。

＜セルフエスティームの育成＞

- ◇勤務校の生徒たちの多くは、自分自身のことを「何もできない」「誰も認めてくれない」と捉えていて自分の殻に閉じこもりやすい傾向を持っていると感じる。そのような生徒たちに、「肯定的な場」の心地よさを知ってもらいたい。そのために、研修で私自身が感じた安心感を渡せる場を、学校生活の中に作っていききたい（現在、「すべての人と肯定的に出会う！放課後ワークショップ」を思案中）。

＜共生のまちづくり＞

- ◇今就職活動中で市役所を目指しているので、共生のまちをつくれるようがんばりたい。

■ 研修・実践報告フォーラムをより良くするための提案

● 開発教育指導者研修(実践編)をより良くするための提案

主なものは以下のとおり。

<今のままで>

- ◇他の研修に比べ、本研修の内容の充実度を実感する。
- ◇前回の研修記録がとてもありがたい。アクティビティの内容、ファシリテーターのコメントも細かく財産になるため、ぜひ継続してほしい。
- ◇深い洞察力と知識に裏打ちされた能力の高いファシリテーターによって受講者たちの気付きも学びも深まったので引き続き同じファシリテーターが担うのがよい。

<研修の内容>

- ◇SDGsを「ものさし」にし、扱うテーマが分かるようにすると全体像が見えやすくなる。
- ◇学習指導要領にある目標に照らし「社会科5年の〇〇という單元ではこの手法が使える」というように授業ですぐ使える参加型手法を学ぶ機会になるとよい。
- ◇研修で扱う内容を少し減らして、1つ1つの理解度をあげるような進め方だとよい。
- ◇社会的な背景・歴史を知らないとできないアクティビティは考えるのが難しかった。既知の情報が少なくてもできるワークショップの方が応用できてよい。

<9月から1月>

- ◇9月以降フォーラムのワークショップに向けて集まりが持てたことがよかった。
- ◇9月～1月に、ワークショップ担当者以外も集まるとよい。
- ◇11月くらいにもう一回あるといい。
- ◇実践している途中で、ウェブ上で教材や授業案をもっとシェアできるしくみがあるとよい。
- ◇受講者の先生の授業を見る機会や案内があるとよい。

<受講者属性>

- ◇教員ではない受講者が1割以上いると学びの幅が広がる。
- ◇国際協力系のNPOスタッフの人、学生、一般の受講者が増えるとよい。
- ◇大学教員、幼稚園教師・保育士など子どもや学生に関わる異校種の人々がもっと参加できるとよい。
- ◇受講するたびに良くなっているので、何度でも参加できるようにしてほしい。

<受講者同士の交流>

- ◇一人一人の先生方ともっともっとゆっくりお話がしたかった。
- ◇何度も同じグループになる方と全くグループにならない方の差ができないようになるとよい。
- ◇後半の研修の際にそれぞれがこれまでに実践していることをシェアできる機会があるとよい。
- ◇指導者研修の修了生同士のつながりの場を設けるとよい。

<その他>

- ◇使用する教材が販売されるとよい。
- ◇他県で行われている同じような研修との連携があるとよい。

● 実践報告フォーラムをより良くするための提案

主なものは以下のとおり。

<実践報告ポスターセッション>

- ◇実践内容を多く知ることができたが、この実践を通して子どもにどう変化があったか、どのような成果があったかということまで発表している方は少なかった。研修の中で、成果を「検証」する機会をもち、検証方法を学ぶ機会があると、ポスターセッションの際にも報告でき、開発教育・国際理解教育の成果を伝えられ、参加者の期待が高まり広がりも増すように思う。
- ◇時間的に不可能だと思いますが受講者全員のポスターセッションを見たかった。
- ◇自分と同じような内容の実践が前日・当日ともに聞けなかった。似た実践への配慮があるとよい。
- ◇受講者同士、実践を見合う時間がもう少しあれば、次年度の実践の参考になる。
- ◇受講者同士だと聞きたい実践をもっと聞けるような形にするにはどうしたらいいか。
- ◇掲示した状態で受講者同士の発表の時間を前日に取ると発表の仕方や雰囲気がかめた気がする。
- ◇どの教科で実践したのかも一覧に書き加えるとさらに選びやすいと思う。
- ◇できれば段ボール紙以外のボードだと嬉しい。
- ◇B会場は床にも展示できたがA会場が狭そうだった。
- ◇他の発表者の声が聞こえなくなるので、音を流すなら小さめにする旨周知があるとよい。

<実践体験ワークショップ>

- ◇教員向けのフォーラムということであれば校種別のワークショップがあるとよい。
- ◇誰かの実践の中の手法（アイデア、授業）を実際にみんなで体験してみたい。
- ◇タイトルだけでは参加を決めるのが難しいため、代表者の簡単なコメントがあるとよい。

<教師海外研修報告>

- ◇教師海外研修の報告では、この研修でないと学べなかったこと、この研修だからこそ学べたこと、この研修の魅力についてもっと詳しく伝えられると良かったと思った。「学んだこと」だけでなく、「どう学んだか」を参加者の方に伝えられるともっと良かった。

<フォーラム内容の共有>

- ◇遠方の人や他のJICA拠点の人のためにライブ配信とかあったらいい。
- ◇全員のポスターセッション発表を録画して、DVD-ROM等にまとめ後日郵送、あるいは編集したものをネット上に公開してもらえるとありがたい。
- ◇実践者の許可を得られた教材については、共有できるような仕組みがあるとよい。
- ◇フォーラム参加者の感想をフォーラム終了後にすぐに共有されるとよい。

<参加者属性>

- ◇リピーター以外の参加者を増やす。 ◇教育委員会等に働きかける。

<参加者・受講者の交流>

- ◇お互いの連絡先がすぐに交換できる手段として、名刺持参をアナウンスするとよい。
- ◇一般の参加者も打ち上げに参加するとより交流や広がりができるかもしれません。

<開催日程>

- ◇第4回指導者研修の翌日にフォーラムという日程は準備・イメージができてよい。ただ2月はテストや成績入力の時期と被り苦しいので、卒業式が終わる3月中旬～下旬に時期を設定してはどうか。

